池尻遺跡

倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告　第6集

倉敷埋蔵文化財センター

1997.3

序

瀬戸内海のほぼ中央に位置し、温順な気候に恵まれた児島は、現在では半島となっていますが、中世頃までは文字どおり吉備の穴海の前面に横たわる大きな島でした。

吉備の児島は、大陸と大和を結ぶ瀬戸内海の要衝として重要な位置を占め、いわば吉備の国の玄関口として、吉備と大和の政権と深い関係を保ちつつ、歴史の上にその名を刻んできました。このことは、文献のみならず考古学上の数多くの遺跡の存在が物語っているところです。

今回報告いたします池尻遺跡は、こうした児島に点在する多くの弥生時代の遺跡のひとつで、製塩に関係する遺跡との見方もあり、以前から注目を集めている遺跡です。

このたびの発掘調査は、児島上の町保育園の園舎改築に伴い実施したもので、園舎部分とプール部分とに分けて行われました。遺跡自体は、昭和43年の園舎建設時に発見された小規模なもので、その際の工事によりほとんどが消失したと考えられてきました。しかしながら、今回の調査により新たに遺跡の広がりが確認されるとともに、弥生時代の土器をはじめとして多くの貴重な資料を得ることができました。

この報告書は、こうした遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。本書が今後の文化財保護・保存に活用されますとともに、学術研究のための基礎資料として、また郷土の歴史研究の資料として、いささかなりとも役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査をはじめ出土資料の整理に至りますまで、ご指導ご協力を賜りました関係各位に対しまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成９年３月31日

倉敷市教育委員会
教育長　山田錦造

例　言

1．本書は、市立上の町保育園改築工事に伴い発掘調査を実施した、倉敷市児島上の町字積泉に所在する池尻遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、倉敷埋蔵文化財センター学芸員　福本　明・鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二・片岡弘至が担当し、中野倫太郎がこれを補佐した。現地調査は北区と南区に分けて行い、1994年６月11日～11月25日と1995年３月８日～４月５日にかけてそれぞれ実施した。

3．本書の執筆は、Ⅲ－第２節を福本、他を鍵谷が担当し、編集は鍵谷が行った。なお、Ⅲ－第２節の中世土器については小野、Ⅲ－第３節の石器については藤原がそれぞれ担当した。

4．発掘調査における遺構写真は福本と鍵谷が行い、遺物の写真撮影は藤原が行った。

5．出土遺物の整理・報告書の作成にあたっては、倉敷埋蔵文化財センター嘱託職員　内田智美、臨時職員　木曽敏江・藤田朱美・宮地かをりの協力を得た。

6．挿図中に使用した高度値は海抜高であり、方位は全て磁北である。

7．本調査は、既に『倉敷埋蔵文化財センター年報２ －1994年度－』においてその概要が公表されているが、本報告書をもって正報告とする。

8．発掘調査で出土した遺物及び実測図・写真等は、全て倉敷埋蔵文化財センターにて保管している。

目　次

序

Ⅰ　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　遺跡の位置 …… 1
　第２節　遺跡の歴史的環境 …… 1

Ⅱ　調査の概要 …… 5
　第１節　調査に至る経緯と経過 …… 5
　第２節　調査組織 …… 7

Ⅲ　調査の成果 …… 8
　第１節　確認調査 …… 8
　第２節　北区の調査 …… 11
　　1. 調査区の概要と基本層序 …… 11
　　2. 遺構と出土遺物 …… 12
　　3. 包含層出土の遺物 …… 20
　第３節　南区の調査 …… 27
　　1. 調査区の概要と基本層序 …… 27
　　2. 遺構と出土遺物 …… 28
　　3. 包含層出土の遺物 …… 29
　　4. 自然流路出土の遺物 …… 35
　　5. 造成・撹乱土出土の遺物 …… 40

Ⅳ　まとめにかえて …… 48

出土遺物一覧(観察)表 …… 49
　1. 土器観察表 …… 49
　2. 土製品観察表 …… 62
　3. 石器組成表 …… 62
　4. 石器一覧表 …… 63

挿　図　目　次

第1図　遺跡の位置 1
第2図　周辺の遺跡 2
第3図　調査区配置図(1/600) 5
第4図　トレンチ配置図(S=1/1,000) 8
第5図　トレンチ断面図1(S=1/40) 8
第6図　トレンチ断面図2(S=1/40) 9
第7図　確認調査出の土土器(S=1/4) 10
第8図　確認調査出土の石器(S=2/3・1/2) 10
第9図　北区遺構平面図(S=1/150) 11
第10図　中央トレンチ西壁断面図(S=1/80) 12
第11図　溝1断面図(S=1/80) 12
第12図　溝2断面図(S=1/80) 13
第13図　溝2出土石器(S=2/3) 13
第14図　溝2出土土器(S=1/40) 13
第15図　土壙出土石器(S=2/3) 14
第16図　池状遺構断面図(S=1/80) 14
第17図　池状遺構出土の土器1(S=1/4) 15
第18図　池状遺構出土の土器2(S=1/4) 16
第19図　池状遺構出土の石器(S=1/2) 16
第20図　土器溜り出土の土器1(S=1/4) 18
第21図　土器溜り出土の土器2(S=1/4) 19
第22図　包含層出土の土器1(S=1/4) 21
第23図　包含層出土の土器2(S=1/4) 22
第24図　包含層出土の土器3(S=1/4) 23
第25図　包含層出土の土器4(S=1/4) 24
第26図　包含層出土の石器(S=2/3・1/2)) 26
第27図　調査区断面図(S=1/80) 27
第28図　南区遺構平面図(S=1/100) 28
第29図　遺構出土土器(S=1/4) 28
第30図　遺構出土石器(S=2/3) 29
第31図　包含層出土の土器1(S=1/4) 30
第32図　包含層出土の土器2(S=1/4) 31
第33図　包含層出土の土器・土製品(S=1/4) ... 32
第34図　包含層出土の土製品(S=1/2) 33
第35図　包含層出土の石器1(S=2/3) 34
第36図　包含層出土の石器2(S=2/3) 35
第37図　自然流路平面図(S=1/150) 35
第38図　自然流路出土の土器1(S=1/4) 36
第39図　自然流路出土の土器2(S=1/4) 37
第40図　自然流路出土の土製品(S=1/2) 38
第41図　自然流路出土の石器1(S=2/3) 39
第42図　自然流路出土の石器2(S=1/2) 39
第43図　自然流路出土の石器3(S=1/2) 40
第44図　造成・撹乱土出土の土器1(S=1/4) 41
第45図　造成・撹乱土出土の土器2(S=1/4) 42
第46図　造成・撹乱土出土の土器3(S=1/4) 43
第47図　造成・撹乱土出土の
　　土器・土製品(S=1/4) 47
第48図　造成・撹乱土出土の石器1(S=2/3) 46
第49図　造成・撹乱土出土の石器2(S=1/2) 47

表　目　次

表1　周辺遺跡一覧表 3

図　版　目　次

図版1　北　区
1. 溝2検出状況（西から）
2. 溝2須恵器出土状況（北から）
3. 調査区東端土壙・溝群（北から）

図版2　北　区
1. 土壙1検出状況（北から）
2. 土器溜り検出作業（北から）
3. 池状遺構検出状況（西から）

図版3　北　区
1. 土器溜り土器出土状況（北から）
2. 礫層検出状況（東から）
3. 中央トレンチ西壁断面（東から）

図版4　南　区
1. 調査区東壁断面（西から）
2. 調査区北壁東半断面（南から）
3. 調査区北壁西半断面（南から）

図版5　南　区
1.西半ピット群検出状況（東から）
2.調査終了後（南から）
3.調査終了後（北から）

図版6　南　区
1.調査区全景（北から）
2.作業風景
3.遺跡遠景（写真中央）

図版7　出土土器（1）

図版8　出土土器（2）

図版9　出土土器（3）

図版10　出土土器（4）

図版11　出土土器（5）

図版12　出土土器（6）

図版13　出土土製品

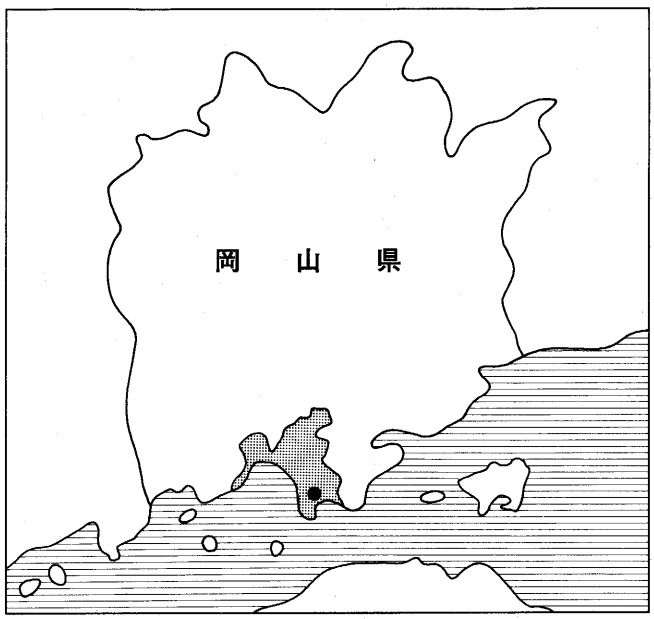
図版14　出土石器（1）

図版15　出土石器（2）

Ⅰ　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

池尻遺跡は、倉敷市児島上の町字積泉に所在する。位置的には倉敷市のほぼ南端部にあたり、約2.5km南へ下れば瀬戸内海を一望できる。周囲に目を向ければ、東に瑜伽山・仙随山、北に福南山、また西側には、種松山から鴨ヶ辻山、そして鷲羽山へと南北に連なる山塊が認められる。これらの山々に囲まれるように、旧児島市の中心地である小さな平野が広がっているのだが、昭和63年に瀬戸大橋(本州四国連絡橋)が開通して以来、駅前開発等の区画整理事業が行われており、倉敷市内でも近年最も変貌の著しい地域の一つである。



第１図　遺跡の位置

遺跡は、先に記した瑜伽山と仙随山が西側に向けて形成する深い谷の、ちょうど出口付近に位置している。山系でいえば仙随山西端の山裾にあたり、現在では市立上の町保育園の敷地内に埋没しているが、かつては、山裾につくられた狭い段々畑の一部を占めていたと思われる。また、遺跡背後の丘陵は地形図で見る以上に急峻であり、それほど広い平坦面を形成していたとは考えにくいことから、谷に面した山裾がつくる小範囲の平坦地が遺跡の立地として考えられよう。

第２節　遺跡の歴史的環境

児島地区の南側に広がる瀬戸内海の島々には、旧石器時代の遺跡が数多く知られている。倉敷市域の釜島・竪場島・松島をはじめ、その南に続く香川県側の櫃石島・本島・与島など、備讃瀬戸一帯の島々においては、ほぼ例外なく認められると言ってよい。これは、当時陸地であった瀬戸内[1]にあっては、そうした島々の丘陵地が眼下に群れる獲物をねらうには格好の場所であったためと考えられるが、これとほぼ同様な立地をもつ児島地区の丘陵部にも、鷲羽山遺跡[2]や王子が岳南麓遺跡[3]など旧石器時代の遺跡が点在している。池尻遺跡の近辺では竜王山遺跡(26)や萱苅遺跡(19)などが知られるが、いずれも石片等が採集されているだけで詳しい内容についてはわかっていない。

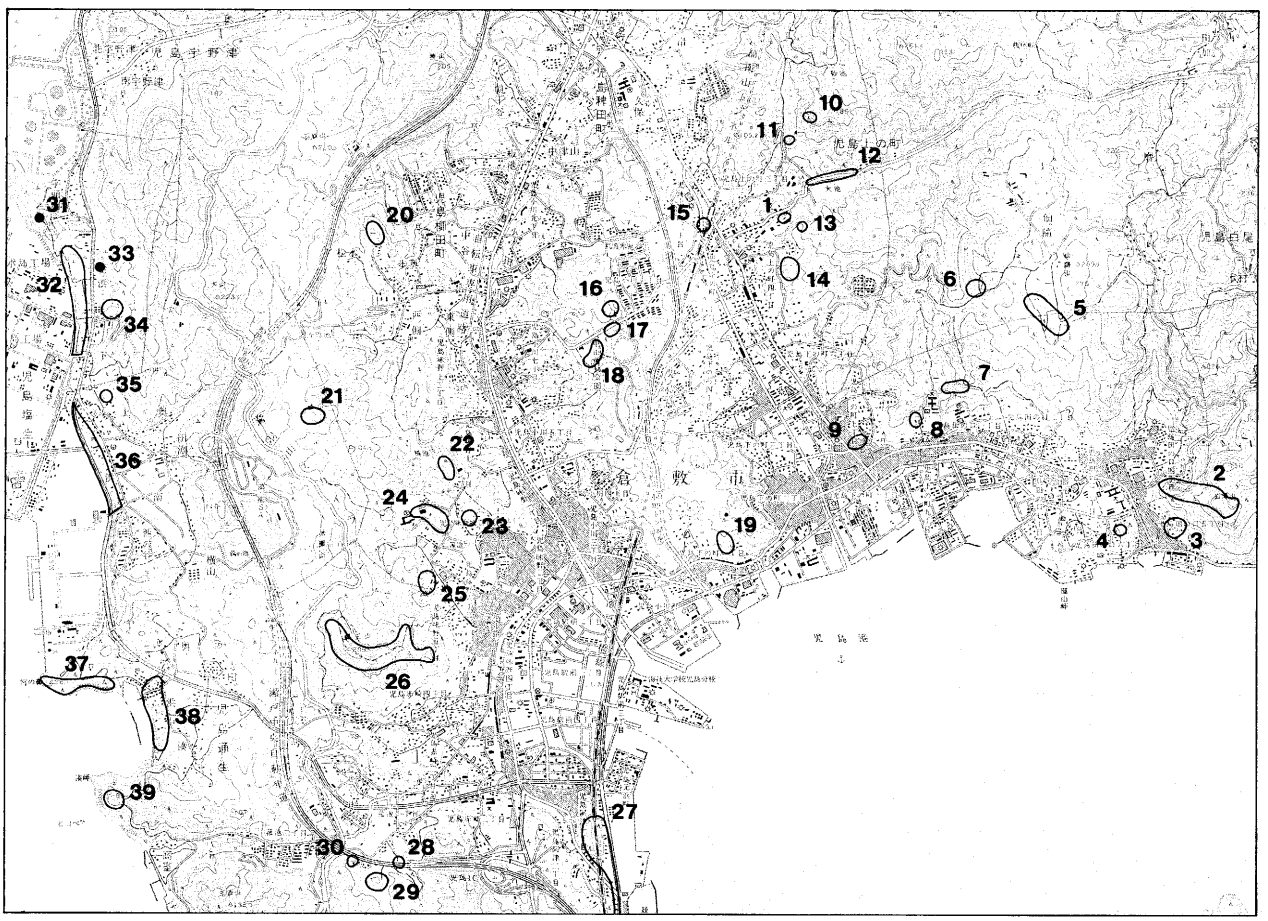
縄文時代になると、温暖化に伴う縄文海進により、児島地区を含めて児島半島一帯が文字どおり瀬戸内海に浮かぶ「児島」となる。このことをよく物語っているのが、縄文貝塚の存在である。特に「児島」の北西端から対岸にかけては、磯の森貝塚[4]・船元貝塚[5]・福田貝塚[6]などの著名な貝塚が集中しており、当時の海岸線を良く示している。貝塚以外の縄文時代遺跡は、それほど多くはない。

そのうち、早期押型文土器が確認されている鷲羽山遺跡や琴浦向山遺跡(7)などは、依然として丘陵上に位置しており、旧石器時代からそれほど変化のない生活様式が想定できる。また、後期から晩期にかけての遺跡である阿津・走出遺跡(27)[7]や広江・浜遺跡[8]は、沿岸部の砂州から低台地上にかけて位置しており、早期の遺跡との立地の違いが注目される。

弥生時代になると、遺跡の近辺だけでも菰池遺跡(28)[9]、城遺跡(24)[10]、仁伍遺跡(25)[11]などがあり、その数は縄文時代に比べればかなり多くなる。ところが、これらの遺跡のほとんどは弥生時代中期の一時期に属し、前期あるいは後期の遺跡は非常に少ないことが指摘できる。そして、それらの遺跡の立地をみると、池尻遺跡と同じように山あいの谷に面した低丘陵で、遺跡の規模も地形の制約を受け小さな場合が多い。こうした遺跡の特徴は、ひとつには谷水田のような小規模な米作りしか行いえなかった、当時の児島地区周辺の農耕技術の水準を反映していると考えられるが、それゆえ、技術が進歩し肥沃な低湿地における農耕が可能になる後期になって、そうした可耕地が少ない児島地域から遺跡が姿を消していったものと推定できる。

ところで、「児島」北西端の種松山山頂付近と中央付近の瑜伽山山頂付近から、それぞれ銅鐸[12]と銅剣５本[13]が出土しているが、これは当時、東の畿内と西の北九州の間を結ぶ瀬戸内海航路の中でも、特に「児島」の北岸あたりが交通の要所であったことと無関係ではないであろう。

古墳時代の遺跡としては、師楽式土器を出土する製塩遺跡の存在が目につく。鴻八幡宮馬場遺



第２図　周辺の遺跡

跡(9)や阿津・走出遺跡をはじめ、塩生遺跡[14]、広江・浜遺跡など、いずれも「児島」沿岸部の砂州上に位置しているが、同様な立地を有する瀬戸内の島々の砂浜にもこうした製塩の遺跡が多いことから、古墳時代には、「児島」を中心とした備讃瀬戸一帯でかなり専門的に製塩が行われていたことがうかがえる。一方、周辺の丘陵には琴海古墳群[15]をはじめ溝落谷古墳群(34)、鷲羽山古墳群など、2～4基から成る小規模な古墳群が点在している。これらはどれも、眼下の沿岸部に製塩遺跡

表1　周辺遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	備　　考	文　献
1	池尻遺跡	児島上の町	弥生		
2	岩滝山遺跡	児島田の口	旧石器～弥生	石器、石片散布	
3	荒神四つ塚古墳群	〃	古墳	4基の横穴式石室墳から成る	
4	丸山古墳	〃	古墳	前方後円墳?	
5	仙随山遺跡	〃	旧石器～弥生	石片散布	
6	三池遺跡	〃	縄文～弥生	石片、石鏃散布	
7	琴浦向山遺跡	〃	旧石器～縄文	有茎尖頭器	
8	琴浦堀江遺跡	児島下の町	縄文		
9	鴻八幡宮馬場遺跡	〃	古墳	師楽式土器製塩遺跡	
10	高山遺跡	児島上の町	弥生	城の辻遺跡ともいう	
11	高辻遺跡	〃	古墳	土師器片散布	
12	大池北遺跡	〃	弥生		
13	積泉池遺跡	〃	弥生	千本池遺跡ともいう	
14	内田遺跡	〃	弥生		註(11)文献
15	山際紫山遺跡	〃	弥生～古墳		註(7)文献
16	小川木野山神社遺跡	児島小川	弥生		
17	中山野球場北遺跡	〃	弥生～古墳		
18	小川平田遺跡	〃	弥生		
19	萱苅遺跡	児島下の町	旧石器～弥生	石片散布	
20	堂の谷寺跡	児島柳田	中世	4間×5間の礎石	参考文献(3)
21	神水城跡	児島味野	中世		
22	長原遺跡	児島味野上	弥生		
23	焼山遺跡	児島味野城	弥生		
24	城遺跡	〃	弥生	一部を城ハンド遺跡という	註(10)文献
25	仁伍遺跡	児島味野	弥生		註(11)文献
26	竜王山遺跡	〃	旧石器	石器、石片散布	
27	阿津・走出遺跡	児島阿津	縄文・古墳	師楽式土器製塩遺跡	註(7)文献
28	菰池遺跡	児島菰池	弥生		註(9)文献
29	菰池越遺跡	〃	弥生	石器、石片散布	
30	菰池オレントウ遺跡	〃	弥生		註(9)文献
31	天神山古墳	児島塩生	古墳	円筒埴輪	
32	金浜遺跡	〃	古墳	師楽式土器製塩遺跡	
33	金浜古墳	〃	古墳	横穴式石室墳	註(16)文献
34	溝落谷古墳群	〃	古墳	4基の横穴式石室墳からなる	
35	馬乗場古墳群	〃	古墳	2基の横穴式石室墳からなる	
36	塩生遺跡	〃	古墳・中世	師楽式土器製塩遺跡	註(14)文献
37	宮の鼻遺跡	児島通生	旧石器～縄文	石鏃、土器片散布	
38	通生遺跡	〃	古墳	師楽式土器製塩遺跡	
39	湊岬遺跡	〃	旧石器	石片散布	

を見おろす位置にあり、塩生産を基盤とした海浜集落との関係でとらえることができる。また、「児島」の西岸、金浜遺跡(32)のすぐ北側の丘陵上には、倉敷市内で最も古い横穴式石室墳である金浜古墳(33)[16]が存在した。副葬品の中には鉄製ヤスなどの漁具を含むことから、土器製塩を中心としながら漁労活動にも関わっていた、当時の海浜集落の姿が想像できる。そして、「児島」においては、そうした製塩や漁労を生活基盤とした集団が、稲作を生産基盤としていた内陸部の集団に比べてひけを取らない力を有していたことを、金浜古墳の存在は示していると言えよう。

続く奈良・平安時代になると、現在の集落の立地と重なるためか、当時の人々の生活の跡を示す遺跡はあまり知られていない。広江・浜遺跡のように、古墳時代後期から中世に至る長い期間集落を維持する遺跡もまれにみられるが、古墳時代の製塩遺跡のほとんどは奈良時代になると姿を消している。ただし、『日本後記』や『兵庫北関入船納帳』などによれば[17]、平安時代から中世にかけて、依然として児島における製塩が盛んであったことが記されており、土器製塩とは別の方法による塩づくりが奈良時代以降主流となったことが考えられる。

以上、池尻遺跡周辺の歴史的環境について特に古代を中心として概観したが、遺跡の全容が明らかになるような調査例に乏しく、その点不確定な要素を多分に含んでいることを最後につけ加えておきたい。

註(1) 当時の海水面の高さについては定かではないが、一説によれば、極寒期のヴィルム氷河期には現在よりも140m程度も低かったとされている。また、備讃瀬戸を含めた瀬戸内海一帯で、今でも底引き漁の網にナウマンゾウなどの旧象化石が引き上げられることがあり、かつて陸地であったことを物語っている。
「備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石」 倉敷市自然史博物館 1988年
(2) 山本慶一「鷲羽山遺跡採集の石器と土器」『倉敷考古館研究集報第6号』 倉敷考古館 1969年
(3) 「王子が岳南麓遺跡」『倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第4集』 倉敷市教育委員会 1995年
(4) 池田次郎・鎌木義昌「岡山県磯の森貝塚発掘報告」『吉備考古第81・82合併号』 1951年
(5) 藤田憲司・間壁忠彦「船元貝塚の資料」『倉敷考古館研究集報第18号』 倉敷考古館 1984年
(6) 「福田貝塚資料」『奈良国立文化財研究所史料32』 奈良国立文化財研究所 1989年
(7) 「阿津・走出遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告71』 岡山県教育委員会 1988年
(8) 「広江・浜遺跡」『倉敷考古館研究集報第14号』 倉敷考古館 1979年
(9) 「菰池遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告71』 岡山県教育委員会 1988年
(10) 「倉敷市(児島)城遺跡発掘調査報告」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告19』 岡山県教育委員会 1988年
(11) 山本慶一「倉敷市児島仁伍遺跡」『倉敷考古館研究集報第8号』 倉敷考古館 1973年
(12) 梅原末治「岡山県下発見の銅鐸」『吉備考古第83号』 1951年
(13) 末永雅雄「瑜珈山出土の銅剣」『吉備考古第78・79合併号』 1950年
(14) 「塩生遺跡発掘調査報告」『倉敷埋蔵文化財センター年報1』 倉敷埋蔵文化財センター 1994年
(15) 「琴海1号墳」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告36』 岡山県教育委員会 1980年
(16) 「金浜古墳」『倉敷考古館研究集報第14号』 倉敷考古館 1979年
(17) 『新修倉敷市史9 史料 古代・中世・近世(上)』 倉敷市 1994年

参考文献

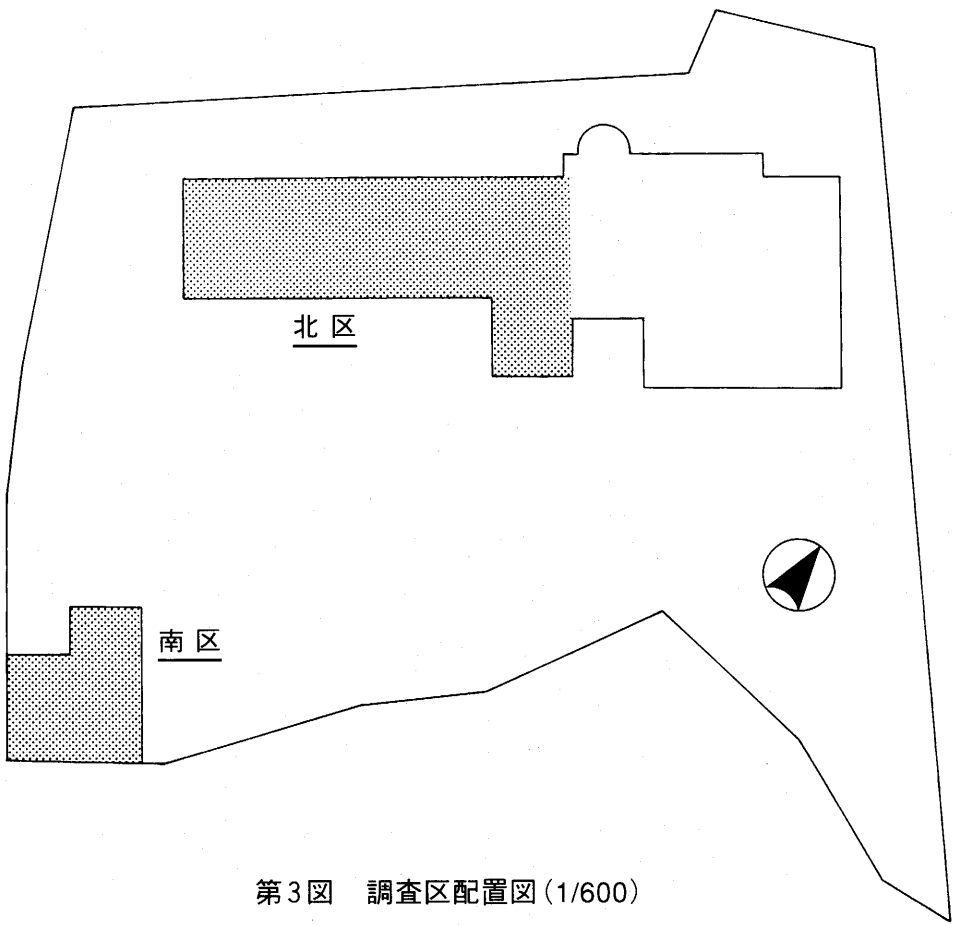
(1) 『新修倉敷市史1 考古』 倉敷市 1996年
(2) 『岡山県風土記』 旺文社 1996年
(3) 『児島風土記』 倉敷の自然を守る会 1982年
(4) 『倉敷の古代』 倉敷考古館 1972年

Ⅱ　調査の概要

第１節　調査に至る経緯と経過

倉敷埋蔵文化財センターでは、公共事業と、立会調査を含めた発掘調査との調整を図ることを目的として、年度当初に関係各課に対して、周知の遺跡に係る事業の有無に関する調査を行っている。平成６年５月、この調査に関する問い合わせが、保健福祉局福祉部児童家庭課からあった。その内容は、「建物の老朽化に伴い、市立上の町保育園の園舎の建て替えを計画しているが、当該地に接して周知の遺跡が存在しており、この場合届出等の事務的手続きが必要か。」というものであった。『倉敷市文化財分布図』(1)によれば、確かに上の町保育園の校庭の部分が赤線で囲まれているものの、園舎の部分についてはその範囲からはずれていた。ところが、このわずかばかりの部分に遺跡が限定されて記載されているのには実は理由があり、それは遺跡発見のいきさつと大きく係わるものであった。つまり、この遺跡が初めて知られたのは、昭和43年に行われた保育園拡張工事の際であり(2)、この時すでに遺跡の大部分は破壊され、南東側に存在するわずかばかりの高まりを中心とした部分に、かろうじて遺跡が残存していると考えられたためであった。こうした経緯をふまえ児童家庭課と協議を行った結果、分布図上では遺跡の範囲外となっているものの、遺跡が残存している可能性もあるため、念のため確認調査を行ったうえでその結果に基づき、適切な対応を行うこととなった。

これを受けて、平成６年６月11日に確認調査を実施した。調査は、既存の園舎の北側に沿って３カ所、運動場を挟んで敷地の南西端に位置するプールの東側に接して１カ所の、合計４カ所のトレンチを設定して行った。プール部分のトレンチは、園舎と同様プールの改築も予定されていたためである。調査の結果、最も東側に設定したトレンチを除く３カ所



第３図　調査区配置図（1/600）

で、主として弥生時代中期の土器を多く含む遺物包含層を確認し、すでに破壊・消滅したと考えられていた部分にも遺跡が残存していることが判明した。

こうした調査結果に基づき、児童家庭課と遺跡の保存を含めた対応について再度協議を行った。しかし、この事業が国の補助金を受けたもので設計変更は困難であり、また、保育園という公共性の高いのもでもあることなどから、遺跡に係る部分についてやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査の対象となったのは、園舎建設予定地のうち、確認調査で遺跡の存在が想定された西側約半分と、プール改築予定地の２カ所で、面積は合わせて375㎡である。また、プールの改築工事は補助金の対象外であり、園舎本体工事とは時期をずらして行うため、発掘調査も２期に分けて実施することになった。なお、発掘調査を行った園舎部分を北区、プール部分を南区として以下の報告を行うこととする。

まず、北区の調査を平成６年10月１日から11月25日にかけて実施した。調査は、調査区の東端･中央･西端にそれぞれとトレンチを掘開し、これを基に行った。調査区の東端では、土師質の皿・碗を含む中世の池状遺構が検出され、また、西端では奈良時代と思われる溝が確認された。しかしながら、遺跡の中心となる弥生時代の遺構は検出されず、包含層から遺物が出土したにとどまった。

南区の調査は、年を明けた平成７年３月８日から４月５日にかけて行った。確認調査の結果から、遺跡の残存状況はかなり良好と想定されていたが、重機により造成土をを除去した結果、調査区の中央部付近は大きな撹乱を受け、また南半部は保育園造成時の削平が基盤層まで及んでいることが明らかとなった。遺構としては、柱穴数基と溝状遺構が１基確認されたが、いずれも残存状況は悪かった。また、調査区南端で、東西へ延びる自然流路の跡が検出され、弥生時代中期末頃の土器や石器等が多く出土した。

註（１）『倉敷市文化財分布図』 倉敷市教育委員会 1975年
（２）間壁葭子「児島･上之町保育園内遺跡」『倉敷考古館研究集報第6号』 倉敷考古館 1969年

調査日誌抄

平成６年	６月11日	トレンチ４カ所による確認調査。
	10月１日	北区調査開始。
	４日	調査区の東端・中央・西端に土層観察用のトレンチを設定。
	５日	重機による造成土除去作業開始。
	６日	調査区東端で、池状の落ち込みを確認。
	15日	池状遺構完掘。写真撮影。
	20日	調査区中央部付近で、砂礫群に混じって大量の弥生土器出土。西端で溝状遺構検出。
	11月11日	「考古学入門講座」で講座生が発掘体験。
	19日	調査区断面図作成。調査区全体写真。
	25日	調査区埋め戻し。北区調査終了。

平成７年	３月８日	南区調査開始。
	９日	調査区周囲の掘り抜き作業。
	11日	重機による造成土除去作業。
	15日	造成土除去作業終了。調査区南半遺構検出作業。
	18日	調査区南半撹乱部分の掘り下げ。
	23日	調査区北半撹乱部分の掘り下げ。
	24日	調査区北半遺物包含層掘り下げ開始。
	４月５日	調査区全体写真。南区調査終了。

第２節　調査組織

池尻遺跡発掘調査委員会

委員長	山田錦造	倉敷市教育委員会	教育長
副委員長	佐々木將勝	〃	教育次長
〃	足利聖治	倉敷市保健福祉局	局　長
委　員	間壁忠彦	倉敷市文化財保護審議会	会　長
監　事	平松秀明	倉敷市保健福祉局	福祉部長
〃	三宅正廣	倉敷埋蔵文化財センター	館　長
事務局長	武田俊宏	〃	館長補佐
調査員	福本　明	〃	学芸員
〃	鍵谷守秀	〃	〃
〃	小野雅明	〃	〃
〃	藤原好二	〃	〃
〃	中野倫太郎	〃	〃
〃	片岡弘至	〃	〃

（肩書き及び役職名は、いずれも調査当時）

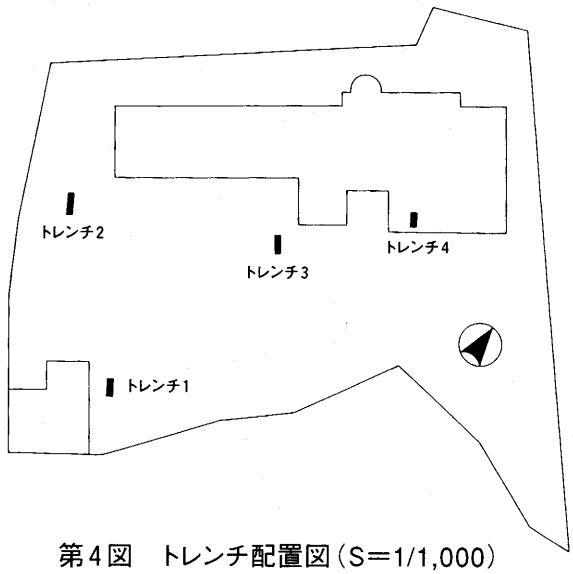
作業員

小松　聡・犬飼睦夫・練尾雅子・内田斐雄・犬飼弘子・坪井昭平
佐藤花江・寺本一男

Ⅲ 調査の成果

第1節　確認調査

上の町保育園及びプールの改築は既存の建物と重なる部分が多いため、工事区域内に全てのトレンチを設定することは不可能であった。したがって、園舎部分についてはその南側に３カ所、プール部分についてはその東側に１カ所を、なるべく工事範囲に近接するように設定し調査を行った。なお、調査対象地が保育園の敷地内であり、かなりの造成土が見込まれたため、調査にあたっては重機でこの造成土を除去した後、人力による掘り下げを行った。以下、各トレンチの概要について記すことにする。



第４図　トレンチ配置図（S＝1/1,000）

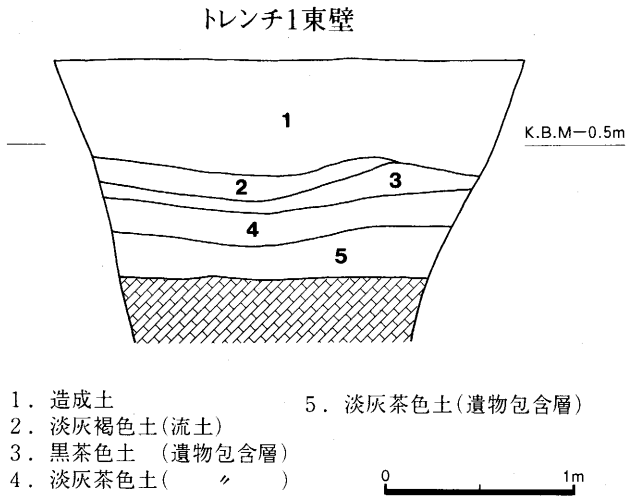
〔トレンチ1〕

プールの東側約２ｍの位置に設定した。約70cmの造成土の直下で、弥生時代の土器･石器を含む茶色系の包含層を確認した。厚さは50～60cmで、３層に分層可能である。この包含層の下は淡黄茶色の粗砂となり、遺物等を含まないことから自然堆積層（基盤層）と考えられる。なお、遺構は検出されなかった。

出土遺物には、弥生土器と石器がある。弥生土器は多くが小片であり、２点が図化できたにすぎない。**5**は粗製台付鉢の底部で、脚部外面には指頭圧跡が多く認められる。**13**は壺か甕の底部で、内外面とも磨耗が著しく調整は不明である。石器は、図化した２点の石鏃以外に剥片が９点あり、全てサヌカイト製である。**1**は完形で、長さ3.2cm･幅2.1cm･厚さ0.5cmで、重量は2.9ｇを量る。**2**は上半部を欠損しており、現存で長さ1.9cm･幅1.8cm･厚さ0.3cm･重量1.6ｇである。

〔トレンチ2〕

園舎の南西端付近に設定したトレンチである。造成土の厚さは約80cmで、その下にわずかに弥生土器を含む流土が存在する。そして、この層の直下にあたる地表下約1.1ｍで、トレンチ１の遺物包含層に対応すると考えられる黒褐色土（７～９層）を確認し



第５図　トレンチ断面図１（S＝1/40）

た。この層は、北へ向かって傾斜する基盤層上に流れ込むように堆積している。基盤層には多くの円礫が含まれており、また地表下約１ｍには細砂層が認められるなど、この付近に水が流れていた痕跡を示していた。

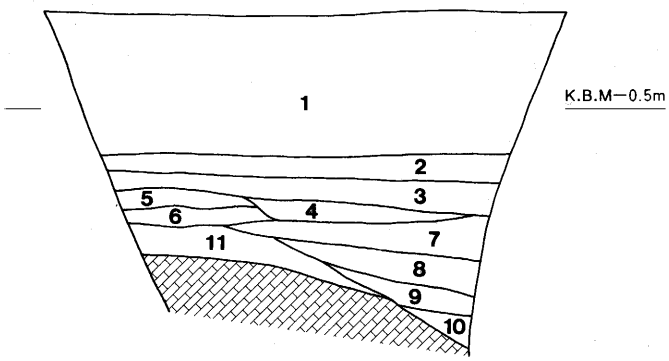
出土遺物のほとんどは、遺物包含層である黒褐色土から出土したもので、弥生土器(1～4･9～12)と石器がある。弥生土器には、壺･甕･高杯･台付鉢などがあるが、いずれも小片で内外面とも器表面の磨耗が目立つ。これらの土器は、当地域において一般に「仁伍式」[1]と呼ばれるもので、おおむね中期末頃のものと考えられる。石器は全てサヌカイト製で、図化した石包丁(3)以外にスクレイパーと剥片が１点ずつある。石包丁は両側縁の両面に加工が加えられているが、両側端部を欠損している。現存で、長さ4.5cm･幅8.9cm･厚さ0.9cmで、重量は51.8ｇを量る。

〔トレンチ3〕

園舎中央部の南側に設定したもので、トレンチ２の北東約28ｍの地点にあたる。トレンチ１･２で認められた遺物包含層は確認できなかったものの、地表下1.1ｍで、弥生時代の遺物を含む厚さ40cm程度の粗砂層(５層)を検出した。この層は黒灰色を呈し、何らかの熱が加えられた結果と考えられたが、全面調査の際に、マンガン分が著しく砂粒に沈着したものであることが判明した[2]。また、地表下80cm以下の層は、微砂・粗砂・砂礫となっており、これらは谷の自然流路内に堆積したものと考えられる。

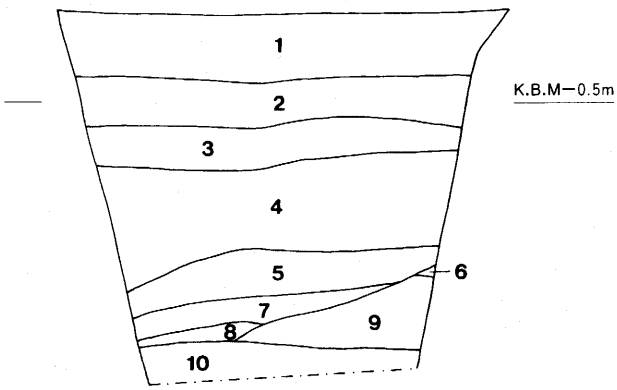
出土遺物には弥生土器とサヌカイトの剥片があるが、図化できたのは弥生土器１点

トレンチ2西壁



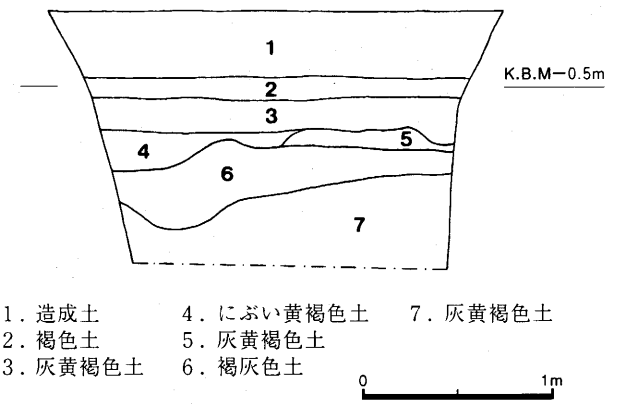
1．造成土
2．黄褐色土
3．黒褐色土
4．灰黄褐色土
5．黄褐色細砂層(10YR5/3)
6．　〃　(10YR4/3)
7．黒褐色土(10YR2/3)
8．　〃　(10YR3/2)
9．　〃　(10YR3/1)
10．褐灰色土
11．黒褐色土

トレンチ3西壁



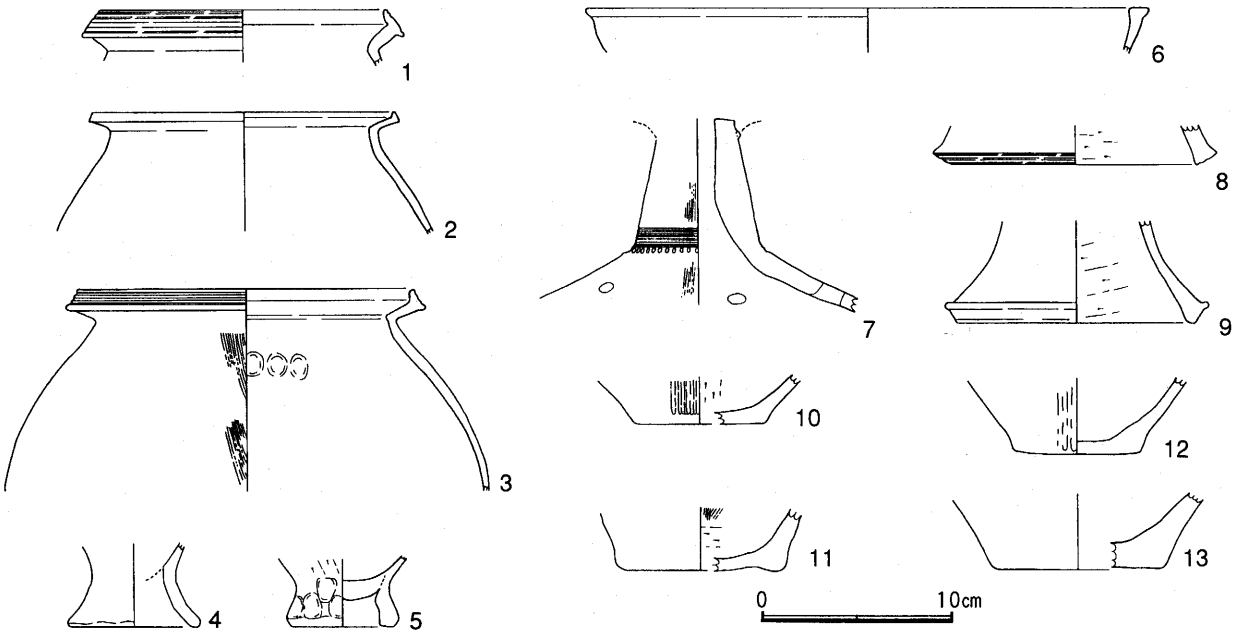
1．造成土
2．淡茶灰色土
3．淡茶色土
4．淡灰褐色微砂
5．黒灰色粗砂
6．黄灰色微砂
7．赤褐色粗砂
8．灰色粘土
9．黄茶色粗砂
10．淡灰色礫砂

トレンチ4東壁



1．造成土
2．褐色土
3．灰黄褐色土
4．にぶい黄褐色土
5．灰黄褐色土
6．褐灰色土
7．灰黄褐色土

第6図　トレンチ断面図2(S＝1/40)

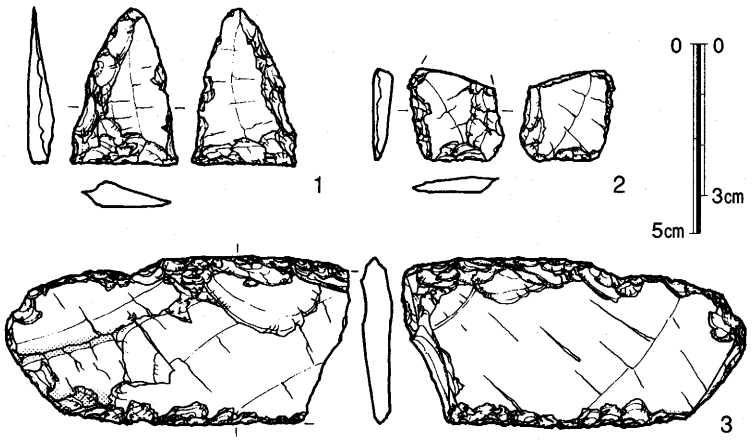


第7図　確認調査出の土土器（S＝1/4）

だけである。7は5層から出土した高杯の脚部で、脚柱部の内側は中空となっている。時期は、百･後･Ⅱの新相に比定でき[3]、おおむね後期中葉頃と考えられる。

〔トレンチ4〕

トレンチ3の北東約20cmの地点に設定した。基本的にはトレンチ3と同様の層位を示し、地表下60cmの6層以下に弥生時代の遺物をわずかに含むものの、これらは谷の自然流路内の堆積と考えられる。最下層の9層はトレンチ3の10層に対応すると考えられるが、高さで約1m高く、また含まれている礫も人頭大程度のものが多く、トレンチ3に比べてやや大きい。



第8図　確認調査出土の石器（S＝2/3･1/2）

出土した弥生土器はいずれも小片で、2点が図化できた。どちらも高杯で、6は口縁部、8は脚部である。時期は中期末頃と思われる。弥生土器以外には、サヌカイト製のスクレイパーが1点出土している。

註（1）山本慶一「倉敷市仁伍遺跡」『倉敷考古館研究集報第8号』倉敷考古館 1973年
（2）倉敷市立自然史博物館　金子智之氏のご教示による。
（3）「旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39』岡山県教育委員会 1980年

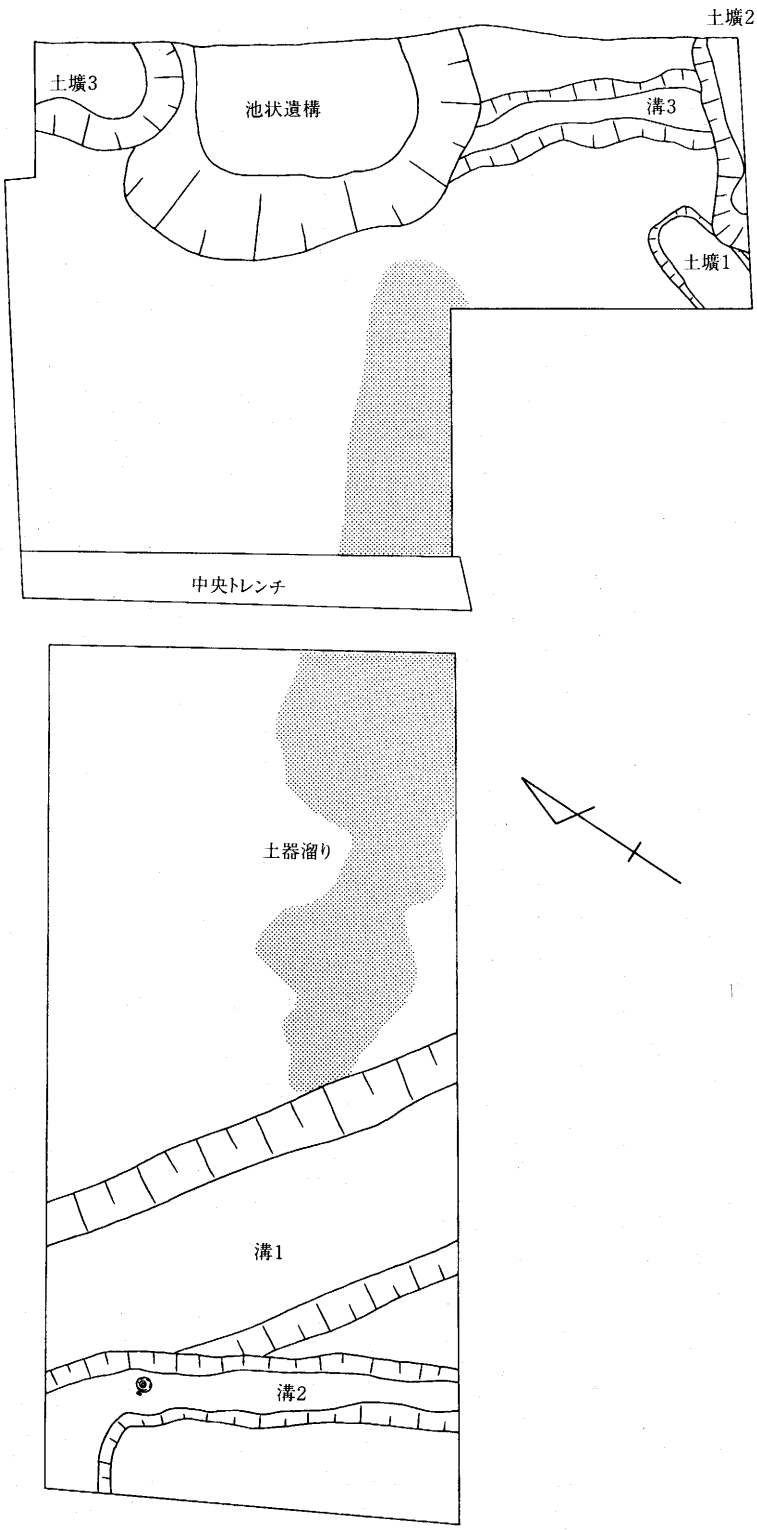
第２節　北区の調査

１．調査区の概要と基本層序

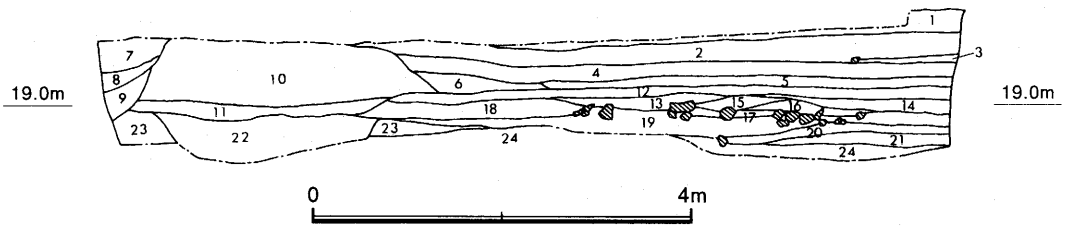
保育園園舎の建設部分にあたる調査区である。調査区は瑜伽山系から西に向かって開く谷の中央寄りにあたり、確認調査により谷の中の堆積土上に形成されている遺跡の存在が予想された地点である。調査地点の標高は現地表で約20.4ｍを測る。

調査区は、建設される園舎の形に沿って、東西約30ｍ、南北約15ｍの範囲に設定した。遺跡は、調査区のほぼ全面にわたってみられ、弥生時代、奈良時代および中世の遺構を確認することができた。しかしながら、南区にみられるような遺跡の基盤となる明確な層は確認されず、遺物包含層の下は、谷を流れてきた砂礫の堆積が調査区の全面にわたってみられた。とりわけ調査区南寄りでは、北東から南西方向にむかって帯状に拳大から人頭大の角礫が盛り上がった状態で堆積しているのが確認されており、弥生時代以降の遺物包含層は、この礫層を覆うように堆積している状況が確認された。

調査区の層序については、谷の中の堆積ということもあり、地点によりかなり差があるが、調査区中央の土層断面でみると、南寄りの標高19ｍ付近から人頭大の角礫を含む砂礫層の盛り上がりが、厚さ約80㎝、幅2.2ｍにわたってみられ、その上面および両側に灰黄褐色土が堆積し



第９図　北区遺構平面図（S＝1/150）



1. 暗灰黄色土
2. 灰黄褐色土
3. にぶい黄褐色土(遺物包含層)
4. 灰黄褐色土　(　〃　)
5. にぶい黄褐色土(　〃　)
6. 褐灰色土　(　〃　)
7. 黒褐色土　(遺物包含層)
8. 暗灰黄色土(　〃　)
9. 暗灰黄色土(　〃　)
10. 礫(浅黄色細砂まじり)
11. 褐色粘質土
12. 灰黄色土
13. 黄褐色土
14. 灰黄色土
15. 灰褐色細砂
16. 浅黄色微
17. 灰オリーブ細砂
18. 黄灰色粗砂
19. 灰黄色土
20. 暗灰黄色土
21. 灰オリーブ色細砂
22. 礫(明黄褐色砂まじり)
23. 灰白色細砂
24. オリーブ灰色細砂

第10図　中央トレンチ西壁断面図(S＝1/80)

ている。土器溜りは、礫層上面の灰黄褐色土でみられ、礫層両側の3層に分けられる堆積土にも弥生土器が含まれている。なお、奈良時代・中世の包含層は、以後の削平等により層位としてはとらえることはできなかった。また角礫を含む砂礫層の下方には、褐色粘質土をはさんでさらに礫層、砂層が互層となって続いており、遺物は全く含まれていない。

これらの礫層、砂層は、盛り上がった砂礫層を含め、いわば上流から谷の中を流れてきた土石流とでもいうべき状況で、堆積したものと考えられる。弥生土器を含む灰黄褐色を中心とする土層は、土石流の堆積後に遺跡の本拠であったと思われる南東の山寄りの段丘状のテラスから土器とともに谷中に堆積し、礫層の周辺および上面を覆っていったものと考えられる。

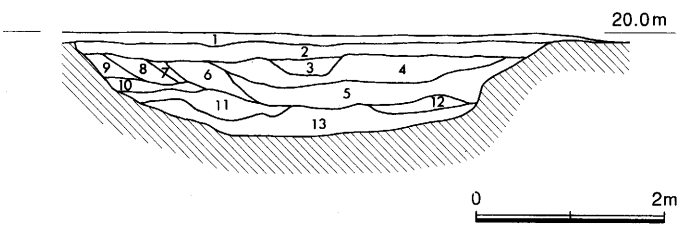
弥生土器を含む層が堆積した後は、比較的安定した状況が続いたと思われ、弥生包含層を切り込んで奈良時代や中世の遺構が築かれ、生活の場が山寄りから埋まっていきつつある谷の中央部へと広がっていったようすが窺われるのである。

2．遺構と出土遺物

北区で検出された遺構には、溝3条、土壙3基、池状遺構1基および土器溜りが1カ所ある。弥生土器からなる土器溜り以外は、溝、土壙とも弥生土器包含層を切り込んでつくられており、いずれも弥生時代以降のものと考えられる。

溝1

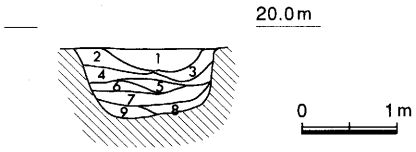
調査区西寄りで検出された幅の広い溝で、埋土上部が包含層と同質の褐色土、下半に灰褐色の砂が堆積している。このため上方での検出が困難で、下半の砂層および断面観察により、かろうじて検出し得た遺構である。溝の幅は約4.5mと広く、断面はゆるやかなU字形を呈しており、深さは約1.0mを測る。溝は磁北から約55度西へ振った方向で直線的にのび、調査区の北西隅で



1．にぶい黄色土
2．にぶい黄色粘質土
3．灰黄色砂まじり土
4．にぶい褐色細砂
5．灰黄褐色砂まじり土
6．褐灰色土
7．にぶい黄褐色土
8．褐灰色土
9．にぶい黄橙色土
10．灰黄褐色土
11．灰褐色細砂
12．にぶい褐色細砂
13．灰色砂まじり土

第11図　溝1断面図(S＝1/80)

溝２によって一部が切られている。堆積土中にはほとんど遺物は含まれておらず、わずかに弥生土器片が含まれている程度で、図化し得る遺物はみられなかった。



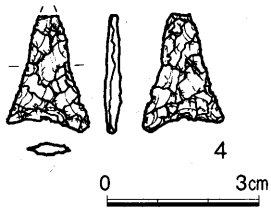
1. 暗黄色土
2. 褐灰色土
3. 暗灰色土
4. 褐灰色土
5. 褐灰色砂まじり土
6. にぶい黄褐色細砂
7. にぶい黄褐色粗砂
8. 灰色粘質土
9. 灰黄褐色砂まじり土

第12図　溝2断面図（S＝1/80）

溝２

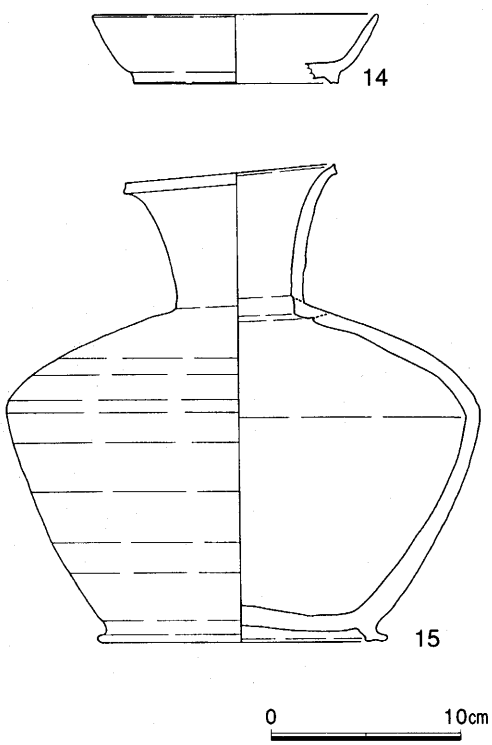
溝は磁北から約30度西へ振りながらほぼ直線的に北へ向かい、調査区の北端近くでほぼ直角に屈曲して西方向へ流れをかえ、調査区外へと続いている。溝の幅は、南端で1.4m、深さは0.7mを測り、断面は方形を呈している。溝内の堆積土は、上半がやや粘質の褐色土、下半は黄橙色の細砂となっている。出土遺物には、少量の弥生土器片とサヌカイト製の凹基式の石鏃(4)１点のほか、北寄りの屈曲部付近から須恵器杯身の破片１点とほぼ完形の高台付きの須恵器壺が検出されている。須恵器壺はやや傾きながらも口縁部を上にして、溝の底面から約10cmほど浮いた細砂中から出土している。

須恵器杯身14は、底部端近くに低い高台を貼りつけたもので、口縁部は逆「ハ」の字状にゆるやかに外反し、端部は丸く仕上げている。須恵器壺15は、肩の張った体部にやや小さめの口頸部をもつもので、底部端近くに低いながら「ハ」の字形にふんばった高台を貼付している。口縁部は、直立気味に外反して、端部に面をもっている。頸部の接合は、体部上面を円板で覆い、さらに穿孔して頸部を付ける、いわゆる三段接合の痕跡が明瞭に認められる。



第13図　溝2出土石器（S＝2/3）

これらの須恵器などからみて、溝２はおおむね奈良時代後半頃には存在したものと考えられるが、この溝で囲まれた調査区内の西側の部分からは、柱穴等の建物遺構の存在は確認されていない。



第14図　溝2出土土器（S＝1/4）

溝３

南側を土壙２により、また北側を池状遺構によって切られている。このため溝の検出長は、2.7m程で、幅は0.7m、深さ30cmを測る。溝の埋土は、砂質の強い褐色土で、わずかながら弥生土器の小片を含んでいる。

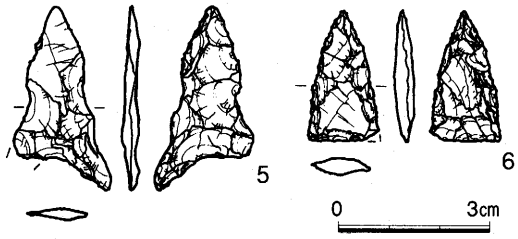
土壙１

土壙は弥生包含層上面から掘り込まれており、隅丸の方形を呈するものと思われるが、南半分は調査区外となっている。検出長2.4m、幅1.4m、検出面での深さ11cmを測る。土壙内には拳大の礫が多く含まれていたが、遺物はわずかな量の弥生土器細片とサヌカイト製の石鏃(5)が１点検出されている。石鏃は凹基鏃で、抉りが深くやや大形で

あるが、調整は粗いものである。

土壙 2

調査区南東隅の壁際で検出された土壙で、検出長4.2m、同幅80cm、深さ60cmを測る。やや不整形ながら長方形を呈するものと思われるが、褐色細砂の埋土からは、わずかに平基の石鏃(6) 1点が検出されているのみである。



第15図　土壙出土石器(S=2/3)

土壙 3

不整形な円形を呈しており、南側で一部池状遺構の肩を切っている。埋土はきれいな褐色の細砂で、遺物はまったく含まれていない。断面等からみて、自然の凹地に砂が堆積したものであるかもしれない。

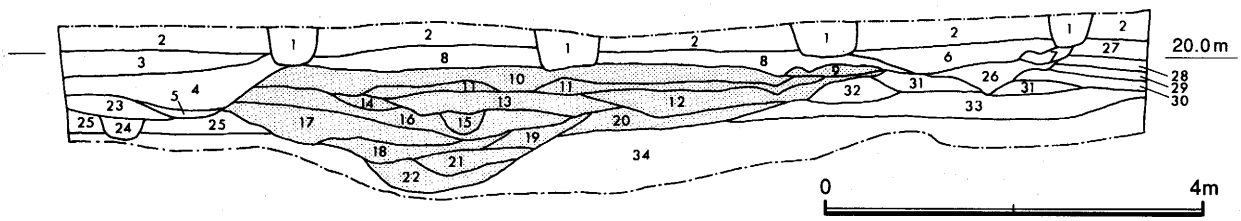
池状遺構

調査区東端で検出された池状を呈する不整形の落ち込みで、南北約7m、東西4m以上を測る。遺構内の堆積土は主に細砂と砂礫からなり、南寄りの上層部分の黄褐色細砂層を中心に中世土器が集中して出土している。

出土遺物には、土師質椀･小皿･鍋、瓦器椀、須恵質こね鉢、備前焼壺、白磁椀･皿、褐釉壺がある。この中で、土師質椀･小皿は多少まとまった出土数があり、瓦器椀も実測に耐えうる良い資料があるが、その他の遺物は断片的である。

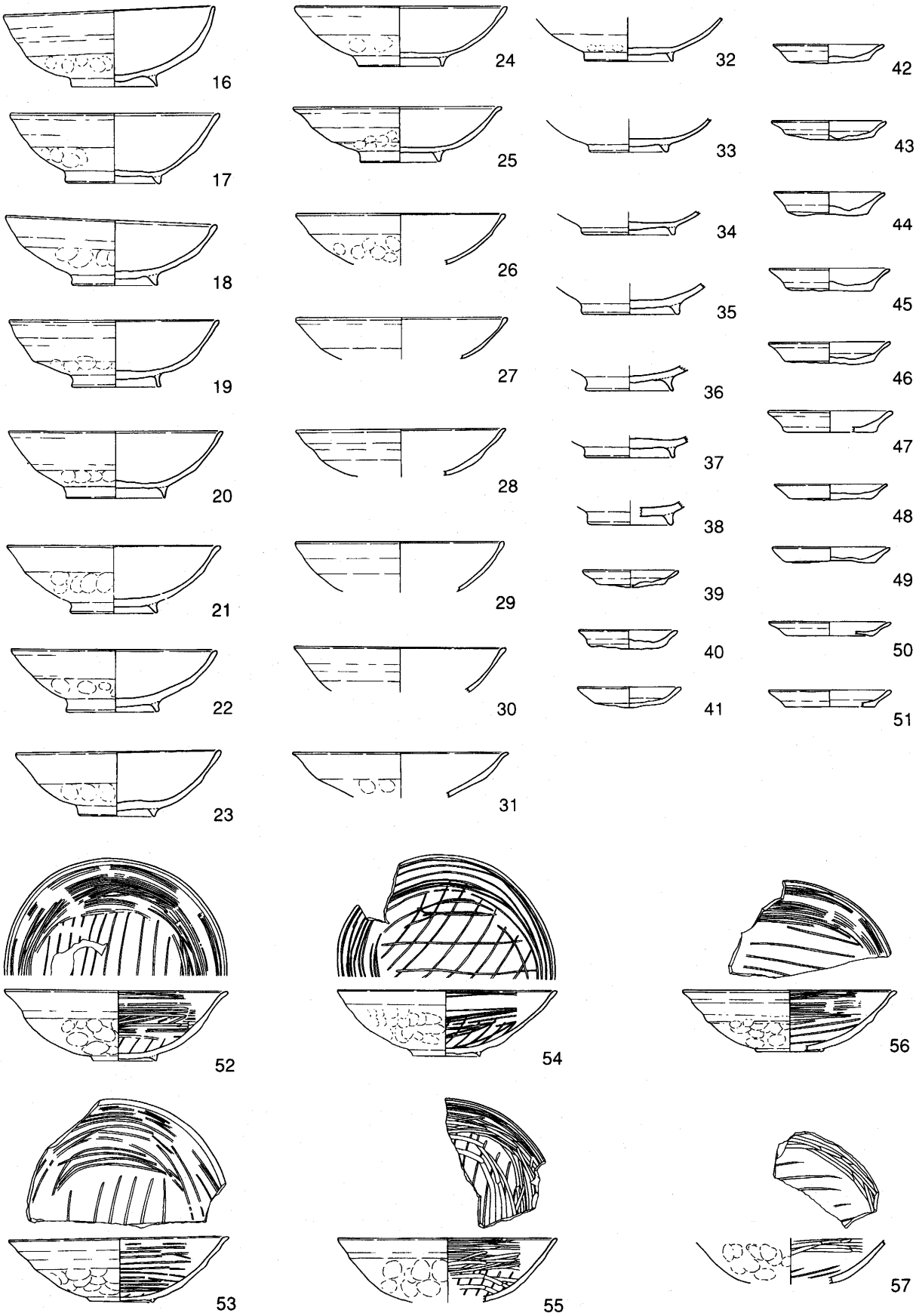
16～38は土師質の高台付椀である。残りのよい**16～25**の口径は14.4cm～15.0cm、器高は4.0cm～5.5cm、深さ2.8cm～4.5cmの範囲である。器面調整としてヘラミガキが施されるものはない。重ね焼きにより、内面底部が輪状に赤く変色しているものがある。これらの遺物は、口径は大差ないが、器高・深さにばらつきが認められ、12世紀末から13世紀前半頃の間と考えたい。

39～51は土師質の小皿である。外面底部はヘラ切りの後大半は軽いナデ調整が施されるが、未調

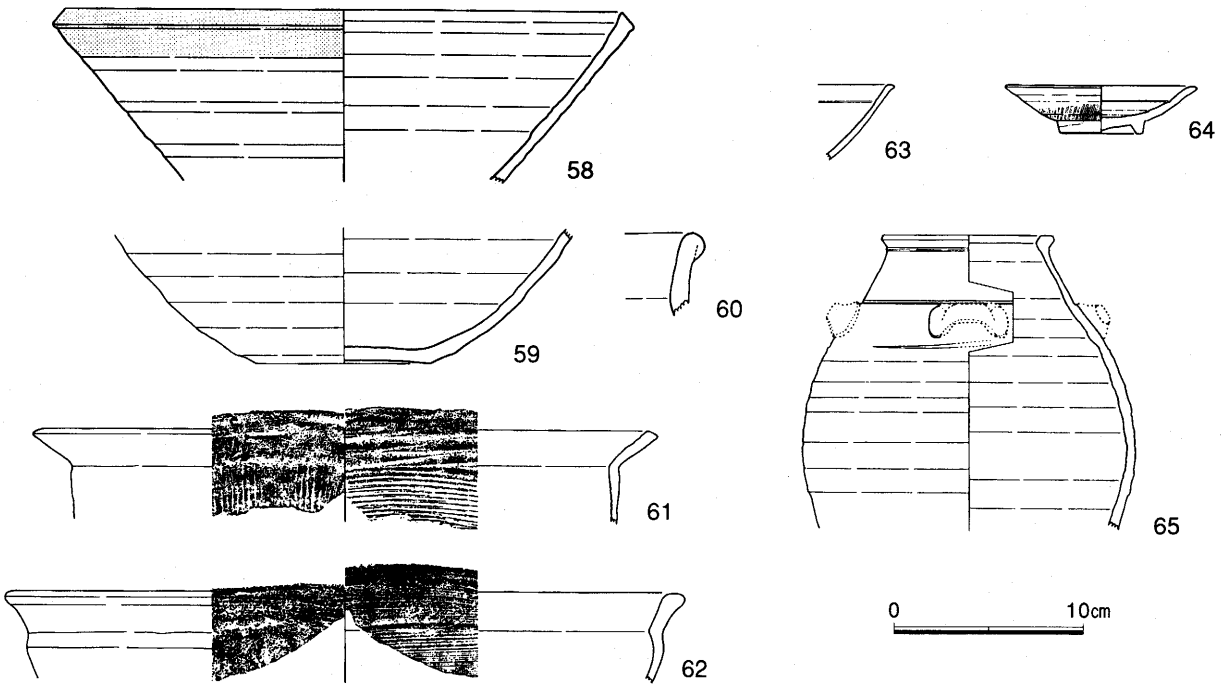


1. 旧園舎基礎埋土
2. 造成土
3. 褐色円礫
4. 褐色細砂
5. 暗灰黄色砂質土
6. 褐色粗砂
7. 褐灰色砂質土
8. 暗褐色砂質土
9. 褐色粗砂
10. にぶい黄褐色砂質土
11. にぶい黄褐色細砂
12. 灰黄褐色土
13. 灰黄褐色円礫
14. 暗灰黄色土
15. にぶい黄橙色細砂
16. 暗灰黄色微砂
17. 暗赤褐色円礫
18. 黒褐色土
19. 暗赤褐色粗砂
20. 暗灰黄色細砂
21. にぶい黄褐色粗砂
22. 褐色細砂
23. 暗灰黄色土
24. 灰黄褐色土
25. 灰色土
26. オリーブ黒色土
27. 暗褐色土(遺物包含層)
28. 灰褐色土(遺物包含層)
29. 褐灰色土(　〃　)
30. にぶい黄褐色土
31. にぶい黄褐色粗砂
32. 暗黄灰色砂質土
33. 暗黄灰色細砂
34. 暗褐色砂礫

第16図　池状遺構断面図(S=1/80)



第17図　池状遺構出土の土器１（S＝1/4）



第18図　池状遺構出土の土器2（S＝1/4）

整のものもある。板の圧痕を残すものが多い。

52～57は和泉型の瓦器椀である。法量の知られるものが2点しかないが、推定復元を含めると口径は15.0cm～15.6cm、器高は4.4cm～5.0cm程度の範囲となる。高台は断面が三角形状のものと台形状の低いものがある。体部外面には指頭圧痕がみられ、口縁部は強いヨコナデが施される。外面の調整にはヘラミガキは認められない。内面は平滑にナデ調整された後、上位には横方向のヘラミガキが疎らに施される。見込み部分の暗文は、平行線状のものと斜格子状のものがある。

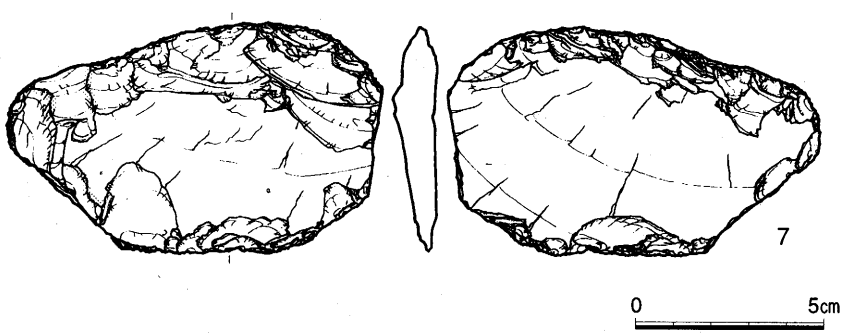
58･59は須恵質のこね鉢で、接合しないが同一個体の可能性がある。東播系の片口鉢であろう。

60は備前焼の壺である。やや褐色を帯びた灰色を呈し、外面には黄褐色の自然釉がかかる。口縁端は玉縁状となる。土師質椀の年代より新しい時期のものである。

61･62は土師質の鍋である。61の口縁部は屈曲して直線的に外側に開く。62は口縁部を肥厚させ、端部を丸く仕上げる。どちらも外面には煤が付着している。

63は白磁椀である。黄味を帯びた白色の釉薬がかかり、貫入がみられる。胎土は白色。口縁端を外反させ、内面上位に1条の浅い沈線が巡る。

64は白磁高台付皿である。釉薬は灰オリーブ色で、胎土は灰白色。体部に少し丸味をもたせ、口縁部を外反させる。口縁外側は段状を呈する。内面中位に1条の沈線が



第19図　池状遺構出土の石器（S＝1/2）

めぐり、見込み部分の釉薬を輪状に削り取っている。

65の褐釉壺は耳部の貼り付け部分がわずかに残る。四耳壺であろう。釉薬は全体的に黄褐色で、厚くかかっている部分はオリーブ色を呈する。胎土は明るい灰色。口縁端部は外側に拡張され、上面は水平をなす。頸部と肩部の境に１条の凹線が巡る。肩部には横耳が貼り付けられ、波状文が描かれていると推測される。

そのほか少量の弥生土器片とともにサヌカイト製の石包丁とみられる石器(7)が１点出土している。この石器は両端に明瞭な抉りはみられず、スクレイパー状を呈するが、稜線に磨耗痕がみられることなどから石包丁であると考えられる。

土器溜り(第20･21図)

調査区中央の南寄りで、東西方向に幅約４ｍ、長さ約16ｍの範囲にわたって弥生土器がまとまって検出された。これらの土器は、盛り上がって堆積している礫層の上面の灰黄褐色土中でみられ、流れは直下の礫層の方向とほぼ一致している。出土土器の中には、ほとんど完形に復元できる台付き鉢なども含まれており、土器の磨滅の状況等からもさほど離れた場所からに流されてきたとは考えにくく、やはり昭和43年の旧園舎の造成工事に伴い多くの遺物が発見されたという南側の山寄りの地点からのもたらされたもの考えざるを得ない。

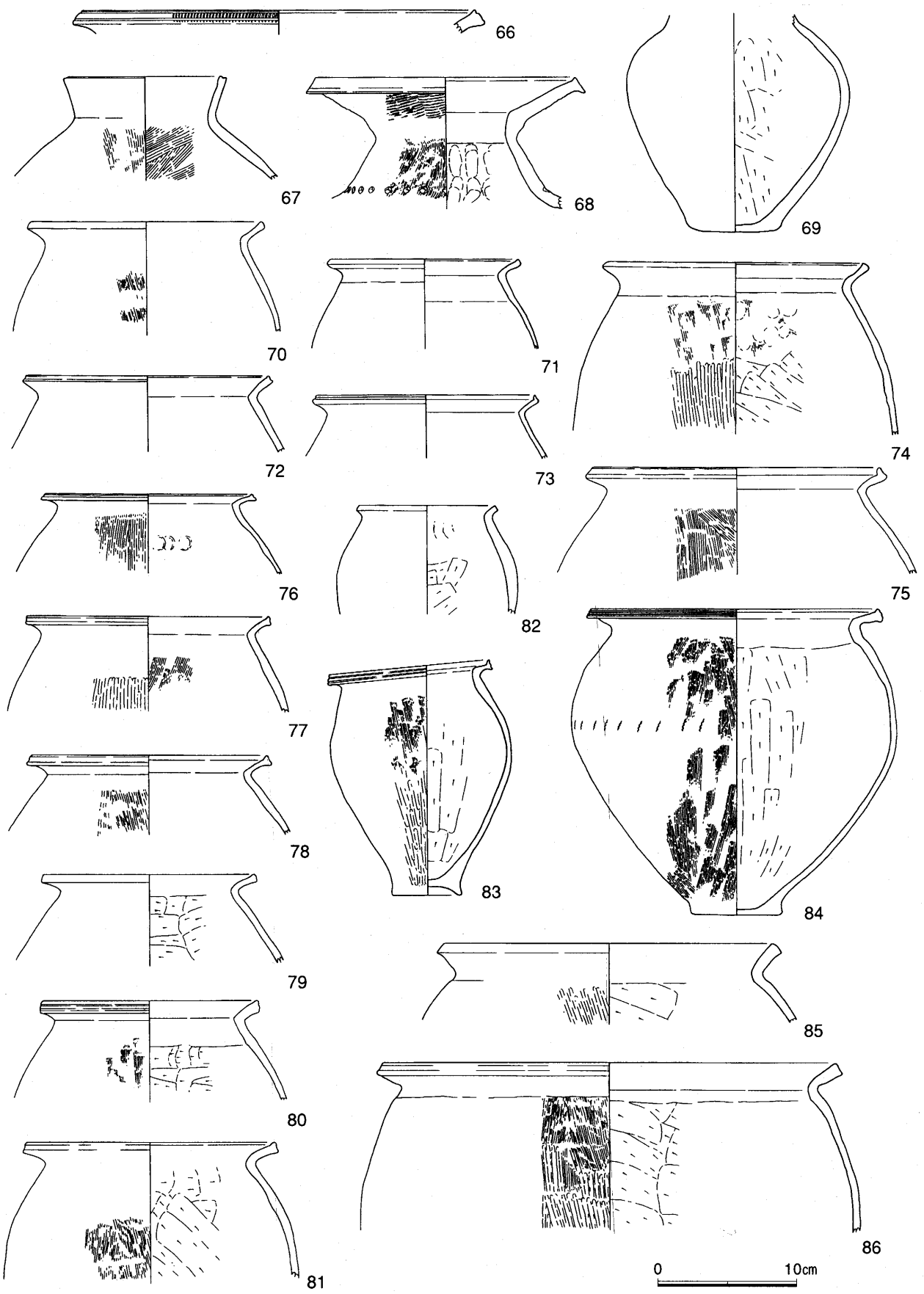
土器溜り出土の土器は、多くが弥生時代中期後半のもので占められており、壺･甕･高杯･台付鉢などを含め、整理用コンテナ約３箱分が出土している。このうち図化し得たものは次の57点である。

66～69は壺である。66は口縁部のみの破片で、端部を上下に肥厚させ、端面にヘラによる細かい刻目を施したのちに２条の凹線を巡らしている。67は直立気味に開きながら立ち上がる口縁をもつもので、端部には１条の凹線を巡らす。68は肩部から内傾して立ち上がり、屈曲して直線的に広がりながら口縁にいたるもので、端部は大きく上下に拡張している。肩部外面には板状工具による刺突文がほどこされており、また直線的に広がる口縁部の外面には右上がりのタタキ目がみられる。形状等から弥生時代後期に含まれると思われるが、あまりみられないものである。69は体部のみがほぼ完存しているもので、やや肩の張った球形に近い胴部をもっている。

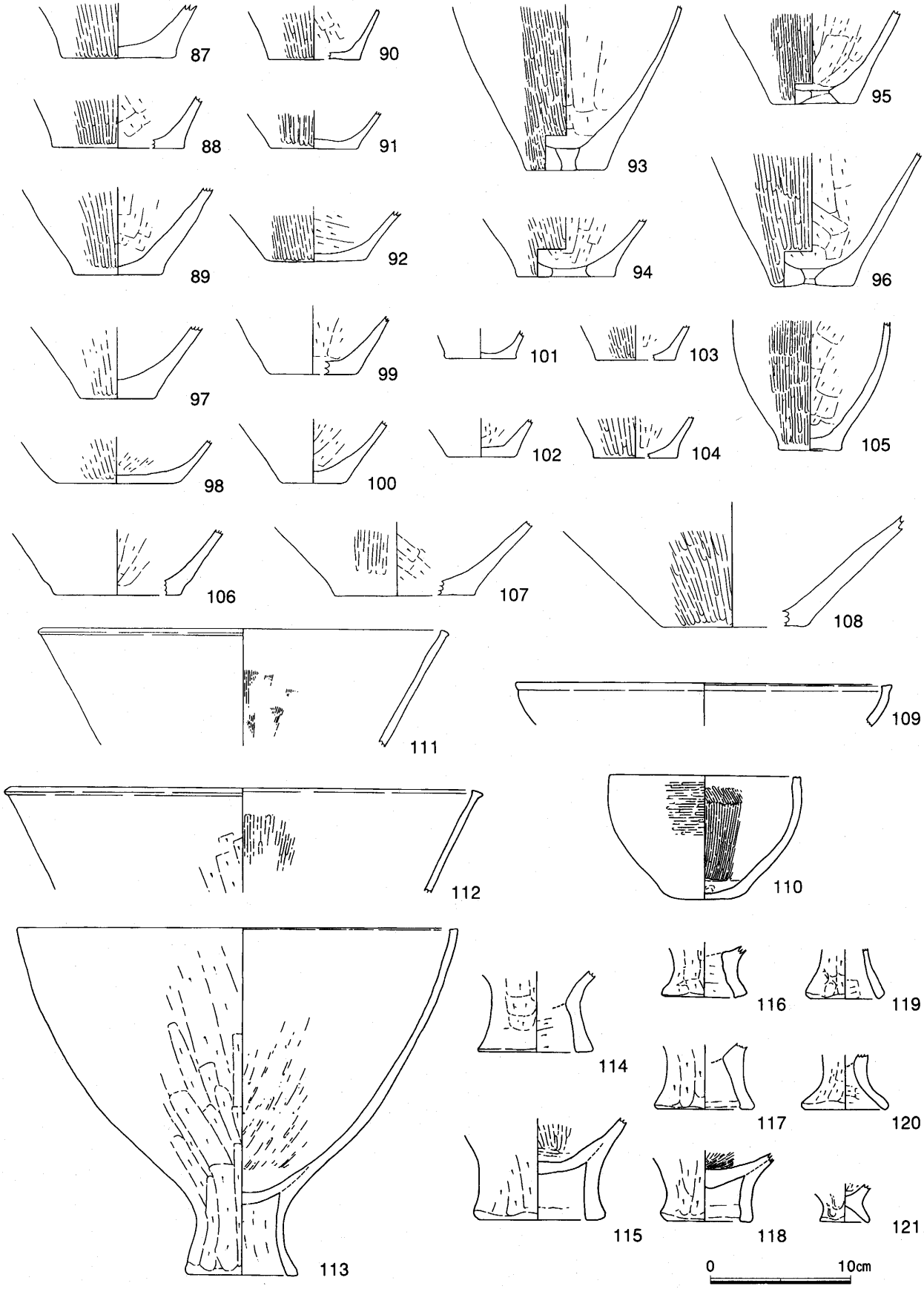
70～86は甕である。口縁部を「く」の字形に屈曲させ、端部を上方へ引き上げ、わずかに肥厚させるもの(70～74)や、同じく肥厚させた口縁端面を凹ますもの(75･79)、さらに端部を上下に拡張して数条の凹線を巡らすもの(80･83･84)、端部を方形におさめるもの(82･85･86)などがみられる。調整は、外面上半部にハケメ、下半部にヘラミガキを施し、内面にヘラケズリを行っているものが多くみられる。83はほぼ完形に近い小型の甕で、端部を拡張し、２条の凹線を巡らせており、底部は上げ底になっている。84はほぼ完形のもので、肩の張った胴部に貝殻の腹縁による刺突文が刻まれている。

87～108は壺、甕ないしは鉢の底部である。外面にヘラミガキ、内面にヘラケズリを施しているものがほとんどである。93～96は、焼成後に底部を外面から穿孔している。

109は鉢形の杯部をもつ高杯の口縁部である。口縁端部は、左右に拡張して面をもち、調整は内外面ともヨコナデを施している。



第20図　土器溜り出土の土器1（S＝1/4）



第21図　土器溜り出土の土器２（S＝1/4）

110は小型の鉢で、内湾して立ち上がり、方形におさめた口縁端部には凹線を施している。体部外面に横方向のヘラミガキ、内面にはていねいな縦方向のヘラミガキを施している。

111～120は粗製の台付鉢である。111･112は鉢部が「V」字形に直線的にのびて口縁部にいたるもので、口縁端部は上下にわずかに拡張して面をなしている。111の内面にはハケメ、112にはヘラミガキが施されている。113はほぼ完形に復元できたもので、鉢部はふくらみをもって「U」字形に立ち上がり、端部は方形におさめている。外面はヘラケズリが施され、内面はヘラミガキがみられる。また口縁部周辺は内外面ともヨコナデによって仕上げられている。鉢部の容量は約7.9㍑を量る。

114～120は脚台のみの破片である。外面は縦方向の粗いヘラケズリが施され、鉢底部の残存しているものの内面はていねいなヘラミガキがみられる。脚部はほぼまっすぐにのびるもの(115･118)と屈曲して斜めに広がるもの(114･116･117･119)とがある。120はやや小型の脚台で内湾して広がり、端部は丸くおさめている。7個体ある脚台部の経は、最小で5.6cm、最大で9.4cmを測り、平均は7.07cmである。

121は弥生時代後期後半頃と思われる製塩土器の脚部である。外面に指頭による圧痕がみられ、内面にはヘラケズリが施されている。

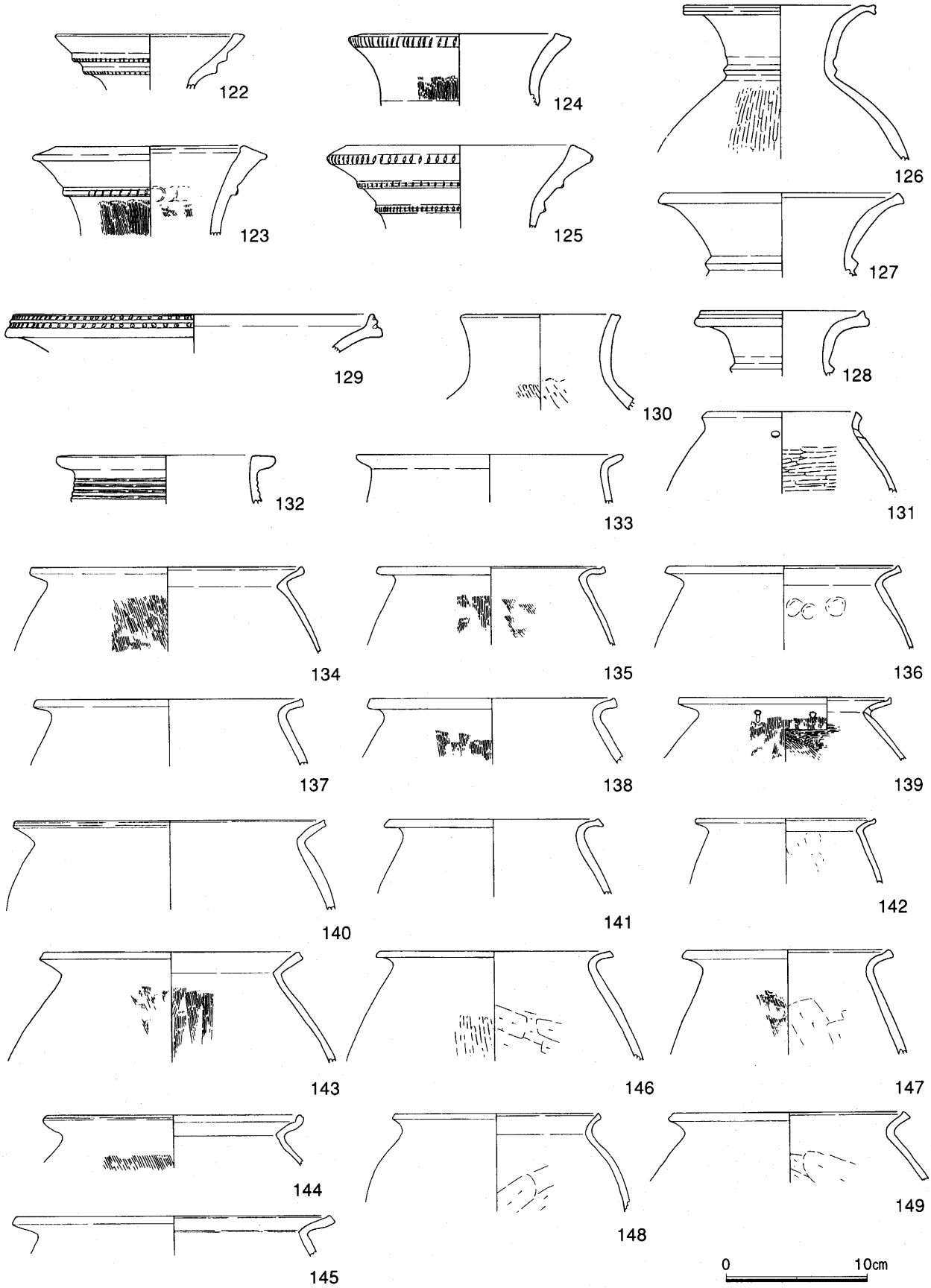
3．包含層出土の遺物

北区では、北東から南西にかけて堆積している帯状の礫群を覆うように3層ほどに分かれる灰黄褐色の遺物包含層がみられた。これらには、主に弥生時代中期に属する土器片が含まれており、あわせてサヌカイト製の石鏃、石包丁等も出土している。出土遺物は、整理用コンテナ約4箱分ほどあり、このうち図化し得たものは、土器が102点、石器が7点ある。

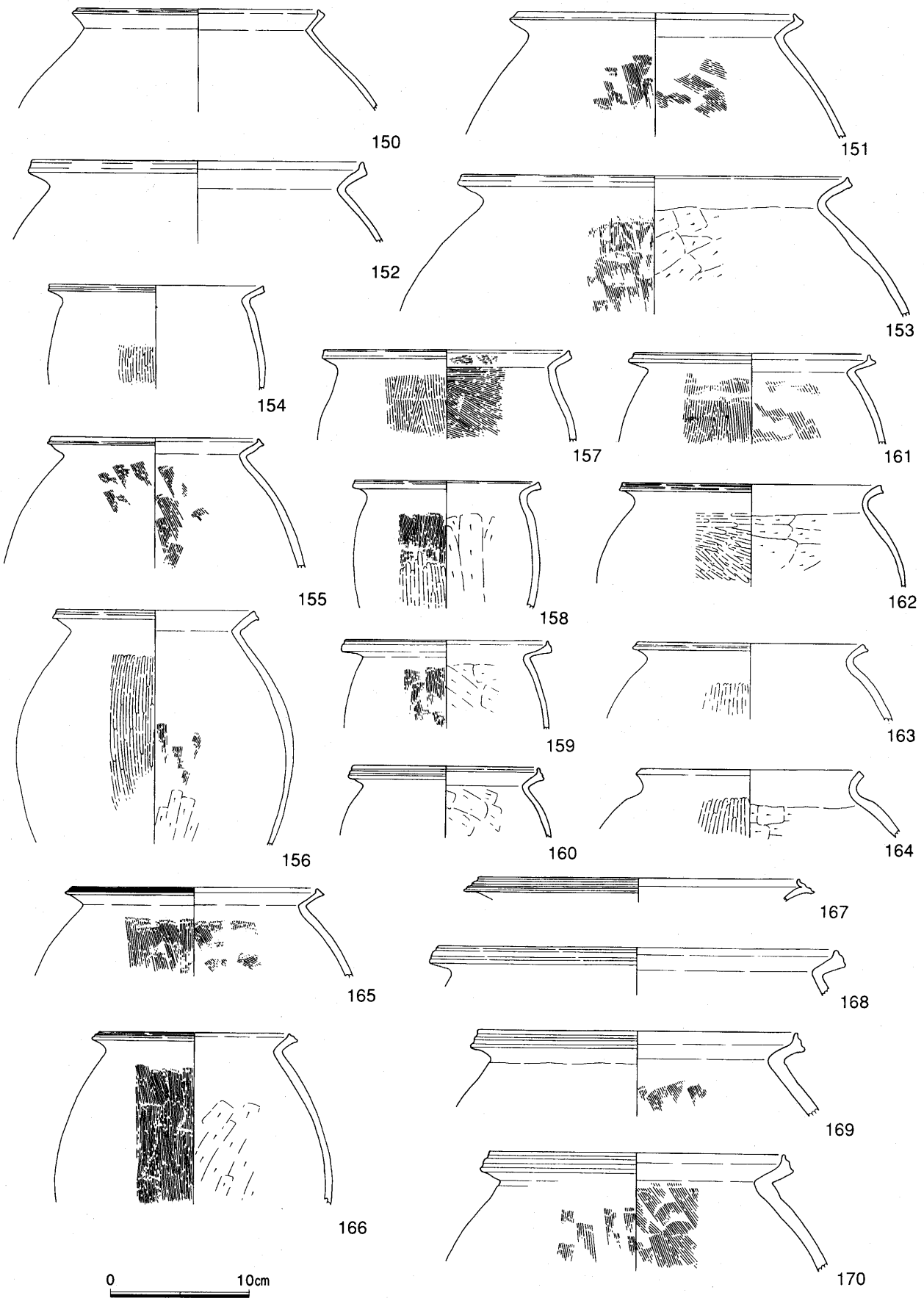
土　器(第22～25図)

122～131は壺である。122～125は、頸部から口縁端部に向かって徐々に肥厚して、端部は大きな面をもっている。頸部外面には1～2条の貼付突帯が巡らされ、口縁端部とともに細い刻目が施されているものがみられる。126～128は広口の壺で、口縁部が大きく開き、端部は肥厚させて凹線文を施しているものもみられ、頸部には断面三角形の突帯を1条巡らせている。129は口縁部のみの小片であるが、肥厚させた口縁端部の凹線の中に、2段に刺突文を巡らせている。130は外反気味に立ち上がる口縁をもつ直口壺、131は頸部から短く立ち上がる口縁部をもつもので、小片であるために数は不明であるが、頸部に円孔が穿たれている。

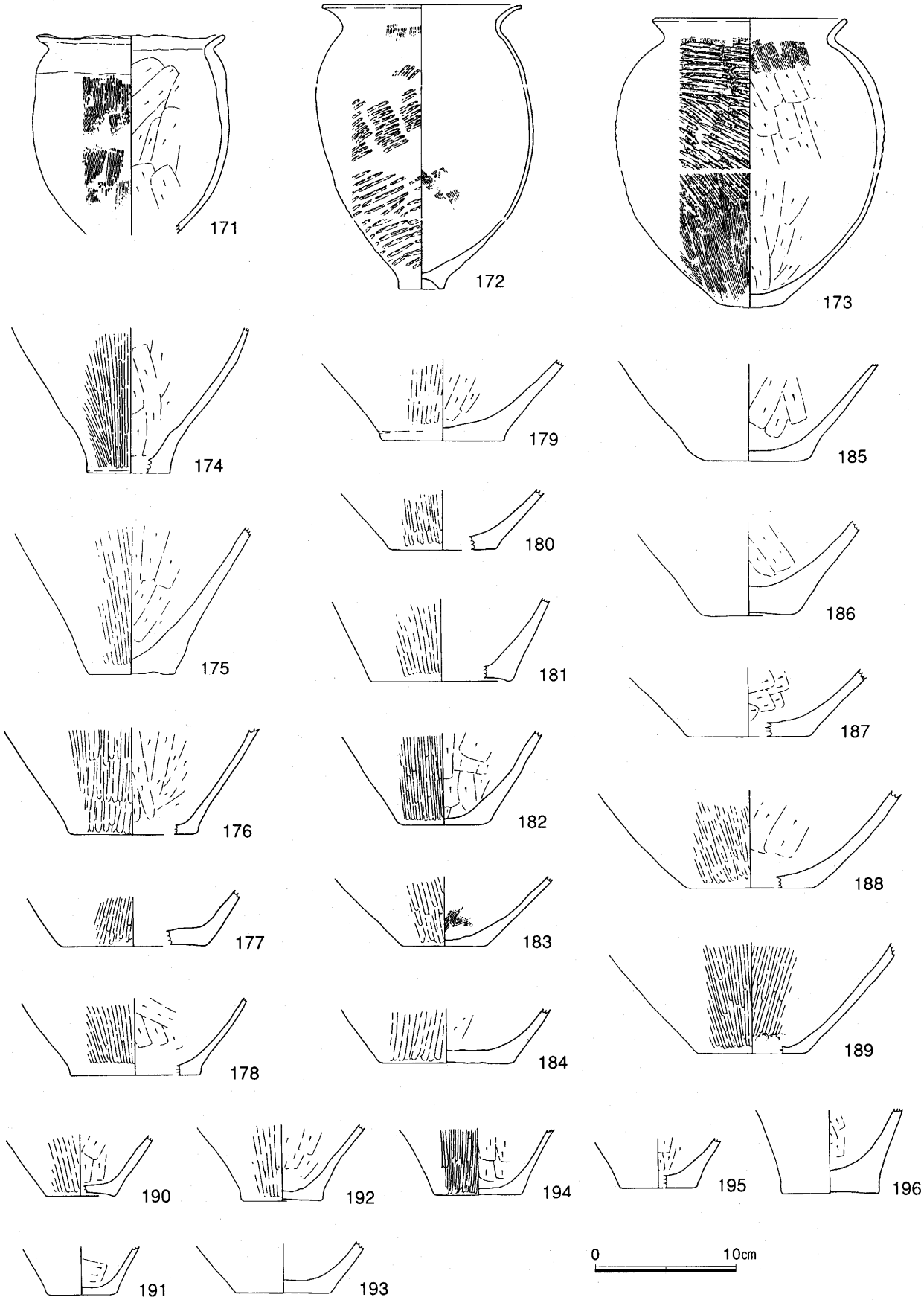
132～173は甕である。このうち132は口縁部のみの小片であるが、逆「L」字形を呈する貼付口縁をもつもので、口縁下部に現存で4条のヘラ描き沈線がみられる。やや小型ながら弥生時代前期後半の特徴を有する土器である。また133は胴が張らず、ゆるやかに「く」の字形に屈曲し、端部を丸くおさめる口縁部をもっている。134～149は「く」の字状に屈曲して、口縁部を上方にわずかに肥厚させて面をもたせているものである。胴部外面の上部にハケメを施しているものが多くみられる。胴部内面上半はハケメないしはヨコナデが施されており、146～149のように比較的高い位置までヘラケズリを施しているものもみられる。139は小片であるが、屈曲部に焼成前の円孔が、現存で2個穿たれている。150～153はやや大ぶりの甕で、153の口縁部径は28.6cmを測る。154～163･165～170



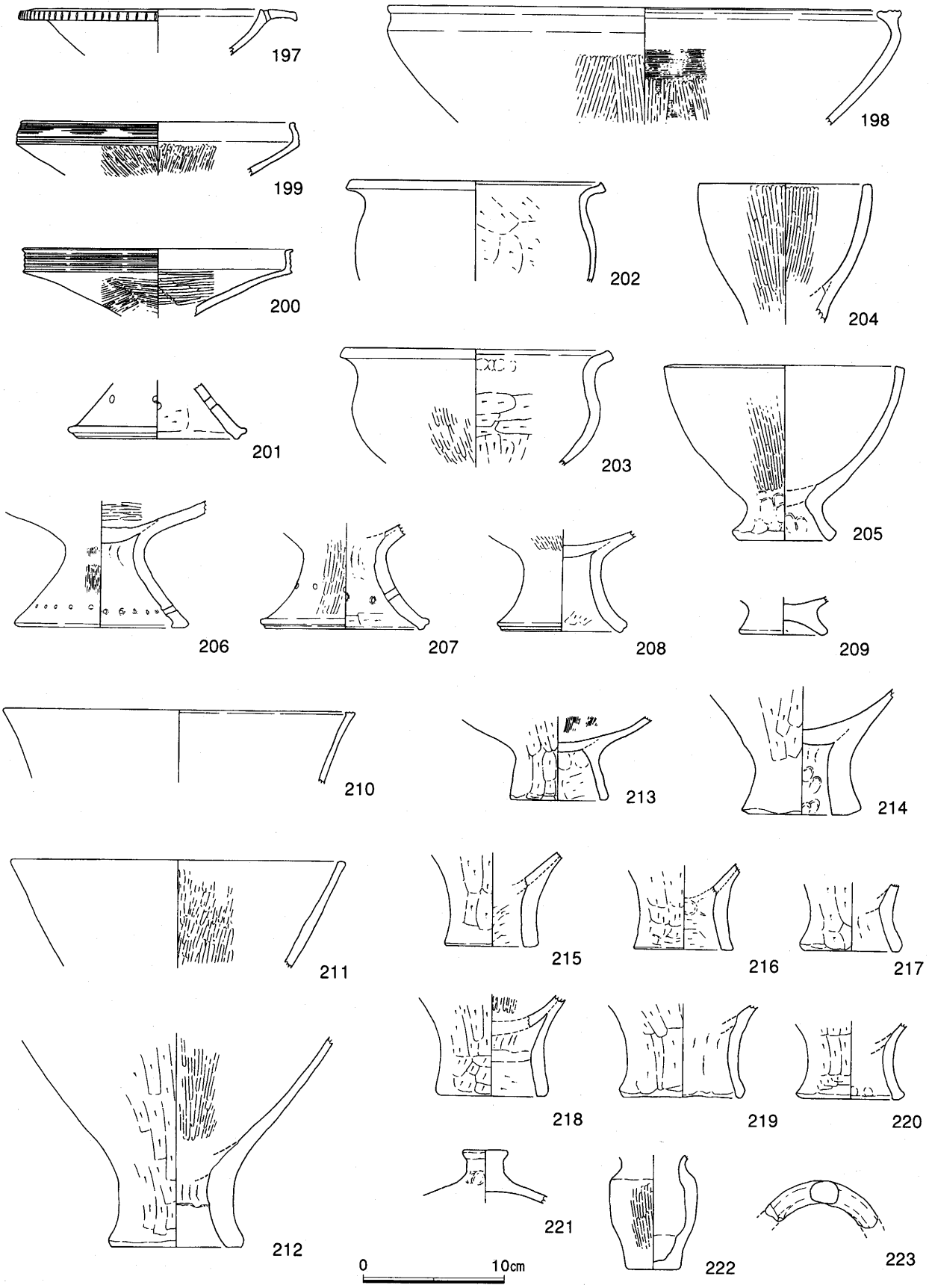
第22図　包含層出土の土器１（S＝1/4）



第23図　包含層出土の土器2（S＝1/4）



第24図　包含層出土の土器３（S＝1/4）



第25図　包含層出土の土器4（S＝1/4）

は口縁端部を上下に拡張させ、端面に１～３条の凹線文を巡らせているものである。胴部の外面の調整については、ハケメのみのもの、上方にハケメを施し、下方をヘラミガキとするもの、あるいは全体にヘラミガキとするものなどがみられる。また内面の調整は、上方をハケメ、下方をヘラケズリとするものや、上方までヘラケズリを行うものなどがある。171はやや雑なつくりの甕で、「く」の字形に強く屈曲する口縁部は短く広がり、端部は丸くおさめている。内面には粗いヘラケズリ、外面は、ハケメが施されており、外面上半には煤が付着している。172は、同一個体と思われる破片から推定復元したもので、あまり肩の張らない胴部から強く外反してのびる薄手の口縁部をもち、底部は凹みのある平底となっている。体部はいわゆる分割成形されたもので、外面には右上がりの叩き目が施され、頸部外面と胴部内面にハケメがみられる。173は、やや肩の張った球形の体部から短く外反する口縁部をもつもので、底部はやや尖り気味の平底を有する。胴部外面にはハケメを施したのち、上位には左上がりの叩き目を施している。胴部内面はヘラケズリ、頸部内面付近はハケメにより調整されている。

174～196は、壺、甕あるいは鉢の底部である。ほとんどのものが外面をヘラミガキ、内面をヘラケズリとしている。

197～201は高杯である。197は口縁部が屈曲してほぼ水平にのびるもので、屈曲部内縁に細い突帯が巡っている。口縁端部には刻み目を施し、水平の縁の内寄りに小さな孔を穿っている。198は椀形の杯部をもつ大形のもので、杯部から内側に強く屈曲して口縁端部を大きく拡張しており、端面には３条の凹線を巡らせている。外面はヘラミガキ、内面はていねいな横方向のハケメののちヘラミガキが施されている。199･200は皿形の杯部をもつもので、199は口縁部が内湾気味に立ち上がり、200はまっすぐに上方に立ち上がるものである。内縁外面には、４～５条の凹線文が巡らされており、調整は内外面ともヘラミガキが施されている。201は高杯脚台部で、「ハ」の字形に広がる脚台に円孔が穿たれている。脚台下端面は斜め上方へ拡張しており、内面はヘラケズリが施されている。

202･203は脚台付の鉢部と思われ、屈曲して短く広がる口縁部をもっている。同じく204･205も脚台付の鉢で、内湾してゆるやかに上方へのび、口縁端部は方形におさめている。外面はていねいなヘラミガキが施され、204は内面にもていねいにヘラミガキがなされている。206～209も同様の脚台部と思われ、円孔が穿たれているものもみられる。

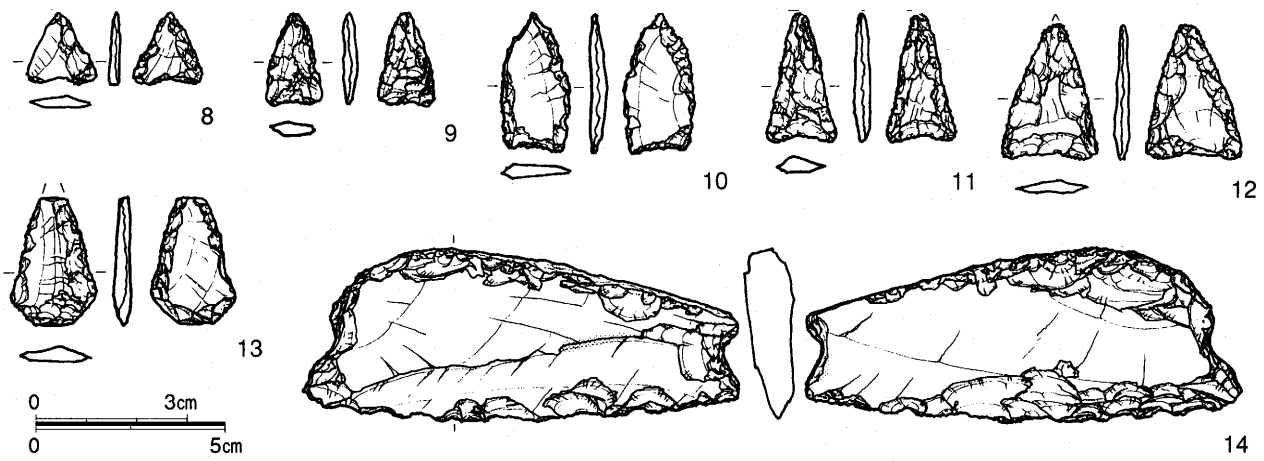
210～220は、粗製の脚台付の鉢である。210～212は「Ｖ」字形に直線的にのびて口縁部にいたるもので、内面はヘラミガキが施されている。215～220は脚台のみの破片で、あまり広がらずにまっすぐにのびるものと、斜めに広がるものとがみられる。外面はいずれも粗いヘラケズリが施されている。６個体ある脚台部の径は、最大で9.0㎝、最小で6.7㎝を測り、平均は7.66㎝である。

221は円筒形のつまみをもつ笠形の蓋で、つまみ部の上端は拡張して段をつけている。

222はミニュチュアの手づくねの土器で、肩の張った体部にしっかりとした底部をもっており、外面はヘラミガキが施されている。

223は把手の一部と思われ、やや歪んだ円形の断面をもっている。

これらの土器は、３層ほどに分けられる遺物包含層から出土したもので、弥生時代中期後半に中



第26図　包含層出土の石器（S＝2/3・1/2）

心をおくものと考えられる。なかには132のように前期に含まれると考えられる甕から172や173などの後期末期のものまで含まれているが、全体的にみて後述する南区に比べ、やや前出的な要素をもつものが多くみられように見受けられる。

石　器（第26図）

土器以外の出土遺物として、サヌカイト製の石器の一群がみられる。

8～13は石鏃で、調整には精粗の差はあるものの、概して周縁部の加工のみにとどまっている。8～12は凹基鏃であり、8は三角形状を呈しその他は長幅比が大きい。13は平基鏃と思われるが、基端を意図的に落としており、あるいは凸基鏃として捉えてもよいかも知れない。

14は完形の石包丁で、背部に原礫面を残し、一方の幅が狭くなっているがていねいな抉りが施されている。

第３節　南区の調査

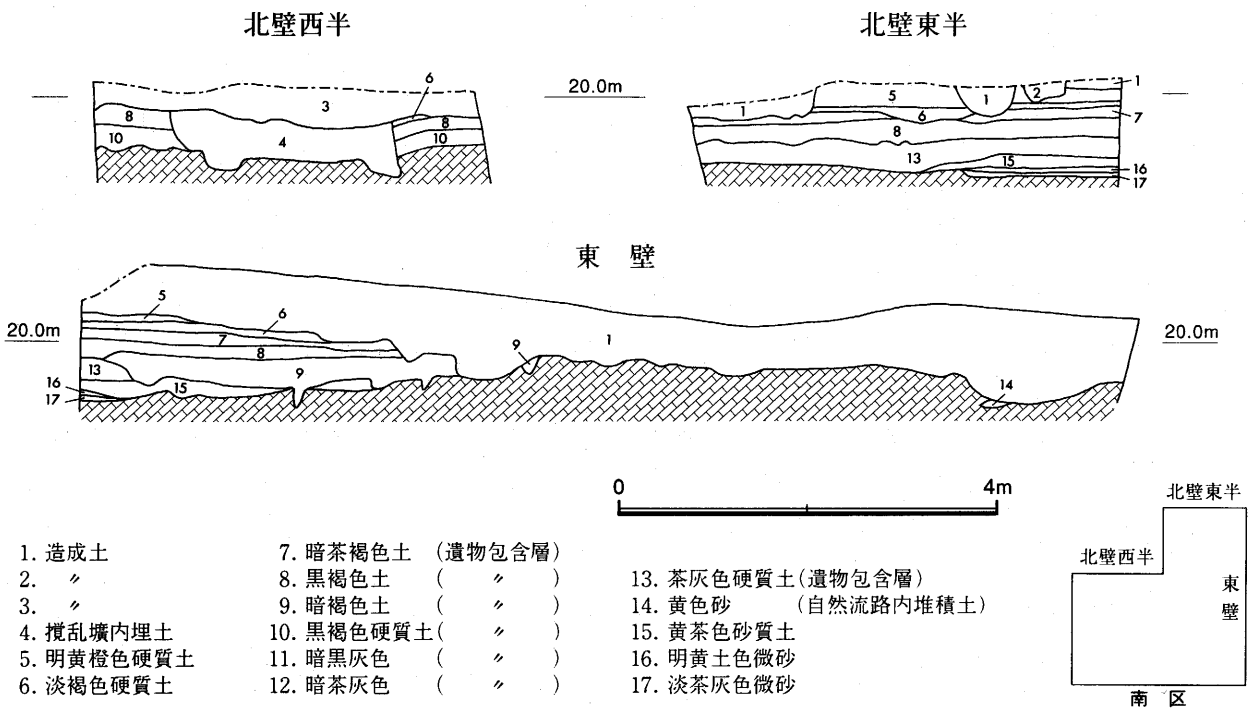
1. 調査区の概要と基本層序

南区はプールの改築範囲に合わせて設定したもので、位置的には保育園敷地の南西端にあたる。調査区の南側はすぐに比較的高低差のある段々畑となっており、保育園の造成にあたっては、かなりの切り盛りが行われたと想像できる。

調査区の基本層位は、東壁断面図が最もよく表している。まず、地表下60cmまでは硬く叩きしめられた造成土が調査区全体にわたってみられた。この下に、自然堆積層をはさんで黒褐色の遺物包含層が存在する。主として弥生時代中期の遺物を含むこの層は厚さ40～50cmで、東壁では北から約５ｍの地点まで認められ、そこから南側については造成による削平を受けていた。したがって、本来の遺跡の広がりについては明らかではないが、包含層の下に存在する基盤層は南へ行くにつれ徐々に高くなっているものの、包含層の上面はほぼ水平であることから、この地点からそれほど南へは延びておらず、おそらくその始まりは調査区内に収まっていたものと思われる。遺構としてはピットと溝があるが、全てこの包含層直下で検出されている。

また、調査区の南端で、東西に延びる自然流路を確認した。既にその上部を削平されていたが、黄色砂に混じって弥生時代中期の土器や石器がかなりの量出土したほか、わずかではあるが須恵器や中世の土器も含まれていた。

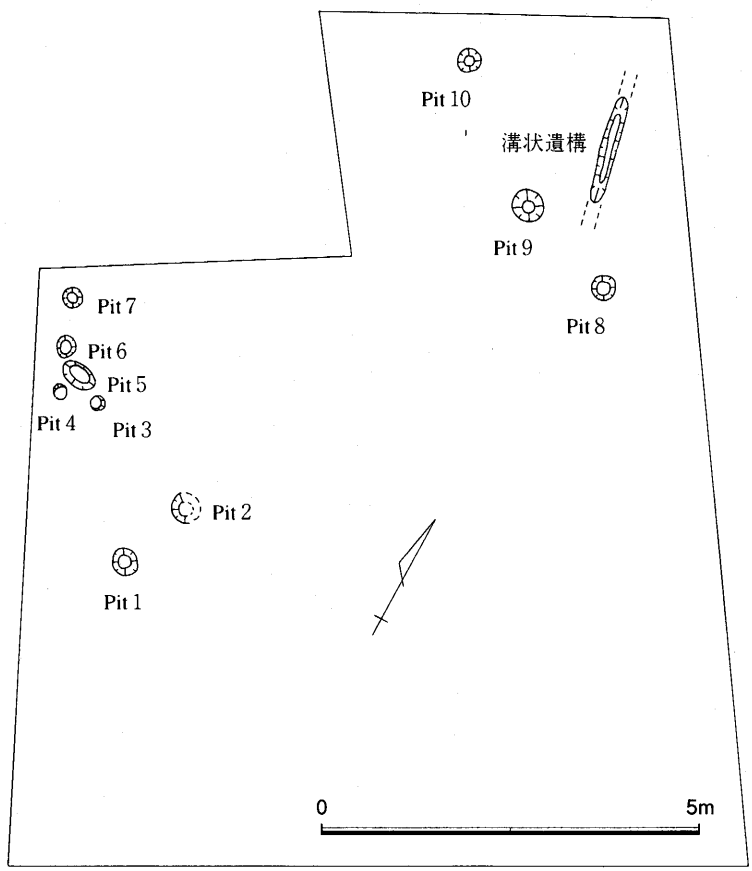
なお、調査区北側で確認された遺物包含層は、調査区中央付近の造成土直下で認められた撹乱溝や撹乱壙により大きく破壊を受けていたため、残存していたのは北側に突き出した調査区北東部と北西端の一部分という状況であった。



第27図　調査区断面図（S＝1/80）

2. 遺構と出土遺物

検出された遺構としては、ピット10基と溝状遺構1基があり、全て遺物包含層直下の基盤層上で検出された。これらは調査区の北東端と北西隅に集中して確認されたが、これは、調査区の南半は保育園の造成により、また中央部付近は造成以前の撹乱により破壊されていたため、結果としてそのような分布になったものと思われる。

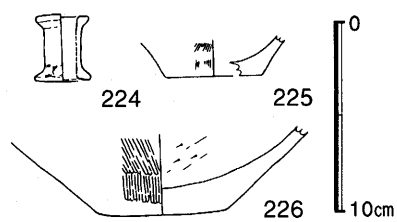


第28図　南区遺構平面図(S=1/100)

ピット1・2は調査区北西隅の一群から少し南東側に離れて検出されたもので、ピット2は撹乱壙によりその東半が破壊を受けている。どちらも直径40cm程度で、深さは15cm前後である。ピット1から、ミニチュア土器(224)の完形が1点出土した以外は、いずれも弥生土器の小片が少量認められたにすぎない。このミニチュア土器は器台と思われ、器高3.6cm・口径2.8cm・底径3.0cmを測る。ややいびつな筒状の胴部をもち、それぞれ端部をつまみ出して口縁部と底部をつくっている。底部外面には、その際ついたと思われる指頭圧跡が明瞭に残る。焼成はやや不良で、調整については明らかではないが、胴部外面には横方向のナデあるいはハケの痕がわずかに認められる。色調は、全体的に灰褐色を呈する。

ピット3～7は、調査区北西隅で比較的集中した状態で検出された。ピット5を除けば、直径20～30cmと小さいもののピット3・6は深さが50cmを越え、検出されたピット群の中では最も明瞭なものである。これらのピット群からは弥生土器が出土しているが、細片のため図化できなかった。出土石器としては、ピット5から楔形石器が、ピット7から石鏃(15)がそれぞれ1点出土している。

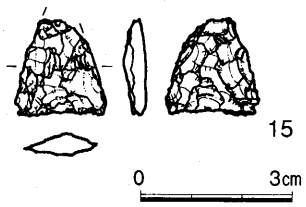
ピット8～10は、調査区北東端で検出されたものである。直径は30～40cmで北西隅のものに比べればやや大きいが、検出面からの深さは5～13cmと非常に浅い。出土遺物としては弥生土器があるものの、他のピット同様いずれも小片であり、図化できたものはピット9出土の壺の底部1点(226)のみである。



第29図　遺構出土土器(S=1/4)

溝状遺構は、調査区北東端で検出された。検出時の大きさは長さ1.4m・幅20cm・深さ6cmで、おそらくほぼ南北に延びる溝の底

の一部と思われる。ただし、その延長線上にあたる北壁東半の断面にはそれらしき土層は確認できず、もともとの形状については不明である。出土遺物としては甕の底部片が１点(225)ある。



第30図　遺構出土石器
(S=2/3)

これら検出された遺構の時期については、出土した土器がいずれも小片であるため特定することはできない。しかし、遺構の全てが遺物包含層の直下で検出されており、またピット１出土のミニチュア土器と同形のものが包含層中からも出土していることから、後述するようにこの包含層とほぼ同時期の弥生時代中期末頃のものと考えてよいだろう。

3. 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物としては、土器･土製品･石器などがある。これらのうち、土器は整理用コンテナで合計６箱が出土しているが、包含層からの出土でありながら小片が多く、完形に復元できたものは皆無であった。また、出土した石器はほとんどがサヌカイト製で、石鏃･石槍をはじめ石包丁･スクレイパー･楔形石器などその種類は多い。

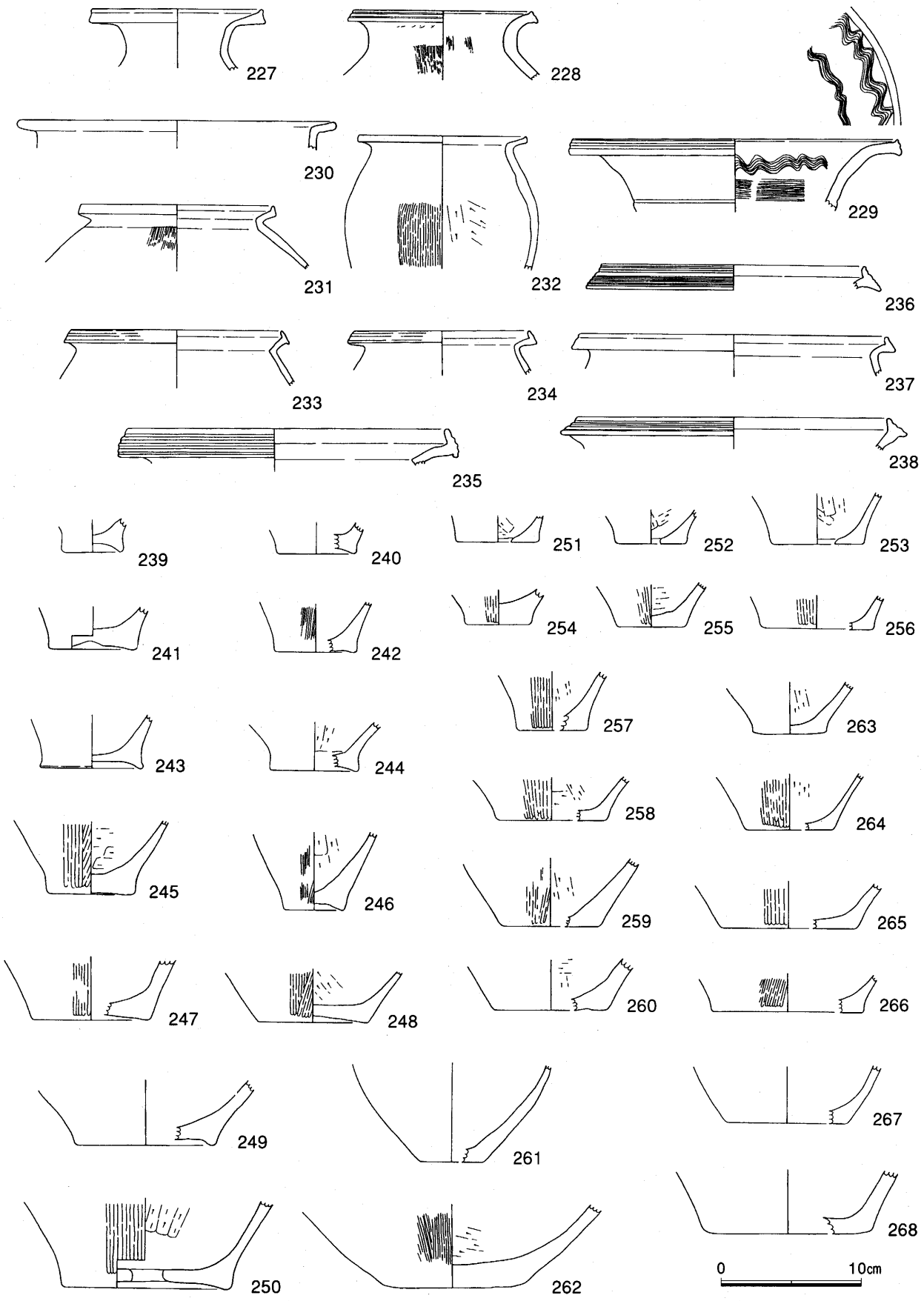
土　器(第31･33図)

227～229は壺で、いずれも漏斗状に開く口縁部をもち、その端部はわずかに拡張され浅い凹線が巡っている。229は、口縁内面に７条の櫛描波状文が２列認められる。

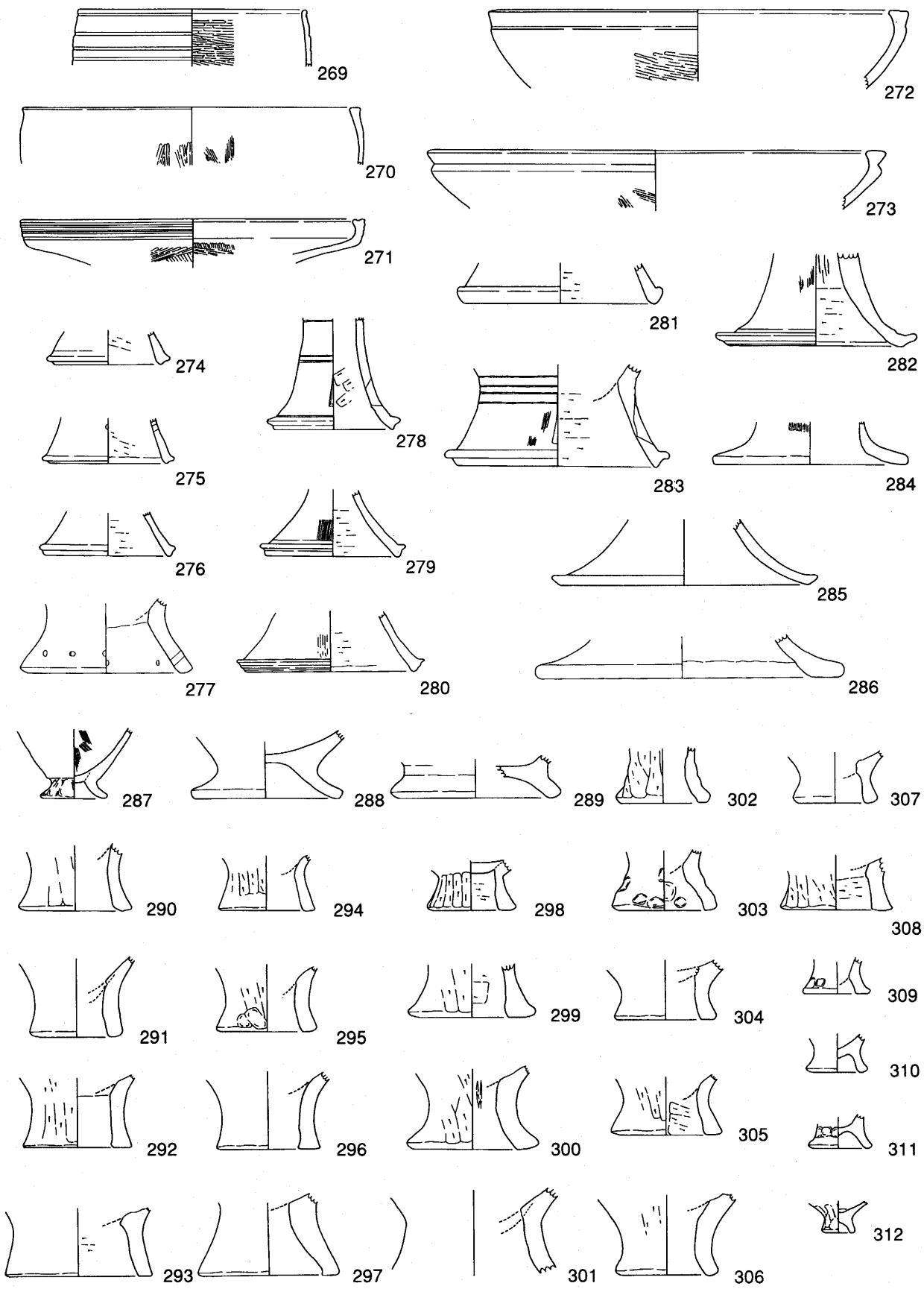
230～238は甕である。230は逆Ｌ字形の口縁を有するもので、胴部の張りはほとんどないようである。調整については不明瞭であるが、主としてナデによっているものと思われる。232は「く」字形に屈曲する口縁をもち、胴部外面にはハケメ、内面は肩部以下にヘラケズリが認められる。231･234･237は、屈曲する口縁部の端が上方にのみ拡張されるもので、231がほぼ垂直につまみ上げられているのに対し、234･237は斜め上方へ折り返して口縁部を形成しており、その端面には浅い凹線がわずかに認められる。233･235･236･238は口縁端部の拡張が下方へも認められるもので、特に235･236･238はその拡張面が広く、明瞭な凹線が施されている。

239～268は、壺･甕あるいは鉢の底部である。239～250は上げ底気味に作られた底部で、そのほとんどがやや外側に張り出すタイプであるが、胴部下半から直線的に底部へ至るタイプ(247･248)のものもある。251～268は平底のもので、上げ底気味のものと同様、外側に少し張り出して底部を形成するものが多い。これら底部の調整としては、判別可能なものの全てに内面ヘラケズリが認められ、外面についてはほとんどがヘラミガキであるが、ハケメ調整のもの(242･246)もわずかに存在する。なお、250～253には焼成後の穿孔が認められ、241の底部中央には、穿孔の途中と思われる浅い凹みが残っている。

269～273は高杯の口縁部で、椀形の杯部をもつもの(269･270)と皿形の杯部をもつもの(271～273)がある。269はボウル状の深い杯部を有するものと思われ、その器壁は薄く口縁端部は丸くおさめている。外面には細い凹線が現状で４本認められ、内面には横方向のヘラミガキを施している。271は杯部から強く屈曲して上方へ折れ曲がる口縁端部をもち、その外面には４条の凹線がみられる。272･273は杯部から緩やかな曲線を描いて口縁部へ至る器形をもつもので、口縁端部はわずか



第31図　包含層出土の土器１（S＝1/4）



第32図　包含層出土の土器２（S＝1/4）

に肥厚してその上面は水平となるが、どちらも口縁端部直下に段を有している。

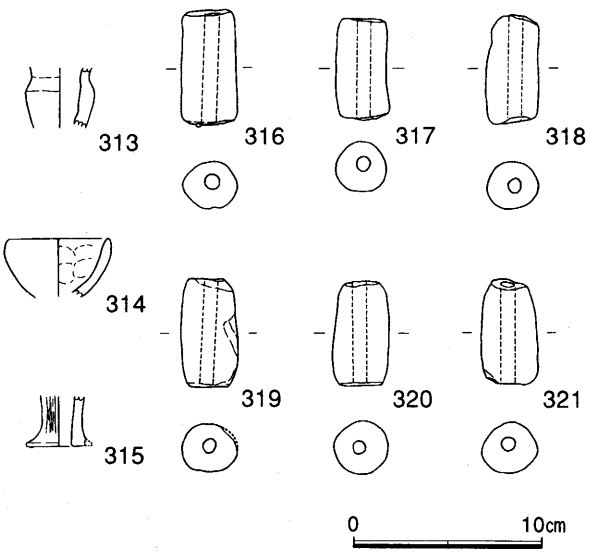
274～286は高杯の杯部で、脚端部を肥厚させるもの(274～276·278～283)とそのままおさめるもの(277·285·286)がある。脚端部の肥厚は主として斜め上方へつまみ出すことにより行われており、その結果拡張面には凹線が1条巡ることになるが、280のようにさらにナデを施すことにより2条の凹線をもつものもある。調整としては、内面がヘラケズリで外面はヘラミガキあるいはハケ調整をしているものが多い。透し孔は円形のものや三角形のものがあるが、小片のため確認できないものも多い。なお、282にはしぼり目が残っている。脚裾部が大きく外側へ開く285は、胎土が非常に精良で内外面とも丁寧なナデを施しており、壺の口縁部の可能性もある。

287～289は台付鉢の脚部と思われる。287はやや薄手の体部に、外側に強く開く小さめの脚が付くもので、体部内面にはハケメ、脚部外面には指頭圧跡が残る。胎土は比較的精良で焼成も良好である。288·289はどちらも大形の脚部で、内外面とも丁寧なナデにより仕上げられているが、胎土には2～3㎜の砂粒を含み焼成もやや不良である。なお、287～289には全て円盤充填法が用いられている。

290～308は粗製台付鉢の脚台部である。脚部に続く鉢部の形がわかる破片は出土していないが、北区での例から、逆「ハ」字形に大きく開くやや深めの鉢形を呈すると思われる。調整は、外面が縦方向の荒いヘラケズリ、内面が横方向のヘラケズリで、円盤充填法により鉢部の底部を形成する。これらの土器は製塩に用いられたと考えられており、熱による器表面の剥落が目立つ個体が多い。脚台部の形態は、「ハ」字形に外反するものがほとんどであるが、303のようにやや内湾しながら「ハ」字形に開くものや、ほぼ直線的に開くもの(293·297)などもある。脚台部の径は、最大が10.5㎝、最小が6.0㎝とかなりの差があるものの特にある数値に集中することはないようで、計測可能な18個体の平均値は7.78㎝である。

309～312は製塩土器の脚部である。309·310はともに暗灰褐色を呈する焼成不良の土器で、胎土には2～3㎜の砂粒を多く含んでいる。円盤充填により底部をつくるが、310ではその中心部分が尖っており、いわゆる尖底状の鉢部となる。312は脚径2.4㎝と非常に小さく、また器壁も薄く作られている。

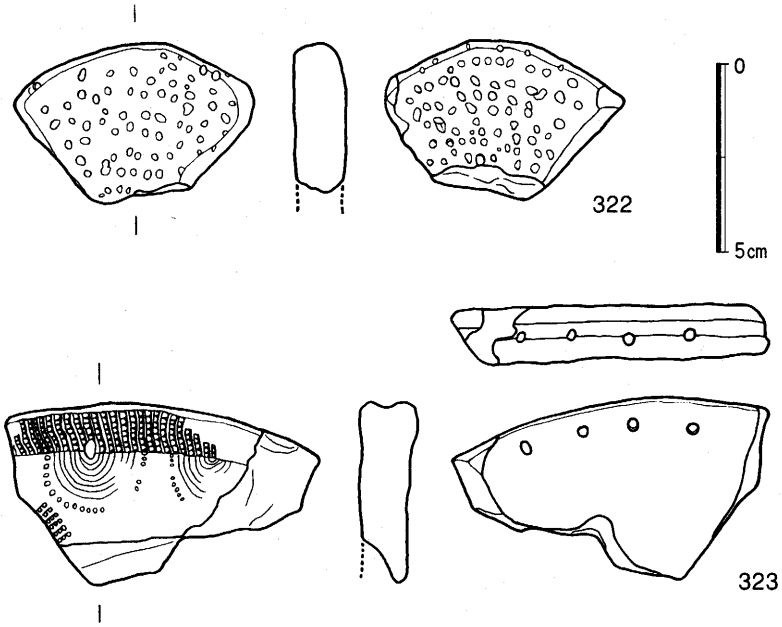
313～315はミニチュア土器である。313は壺で手づくねにより作られており、胎土には微砂粒を多く含んでいる。底部の形については不明であるが、これとほぼ同じタイプと思われる土器(222)が北調査区からも出土している。314は手づくねによる鉢で、焼成はややあまく器表面の荒れが目立つ。315は器台である。胴部外面にはハケメが残り、内面は丁寧なナデによりなめらかな円形を保っている。上半部を欠く



第33図　包含層出土の土器・土製品(S=1/4)

が、これと同形のもの(224)がピット１から出土している。

これら包含層出土土器の時期については、230のように前期末頃と思われるものや、後期中頃(309～311)あるいは古墳時代初頭(312)と考えられる製塩土器などがわずかに認められるものの、全体としてはほぼ弥生時代中期後半から末頃にかけてのものが主流を占めている。



第34図　包含層出土の土製品(S＝1/2)

土製品(第33･34図)

316～321は土錘である。いずれも管状土錘と呼ばれるもので、長さ5.3～6.0cm、幅2.7～3.0cm、孔径7.0～7.5mmで、重量は48.0～55.7gと少しばらつきがあるものの、ほぼ同形同大といってよい。焼成は良好で色調は黄白色を呈するが、316を除く全てに黒斑が認められる。

322･323は、分銅形土製品である。322は上半部(下半部)のくりこみ部分を欠くもので、棒状工具による刺突文が表裏及び端面に施されている。焼成は良好で、にぶい黄褐色を呈している。323は、復元径約16cmの大形品である。文様は、端面に沿って幅６mm程度の簾状文風の刺突文が巡り、その内側を縁どるように重弧文が配され、さらにその外側には浅く非常に小さな竹管文を巡らせている。また、端面には凹線状の窪みが認められ、この端面に向かって裏面からの貫孔が現状で４カ所認められる。焼成はやや不良で、にぶい赤褐色を呈している。

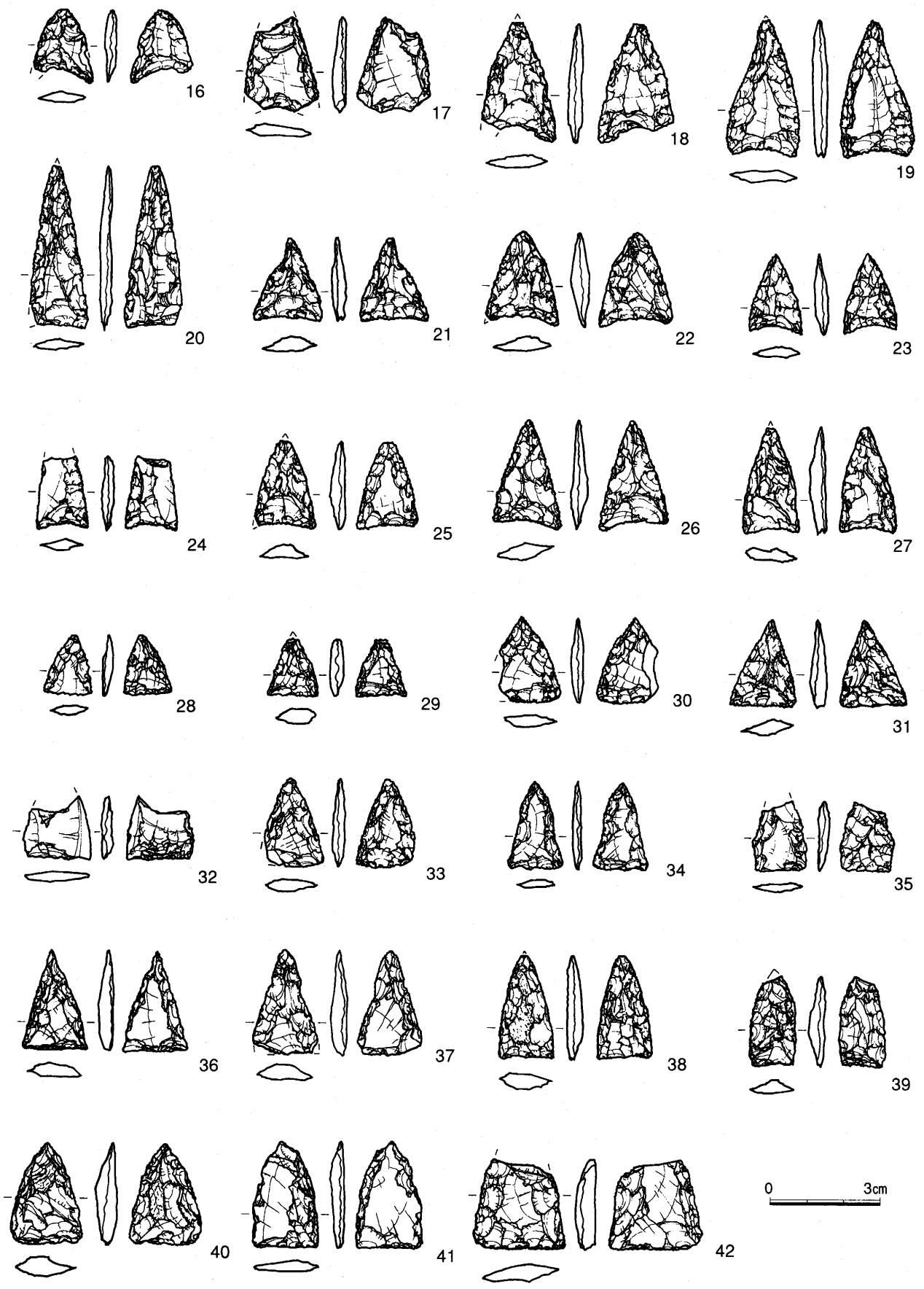
石　器(第35･36図)

包含層中からは総数924点のサヌカイト製石器･剥片が出土しており、その総重量は2,442.8gに及ぶ。器種として明確なものは石鏃33点、石鏃未製品10点、石槍１点、石包丁１点、スクレイパー13点、楔形石器18点、加工痕剥片21点、使用痕剥片４点、石核８点がある。また、粘板岩製石錘、砂岩製砥石も各１点出土している。

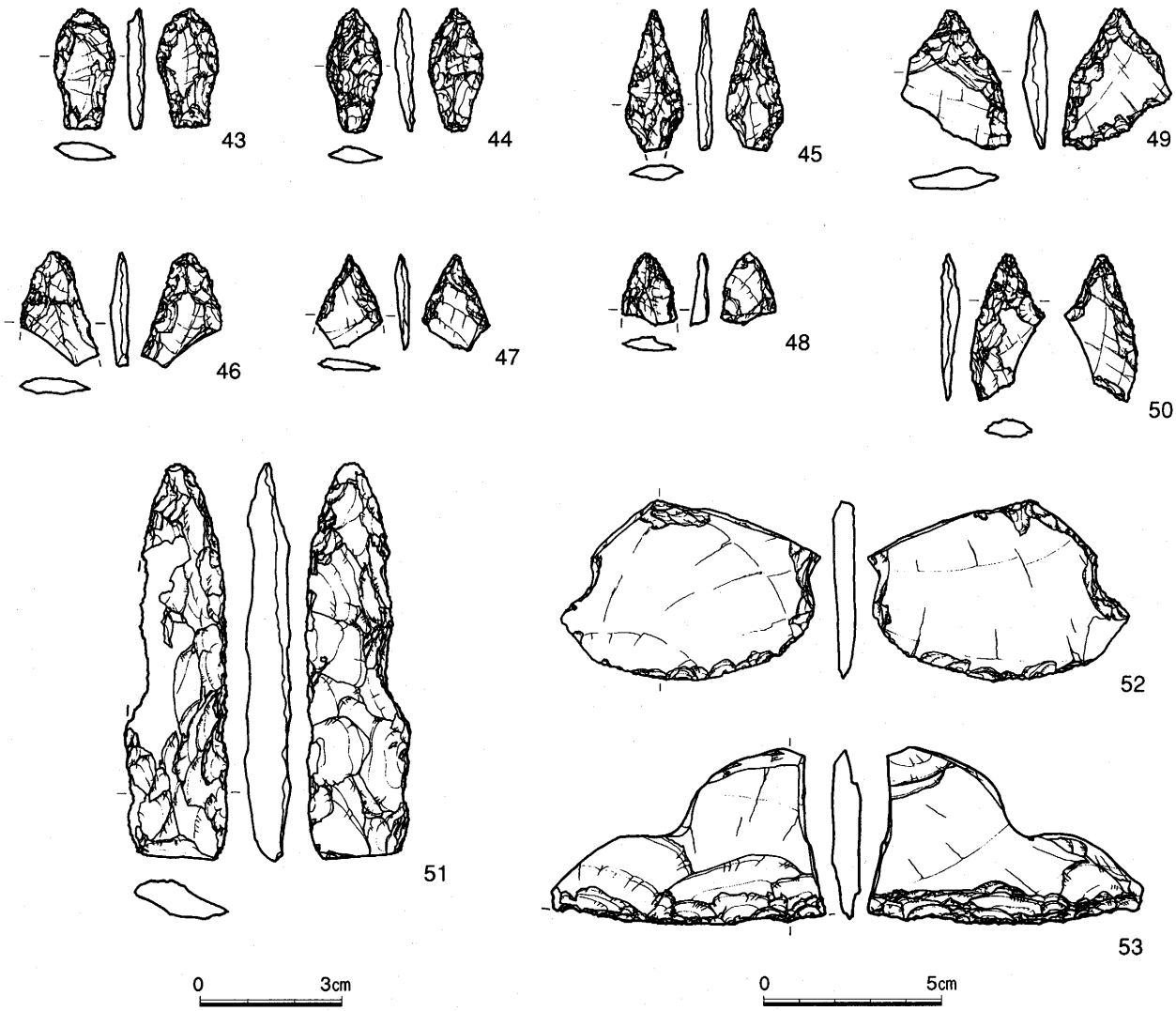
16～27は凹基鏃である。16～18の抉りがやや深い以外は、きわめて浅い抉りのものばかりである。28～42は平基鏃である。33･34のようなきわめて小形のもの、42のように４gを越える大形のものもある。43～45は有茎鏃である。46～48は基部の欠損した形式不明の石鏃である。石鏃未製品は49･50の２点を図示した。

51は石槍である。左側縁の大部分を欠損している。

52･53は石包丁と考えられる。52は通常の石包丁より幅が狭いが、両端に紐をかける抉りが作られていることから、石包丁に含めた。どちらも使用痕は明確でない。



第35図　包含層出土の石器1（S＝2/3）



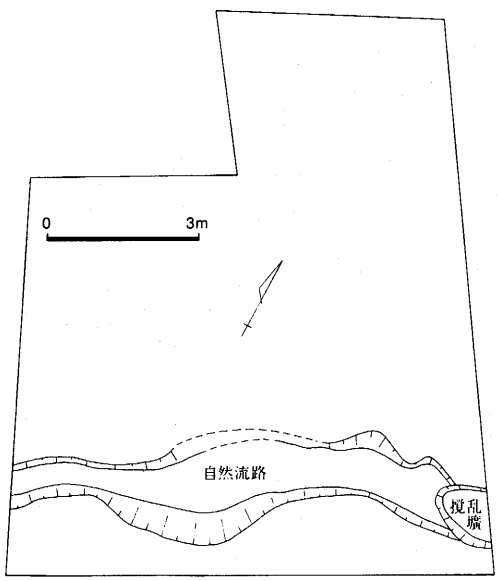
第36図　包含層出土の石器２（S＝2/3・1/2）

４．自然流路出土の遺物

調査区の南端、造成土の直下で東西に延びる自然流路を検出した。東端と中央付近の一部が撹乱により破壊を受けていたが、その幅は最大で約２ｍ、最小で約0.8ｍ、深さは40㎝程度であった。自然流路中には黄色粗砂のみが堆積しており、この粗砂に混じって弥生土器や石器、土製品などが、整理用コンテナで約５箱出土した。

土　器（第38･39図）

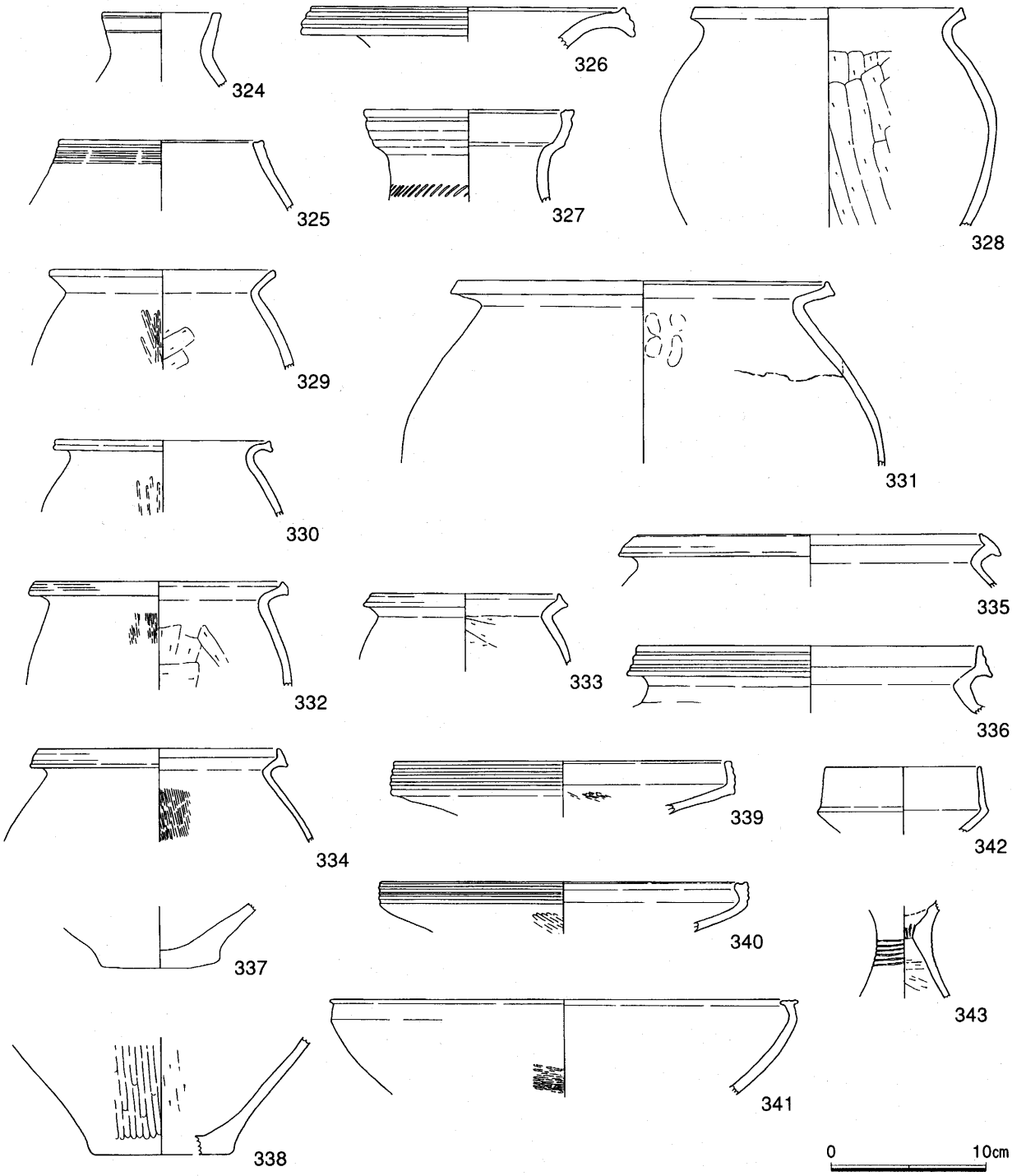
324～**327**は壺である。**324**は直口壺で、短く立ち上がる口縁部には２条の浅い凹線がみられる。**325**は肩の張った無頸壺と思われ、口縁部には４条の凹線、口縁上端部にはやや幅広の凹線をそれぞれ施している。**326**は漏斗状に開く口縁部の小片で、端部閣帳面には３条の凹線が巡



第37図　自然流路平面図（S＝1/150）

る。327は、屈曲してほぼ直立する幅広い口縁部に３条の凹線を施すもので、頸部には板状工具の木口部分による刻目文を有する。岡山県では出土例の少ないタイプの壺である。

328～336は甕で、口縁部あるいは胴部上半までの破片である。「く」の字状に屈曲する口縁の端部を、わずかに肥厚させるもの(330～333)や上下に広く拡張させるもの(334～336)などがあり、いずれも口縁端部に数条の凹線を巡らせている。328はやや肩の張った胴部に緩やかに外反する口縁部をもつもので、鉢の可能性もある。329は、「く」の字形に屈曲させた口縁の端部をそのままおさめた

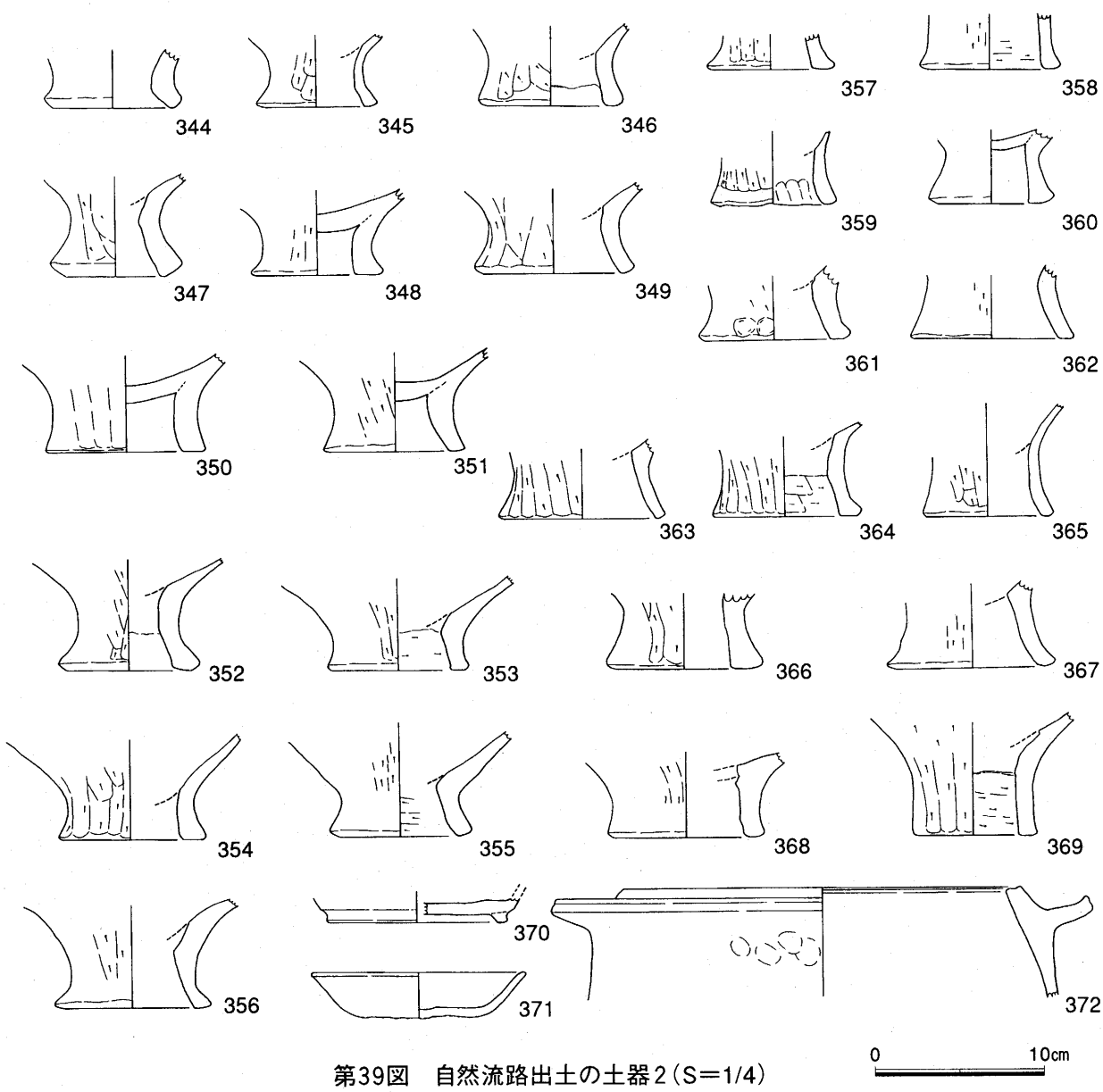


第38図　自然流路出土の土器１(S＝1/4)

もので、他のものに比べやや前出的な要素をもつ。外面の調整については、ヘラミガキのものとヘラケズリのものがみられ、内面については頸部以下をヘラケズリするものが多いが、334のようにハケメのものもある。

337･338は、壺･甕あるいは鉢の底部である。337はやや突出する底部をもち、長径7.7cm、短径6.8cmと楕円形を呈する。338は、器表面の磨滅が目立つものの外面にはヘラミガキ、内面はヘラケズリの痕跡がそれぞれ認められる。

339～343は高杯である。339･340は、どちらも屈曲して立ち上がる口縁部に４条の凹線文をもち、339はその端部を丸くおさめるのに対し、340では凹線状の窪みを有する。口縁部の立ち上がりは339のほうがシャープでその幅も広い。341は口径30cmを越える大形の高杯で、屈曲して短く立ち上がる口縁部の端を、ほぼ水平になるように左右に拡張している。その拡張面には２条の浅い凹線が認められる。342は口縁部の小片で、全形は不明であるが、口縁部の大きさ、器壁の薄さ、杯部の形状



第39図　自然流路出土の土器２（S＝1/4）

等から高杯に含めた。343は脚柱部1/2の破片で、６条のヘラ描き沈線が施されている。

344～369は粗製台付鉢の脚台部である。包含層から出土した一群と同様に、外面には縦方向のヘラケズリ、内面には横方向のヘラケズリをそれぞれ行うもので、脚台部と鉢部との接合は円盤充填法による。２次焼成によると思われる器表面の剥離や荒れが多くの個体でみられる。脚台部の形態としては、「ハ」字形に大きく外反するものが多いが、364･365のように外反の度合いが小さいものや、358･368･369のようにほとんど垂直に立ち上がり、そのまま鉢部に至る形態のものもある。脚台部の径は7.2cm～10.0cmまでのものがあり、図化した26個体の平均値は8.60cmである。

370は須恵器で、高台を有する杯身と思われる。高台は丁寧なつくりで、内外面とも回転ナデにより仕上げている。

371は土師器の杯で、底部外面はヘラ切り未調整、その他はヨコナデによって仕上げている。

372は土師器の羽釜で、口縁端部直下に、斜め上方に張り出す幅広の鍔が付く。調整は、鍔以下の外面については不明であるが、他は内面も含めてヨコナデを行っている。

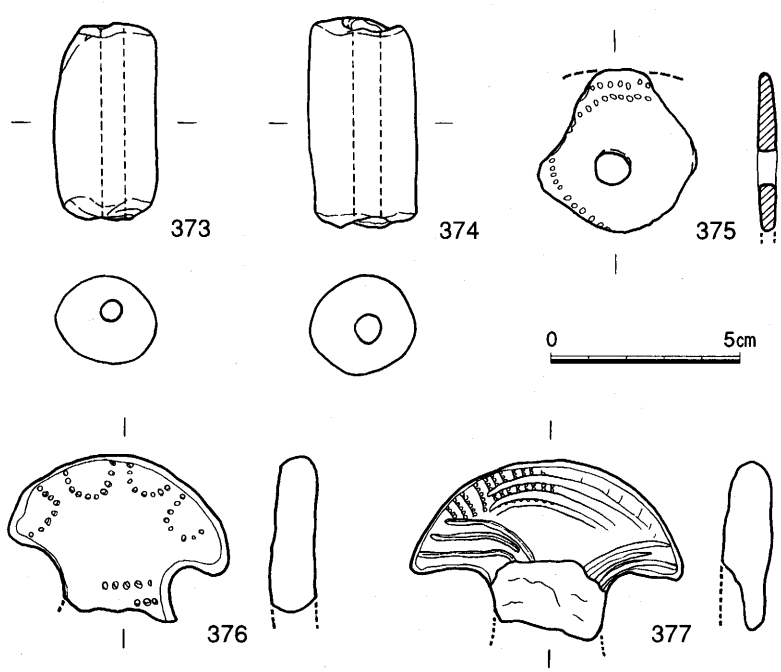
以上のように、自然流路から出土した土器の大半は弥生土器であって、これらは壺･甕･高杯の口縁部に多くみられたように凹線文を主体とするもので、若干の時期幅は認められるものの、ほぼ弥生時代中期後半から末頃にかけてのものとしてよいだろう。その他の時期のものとしては、370が奈良時代、371･372はおおむね平安時代と考えたい。

土製品（第40図）

373･374は管状土錘で、374には黒斑がみられる。

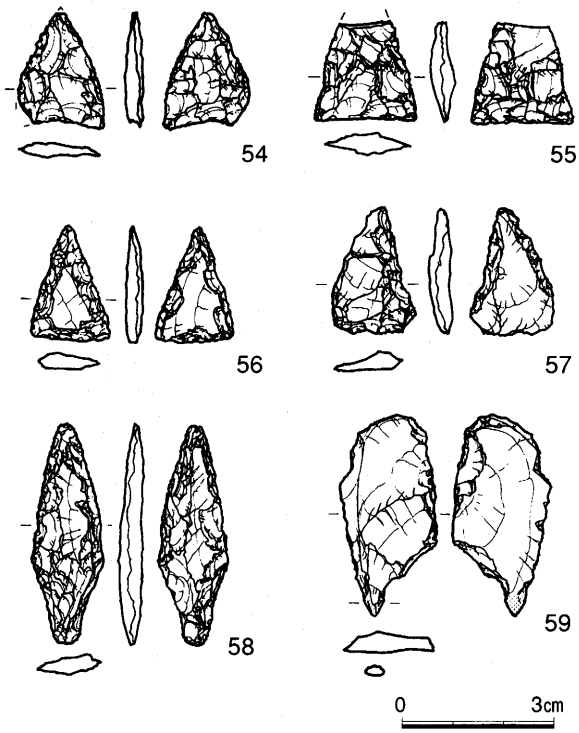
375は有孔土版とでも言うべきか。中心に径0.9cmの円孔（焼成前）をもち、細い棒状工具による刺突文を２列巡らしている。破片のため全形については明らかではないが、内側の刺突文の並びから考えて菱形に近い円形を呈していたのではないだろうか。胎土には１mm程度の砂粒を多く含み、焼成はやや不良で色調は淡灰褐色である。

376･377は分銅形土製品である。376は幅4.4cmの小型品で、上半部（下半部）を欠損している。上半部端面は丸くおさめ、左右のくりこみ部は小さい。上半部の円弧に沿って、半円状に配した刺突文が４カ所認められ、中央部分にも同じく棒状工具による刺突が２列みられる。文様は裏面及び上半部端面にはなく、また貫孔も認め



第40図　自然流路出土の土製品（S＝1/2）

られない。377も下半部を欠損しており、全体的につくりが雑で表面と裏面に凸凹が目立つ。くりこみ部は小さめで、上下がほぼ対称とすればその形は円形ではなく方形になるものと思われる。文様は、左右のくりこみ部と上半部端面にそって３条の沈線がそれぞれ施されている。磨滅により不明瞭ではあるが、くりこみ部の沈線にかからない範囲で、上半部端面に沿って簾状文風の刺突文が巡らされているようで、先ほどの沈線文はこの上から行っている。胎土は微砂粒を含む精良なものだが、焼成はやや不良である。



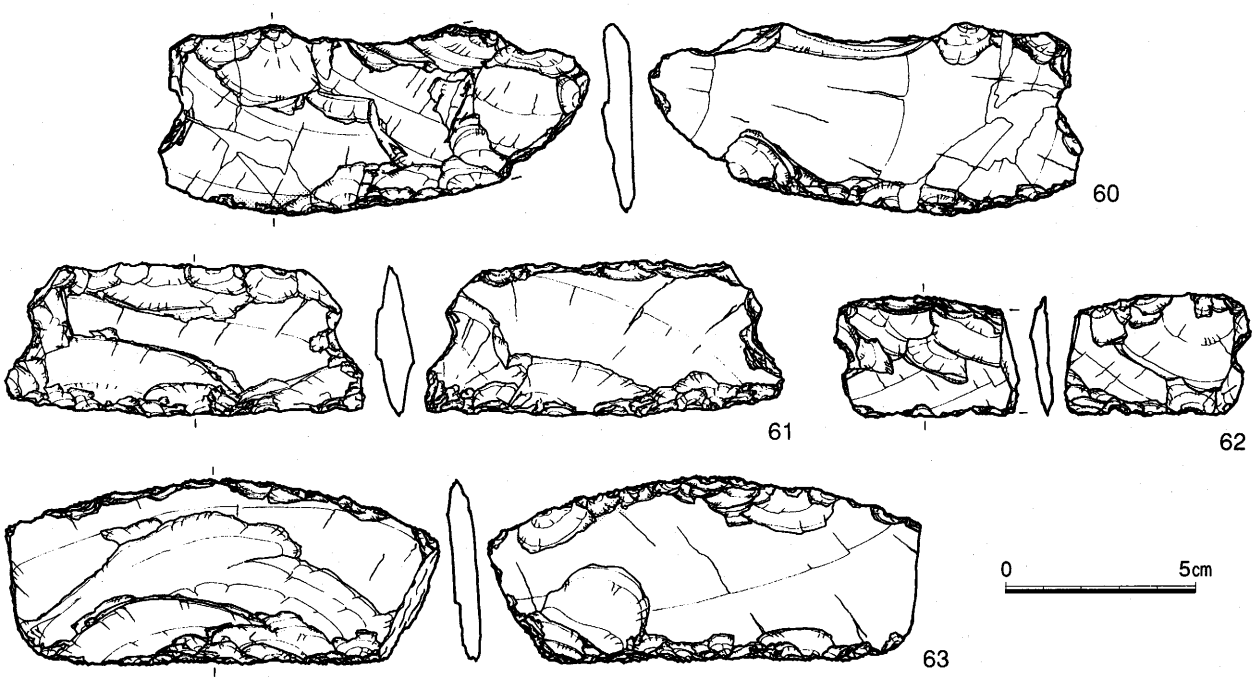
第41図　自然流路出土の石器１（S＝2/3）

石　器（第41～43図）

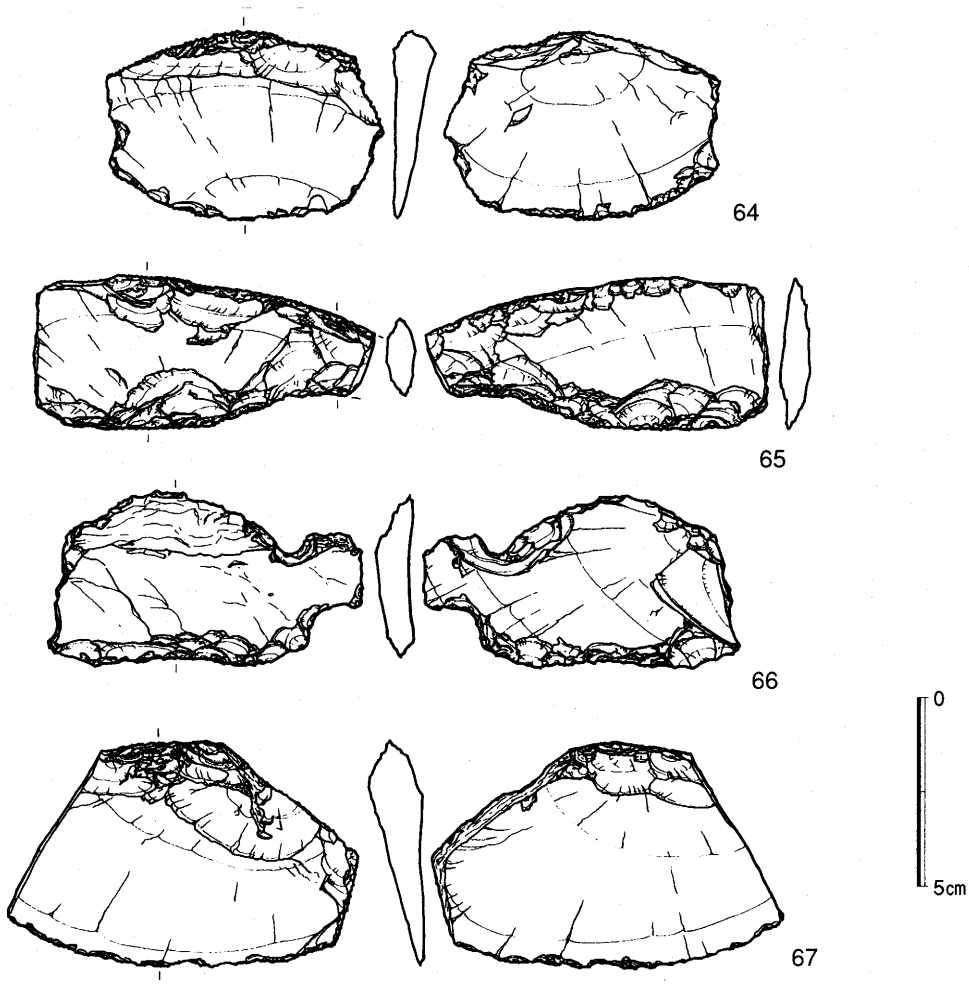
自然流路からは総数220点のサヌカイト製石器・剥片が出土しており、その総重量は1538.2gに及ぶ。器種として明確なものは石鏃５点、石鏃未製品５点、石包丁４点、石匙１点、スクレイパー10点、楔形石器５点、加工痕剥片７点、使用痕剥片２点、石核４点がある。

54は凹基鏃である。55～57は平基鏃である。57は調整がきわめて大ざっぱであり、未製品の可能性もある。58は有茎鏃である。

59は石錐である。顕著な周縁加工は認められないが、先端がかなり磨耗している。



第42図　自然流路出土の石器２（S＝1/2）



第43図　自然流路出土の石器３（S＝1/2）

60～63は石包丁である。62はやや小形で長さ3.0cm強である。63は両端に紐をかける抉りがない。使用痕は明確でない。

64･65は石包丁の可能性がある。64の刃部加工はやや弱いが、両端に若干の抉りが認められる。包含層出土の石包丁52に類似するものかもしれない。

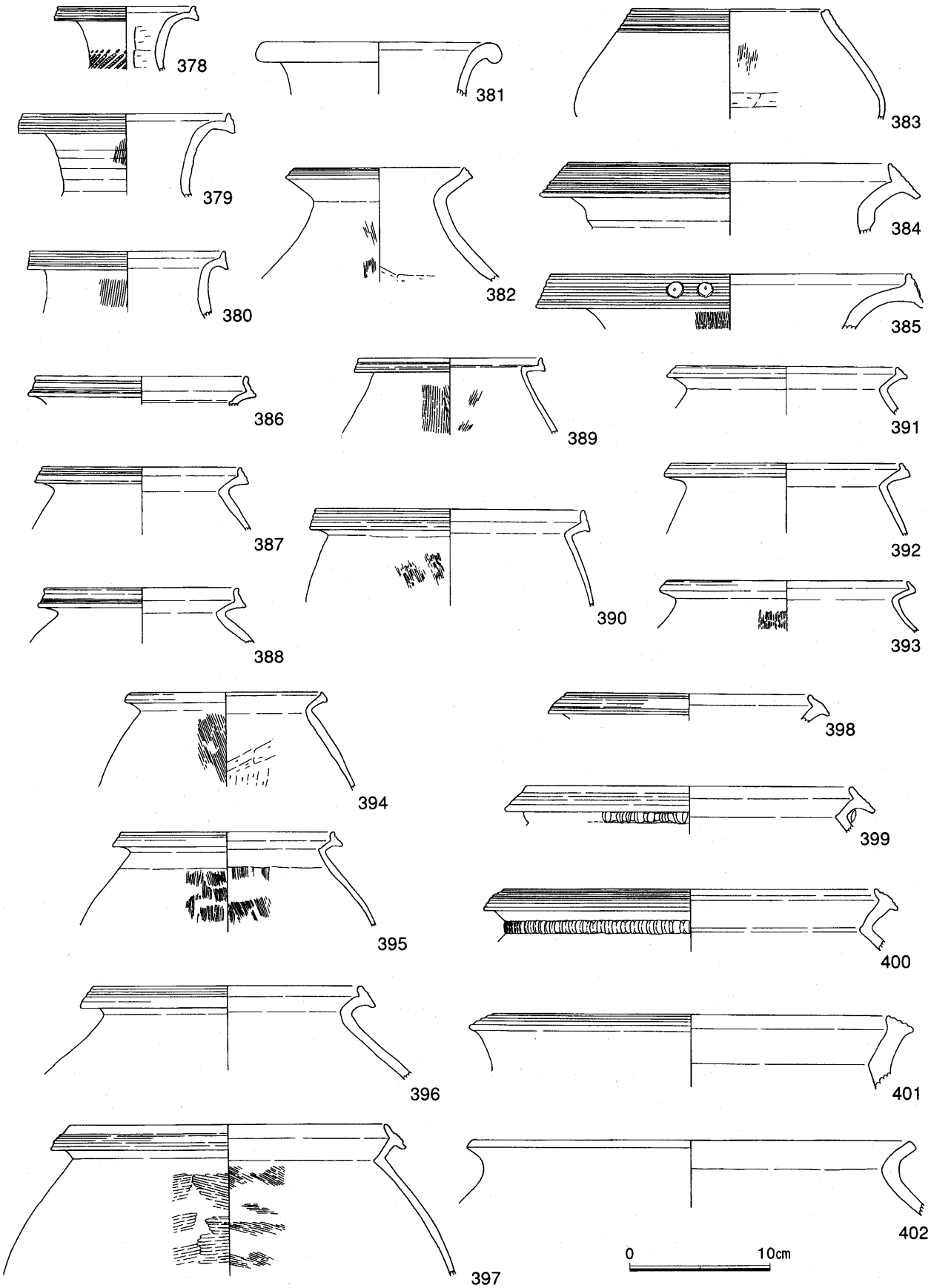
66は石匙である。背面はほとんど自然面である。67はスクレイパーである。

５．造成・撹乱土出土の遺物

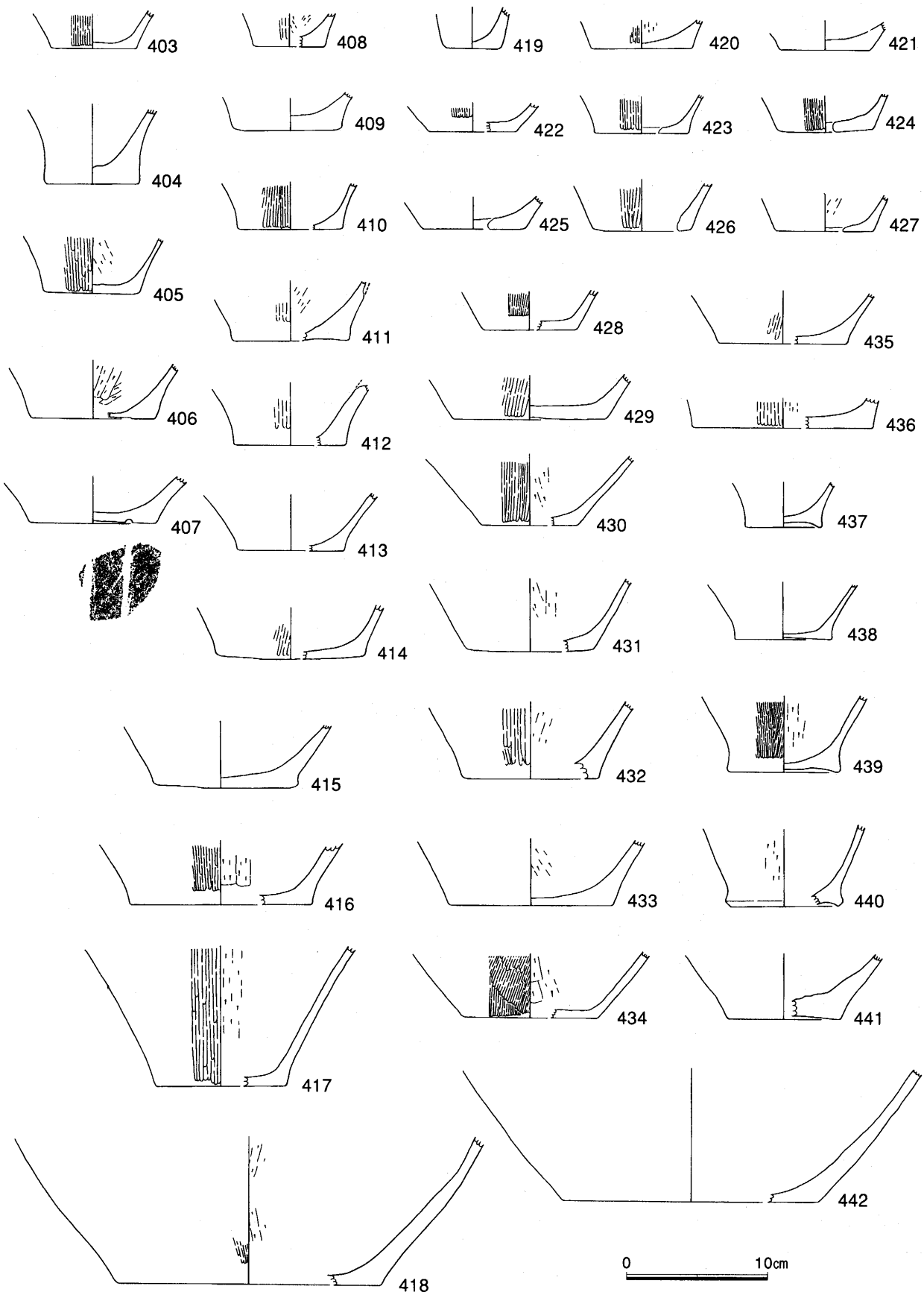
南区においては、保育園建設に伴う造成工事とそれ以前の撹乱により、遺跡がかなりの破壊を受けていたが、そうした造成土・撹乱土の中には弥生土器を主とした大量の遺物が含まれていた。現地で発掘をしていた時の感じでは、包含層よりもむしろ遺物の密度が高いのではないかと思えたが、実際整理用コンテナで約８箱になる遺物は、南区では最も多い出土であった。出土遺物の概要については以下のとおりである。

土　器（第44～47図）

378～385は壺である。378～380は、折り曲げて形成する口縁部の端を上下に拡張しており、この口唇部にはそれぞれ３条の凹線が巡る。378の頸部には板状工具の木口による押圧文が、また379



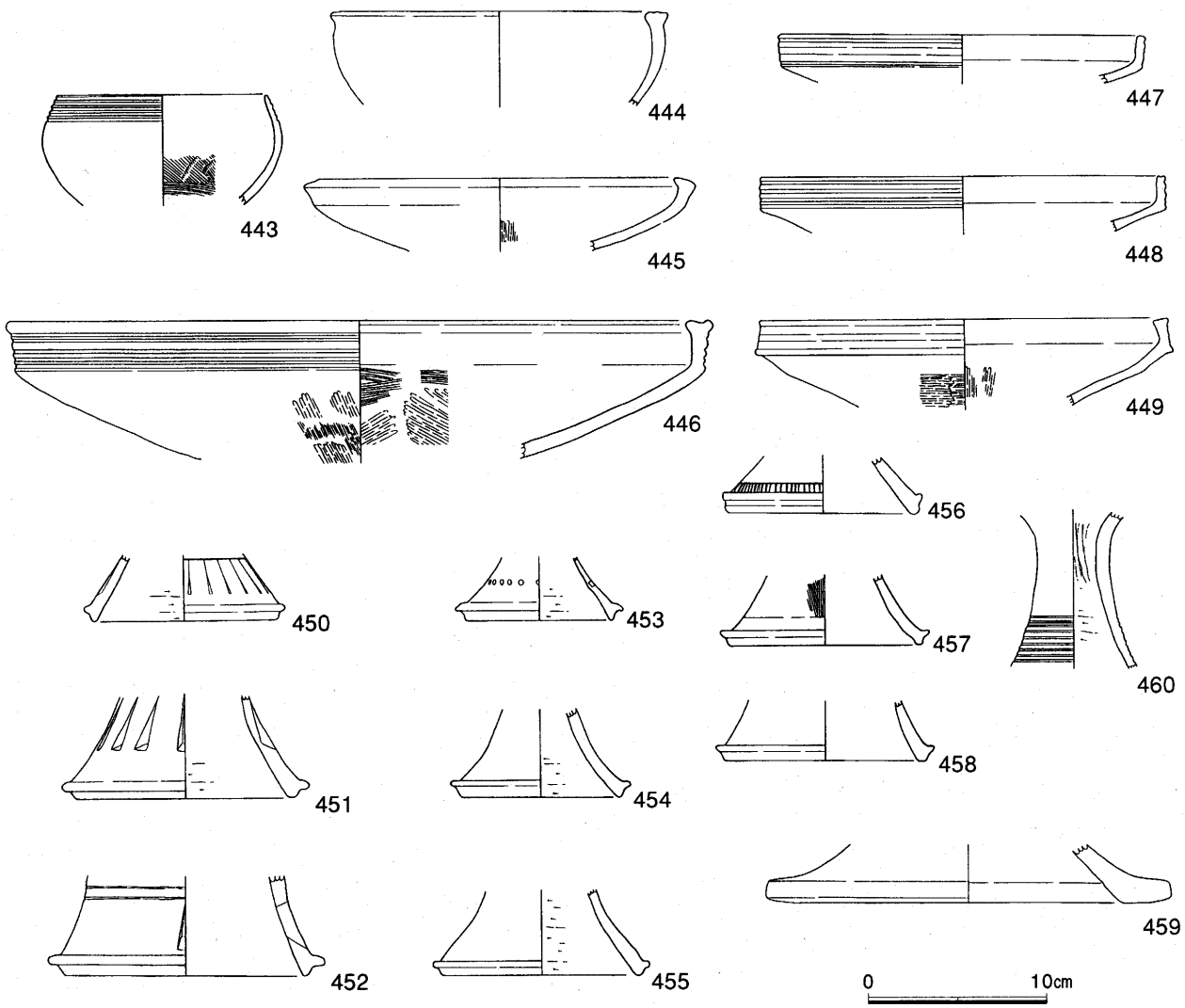
第44図　造成・撹乱土出土の土器１（S＝1/4）



第45図　造成・撹乱土出土の土器２（S＝1/4）

の頸部には幅広の凹線が施されている。381は口縁端部を折り返し、丸く玉縁状におさめる特徴的なタイプである。382は、「く」の字形に屈曲する口縁部の端面に2条の凹線をもつもので、頸部以下の外面にはハケメ、胴部中位の内面にはヘラケズリを施している。383はやや胴の張る無頸壺で、口縁部に4条の凹線とその端面には凹線条のくぼみを有する。348・385は、口縁端部を広く拡張する大形の壺である。いずれも拡張面には数条の凹線を施し、385ではその上から円形浮文を張り付け、さらにその中心に棒状工具による刺突を行っている。

386～402は甕である。「く」の字形に折り曲げた口縁部の端を、主として上方へ拡張するもの(386～393)、上方に拡張するもの(394～401)、拡張せずそのままおさめるもの(402)などがあり、口縁端部を拡張させるものはその拡張面に凹線文をもつ。主として上方に口縁端部を拡張させるものは小型あるいは中型の甕に多く、上下に拡張するものは大形の甕に多いようである。口縁部付近の破片が多いため、体部の調整については明らかな個体は少ないが、外面についてはハケメとヘラミガキ、内面についてはハケメとヘラケズリがそれぞれ認められる。



第46図　造成・撹乱土出土の土器3(S=1/4)

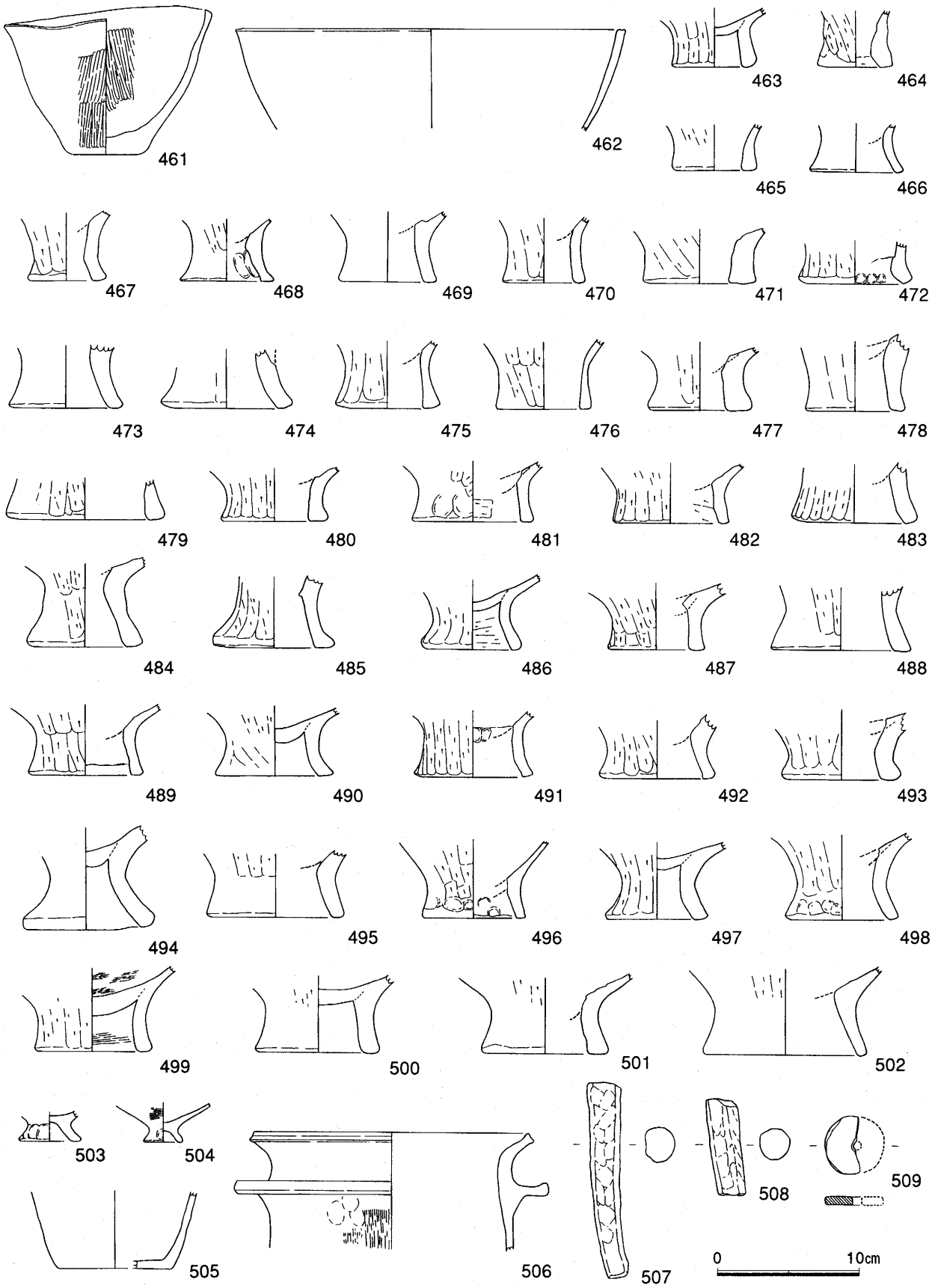
403～442は、壺・甕・鉢などの底部である。437～441のようにやや上げ底気味に作るものを除けば、いずれも安定した平底である。407は底部1/3の破片であるが、外面に紐状の圧痕が２条認められるあまり例のないものである。圧痕の断面は半円形で、表面には細い平行線が数多くみられることから、葛などのつる草による可能性が考えられる。419は底部の大きさ、体部の立ち上がりの角度などから、ミニチュア土器の可能性がある。

これら底部の調整については、確認できる破片のうち439を除く全てのものは外面ヘラミガキを行っており、内面については全てヘラケズリである。439は上げ底気味につくった底部の端が断面方形を呈するもので、外面には荒いヘラケズリを行っている。なお、423～427には焼成後の穿孔がみられる。

443～460は高杯である。深い椀形の杯部をもつ443は、口縁部に５条の凹線を巡らしその端部は肥厚せずにそのままおさめている。444は同じく椀形の杯部を有するもので、口縁端部を肥厚させ、その端面に凹線文を施している。445は浅い皿状の杯部に、内側につまみ出すことによって肥厚する口縁部がつくもので、その端面には凹線は認められない。446～449は、皿状の杯部に屈曲して上方へ立ち上がる口縁部をもつもので、その外面には４～５条の凹線がみられる。459は大きくラッパ状に開く脚裾部をもち、その端部は外側に肥厚させただけで施文は行わずそのままおさめた、ややつくりが粗雑な土器である。あまり類例をみないタイプであるが、ほぼ同型のもの(286)が包含層から出土している。これらの高杯のうち調整が確認できる破片では、杯部内外面ともヘラミガキを施しているが、446の杯部内面には一部ハケメが残っている。なお、447の外面には赤色顔料が残っている。450～460は脚部のみの破片で、台付壺あるいは台付鉢の可能性もあるが、ここでは高杯として扱った。450～458は「ハ」の字形に開く脚部で、その端部は斜め上方につまみ出すように拡張しているため、多くの場合凹線状のくぼみを有する。459はラッパ状に大きく開く脚裾部をもち、その端部は外側に肥厚させただけで施文はおこなわずそのままおさめるもので、つくりが粗雑な土器である。あまり類例をみないタイプであるが、ほぼ同型のもの(286)が包含層からも出土している。透し孔は円形のもの(453)と三角形のもの(450～452)があるが、452を除けば裏面にまで貫通しているものはない。器表面が荒れた破片が多く調整については明瞭ではないが、外面については最終的にナデにより仕上げているものが多く、内面については横方向のヘラケズリを主としている。

461は鉢で、南区において唯一完形に復元できた弥生土器である。安定した平底からやや内湾気味に開く体部を有し、口縁端部はわずかに肥厚させるものの拡張や施文は行わない。全体的に歪みがが大きく、器高は最大と最低で約1.5cmの差がある。調整は、内外面とも縦方向の荒いヘラミガキを行っている。

462～502は、粗製台付鉢である。462はややふくらみをもって開く鉢部の口縁で、その端部はシャープな方形を呈する。器表面は荒れて、内外面とも調整は確認できない。463～502は脚台部の破片である。外面に縦方向の荒いヘラケズリを施しているのが特徴で、内面については不明瞭なものが多いが、横方向のヘラケズリあるいはナデ仕上げが多いようである。また、内外面に成形時の指頭圧痕を残すものも多い。脚台の形態としては、「ハ」の字形に強く開くタイプが最も多いが、外



第47図　造成・撹乱土出土の土器・土製品（S＝1/4）

板の度合いが小さいもの(447・481・482)やほぼ垂直に立ち上がるもの(465・470・471・487)などもある。脚台部と鉢部の接合には、円盤充填法を用いている。脚台部の径は、5.4cm～11.6cmのものまであり、図化した40個体の平均値は7.99cmである。

503・504は製塩土器の脚部である。503は「ハ」の字形に開く短い脚部で、外面には指頭圧痕が残る。504は脚径2.8cmと非常に小さく、鉢部外面にはタタキ目がわずかに残る。

505は須恵器の壺と思われるが、小片のため全形については不明である。

506は釜状の深い体部をもつ土師器の土鍋で、口縁直下に幅の広い鍔が付く。鍔以上の内外面にはヨコナデを施し、それ以下の部分についてはハケメがわずかに認められる。

507・508は土鍋の足で、どちらも表面に指頭圧痕が明瞭に残っている。

以上みてきたように、造成・撹乱土に含まれる土器の大半は弥生土器で、壺や甕にみられる口縁端部の拡張と凹線文などから、ほぼ中期末頃の一時期をあてることができよう。その他の時期のものとしては、503が弥生時代後期中頃、504が古墳時代初頭の製塩土器で、506についてはおおむね平安時代のものと思われる。

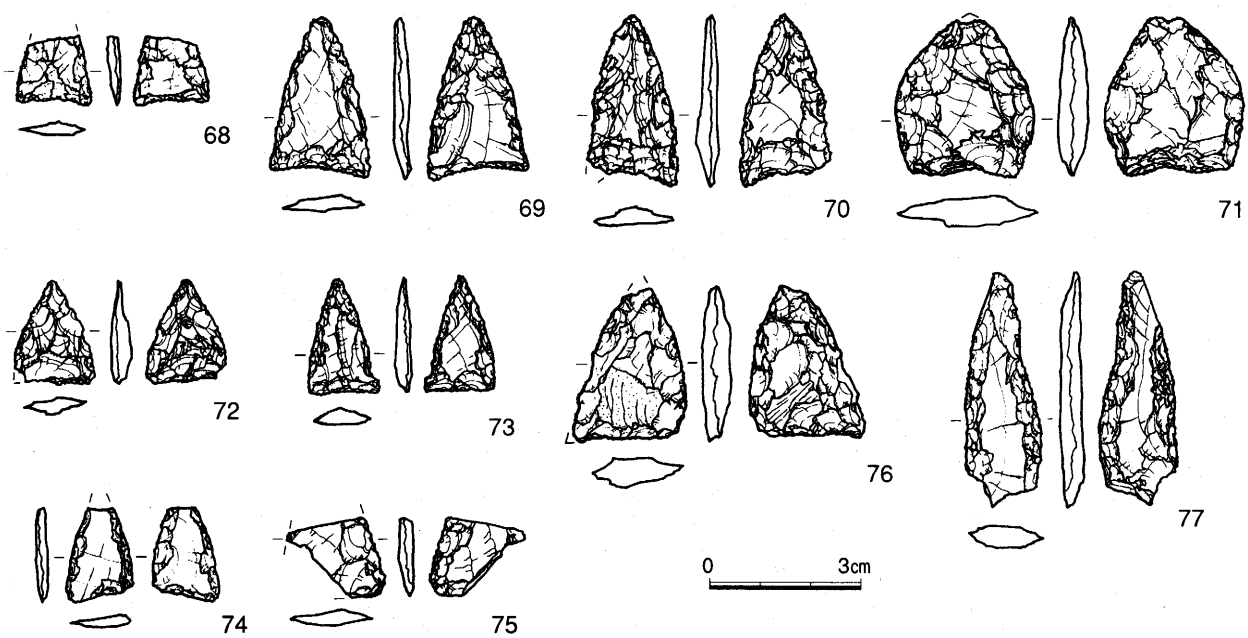
土製品(第47図)

509は土器片を利用した紡錘車で、約半分を欠損している。色調は、表面がにぶい橙色、裏面が褐灰色を呈し、焼成は良好である。

石　器(第48・49図)

造成土および撹乱土からは総数290点のサヌカイト製石器・剥片が出土しており、その総重量は2351.6gに及ぶ。器種として明確なものは石鏃9点、石鏃未製品4点、石包丁5点、石鎌1点、スクレイパー13点、楔形石器11点、加工痕剥片10点、使用痕剥片3点、石核8点がある。

68～71は凹基鏃である。浅い抉りのものばかりである。71は6.0gを越える大形のもので特異な形



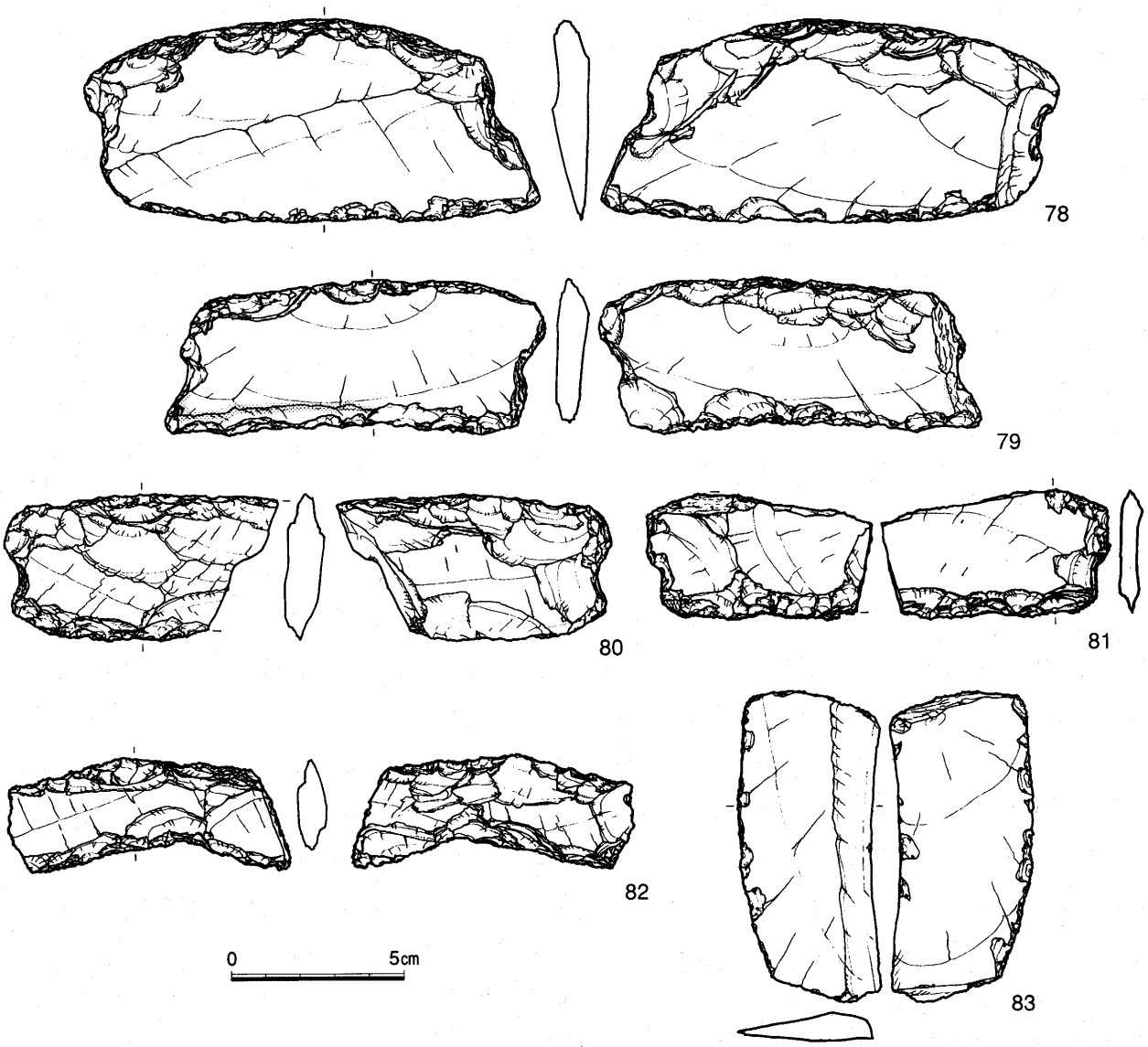
第48図　造成・撹乱土出土の石器1(S=2/3)

状をしている。72～76は平基鏃である。76が4.0gを越える大形の石鏃である。74は1.0g以下のきわめて小形のものである。77は有茎鏃の未製品と考えられる。

78～81は石包丁である。78はやや大形で幅６cm、他は４cm前後である。いずれも使用痕は明確ではない。

82は石鎌ではないかと考えられる。

83はスクレイパーである。



第49図　造成・撹乱土出土の石器２（S＝1/2）

Ⅳ まとめにかえて

今回の発掘調査により出土した遺構は、北区では溝と土壙がそれぞれ3基と池状遺構が1基、南区ではピット9基と溝状遺構1基がある。これらのうち、良好な遺物を含む遺構は池状遺構のみで、他はほとんど遺物を含まず、また遺構自体の残存状況もあまり良いものではなかった。したがって、ここでは主に出土遺物を中心に、明らかになった点を整理し直すことでまとめにかえたい。

まず、北区及び南区の包含層から、比較的まとまった数の弥生土器が出土した。これらの多くは中期後半から末頃にかけてのもので、北区の土器溜りや南区の自然流路に含まれていた弥生土器のほとんどもほぼ同じ頃と思われる。ただし、今回出土した土器の中には、122～125のように口縁端部や頸部の貼付突帯に細い刻み目をもつ壺や、197のように水平口縁をもつ高杯など、中期中葉[1]にまでさかのぼると思われるものもある。また、北区で出土した甕のなかには、口縁部を「く」の字に折り曲げただけで拡張面をもたないものが比較的多くみられ、これらも今回出土した土器のなかにあってはやや古い様相をもつものである。完形に復元できる土器や全体的なプロポーション･調整方法がわかる個体が少ないため、現段階で断定することはできないが、遺跡の中心とする時期が若干さかのぼる可能性があることを指摘しておきたい。

次に、粗製台付鉢の存在がある。外面に荒いヘラケズリを行い、内面には比較的丁寧なヘラミガキを施すこれらの土器は、昭和43年の保育園改築の際にも大量に出土しており、この遺跡を特徴づける遺物である。これらの土器は、製塩に使用されたいわゆる「粗製台付鉢」の祖源と考えられており[2]、その出土は今のところ城遺跡をはじめ菰池オレントウ遺跡や仁伍遺跡など、「児島」を中心とした備讃瀬戸地域に限られている。ただし、これらの土器を製塩土器とするのは、あくまでも型式学的編年の結果であって、製塩炉とともに発見されるなど直接的に証明された例はない。今回完形に復元できた113も、口径31.6cm・器高24.8cmでその容量は7.9㍑を量る大形のもので、このような土器がはたして製塩土器として機能するのかという素直な疑問を感じざるを得ない。今後、遺跡の全容が明らかになるような調査例がふえることで解決されることを期待したい。

今回の調査では、分銅形土製品が4点出土した。322や376は、棒状工具による刺突によって文様が構成される刺突文タイプのもので、これは中期後葉以降に出現する[3]とされ、遺跡の年代に矛盾しない。他の2点もその大きさや文様から、中期中葉以前まではさかのぼらないと思われ、ほぼ遺跡の時期に収まるとしてよいだろう。この他にも有孔土版やミニチュア土器など、祭祀に関係すると考えられる遺物も出土しており、池尻遺跡の性格を考えるうえで一つの手がかりとなるであろう。

註（1） 広義の菰池式土器を考えている。
　　鎌木義昌「山陽地方Ⅱ」『弥生式土器集成本編Ⅰ』1964年 東京堂出版
（2） 高橋　護「台付鉢形土器の系譜」『遺跡 25』1956年
　　大久保徹也「第Ⅱ部－1 岡山県」『日本土器製塩研究』青木書店 1994年
（3） 下澤公明「分銅形土製品」『吉備の考古学』1987年 福武書店

出土遺物観察(一覧)表

1．土器観察表

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
1	－	トレンチ2	弥生土器	壺	口縁部1/8	良好	口径（14.2）	磨滅により調整不明。
2	－	トレンチ2	弥生土器	甕	口縁部2/3	良好	口径（15.9）	磨滅により調整不明。
3	－	トレンチ2	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（17.7）	外面ハケメ。内面指頭圧跡。
4	－	トレンチ2	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（7.0）	磨滅により調整不明。
5	－	トレンチ1	弥生土器	台付鉢	脚部完存	やや不良	脚径　（6.0）	外面縦方向のヘラケズリ。脚部外面に指頭圧跡。
6	－	トレンチ4	弥生土器	高杯	口縁部1/18	良好	口径（30.0）	磨滅により調整不明。
7	－	トレンチ3	弥生土器	高杯	脚部1/3	良好	－	外面ハケののちナデ。脚裾部に5カ所？の円形透し孔。脚の屈曲部に6条の櫛描沈線と櫛状工具による列点文。
8	－	トレンチ4	弥生土器	高杯	脚部1/8	不良	脚径（13.0）	外面ナデ？内面ヘラケズリ。
9	－	トレンチ2	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（12.6）	内面ヘラケズリ。
10	－	トレンチ2	弥生土器	—	底部1/4	やや不良	底径　（6.8）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
11	－	トレンチ2	弥生土器	—	底部1/4	やや不良	底径　（9.0）	内面ヘラケズリとハケメ。
12	－	トレンチ2	弥生土器	—	底部1/4	良好	底径　（6.7）	外面ヘラミガキ？
13	－	トレンチ1	弥生土器	—	底部1/12	やや不良	底径　（9.1）	磨滅により調整不明。
14	北	溝2	須恵器	杯身	1/8	良好	口径（15.1） 高台径（10.8） 器高　3.7	回転ナデ仕上げ。
15	北	溝2	須恵器	壺	ほぼ完存	良好	口径　11.4 高台径15.4 器高　24.8	回転ナデ仕上げ。口頸部三段接合。
16	北	池状遺構	土師質土器	椀	完形	良好	口径　14.8 底径　6.0 器高　5.5	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。
17	北	池状遺構	土師質土器	椀	ほぼ完形	良好	口径　14.7 底径　6.6 器高　5.0	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。重ね焼き痕有り。
18	北	池状遺構	土師質土器	椀	完形	良好	口径　14.8 底径　6.0 器高　4.6	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。重ね焼き痕有り。
19	北	池状遺構	土師質土器	椀	3/4	良好	口径　14.7 底径　6.2 器高　4.8	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。重ね焼き痕有り。
20	北	池状遺構	土師質土器	椀	2/3	良好	口径（15.0） 底径　6.9 器高　4.8	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。
21	北	池状遺構	土師質土器	椀	1/3	良好	口径（15.0） 底径　（6.5） 器高　（4.5）	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。
22	北	池状遺構	土師質土器	椀	ほぼ完形	良好	口径　14.5 底径　6.5 器高　4.5	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。
23	北	池状遺構	土師質土器	椀	1/2	良好	口径　14.4 底径　5.5 器高　4.6	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。
24	北	池状遺構	土師質土器	椀	1/2	良好	口径（14.8） 底径　6.1 器高　4.2	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。重ね焼き痕有り。
25	北	池状遺構	土師質土器	椀	1/2	良好	口径（14.6） 底径　5.7 器高　4.0	外面は口縁部ヨコナデ、体部に指頭圧痕。内面は丁寧なナデ。外面に煤付着。
26	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/5	良好	口径（14.6）	－
27	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/6	良好	口径（14.8）	－

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
28	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/8	良好	口径（14.6）	―
29	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/8	良好	口径（15.2）	―
30	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/8	良好	口径（15.5）	―
31	北	池状遺構	土師質土器	椀	体部1/3	良好	口径（15.1）	―
32	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部完存	良好	底径　6.2	―
33	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部完存	良好	底径　5.6	―
34	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部完存	良好	底径　6.9	―
35	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部完存	良好	底径　6.6	―
36	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部1/2	良好	底径　(6.2)	―
37	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部3/4	良好	底径　(6.3)	―
38	北	池状遺構	土師質土器	椀	底部1/3	良好	底径　(6.0)	―
39	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/6	良好	口径　(6.8) 底径　(4.8) 器高　1.3	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。
40	北	池状遺構	土師質土器	小皿	完形	良好	口径　6.9 底径　5.4 器高　1.3	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後未調整。
41	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/4	良好	口径　(7.2) 底径　(4.8) 器高　1.4	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後未調整。
42	北	池状遺構	土師質土器	小皿	完形	良好	口径　7.8 底径　5.7 器高　1.4	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ、板目痕。
43	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/2	良好	口径　8.0 底径　6.2 器高　1.4	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。板目痕。
44	北	池状遺構	土師質土器	小皿	ほぼ完形	良好	口径　7.7 底径　5.7 器高　1.7	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。
45	北	池状遺構	土師質土器	小皿	ほぼ完形	良好	口径　8.4 底径　6.1 器高　1.6	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。板目痕。
46	北	池状遺構	土師質土器	小皿	ほぼ完形	良好	口径　8.5 底径　6.2 器高　1.5	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後未調整。板目痕。
47	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/6	良好	口径　(8.7) 底径　(6.5) 器高　1.5	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。
48	北	池状遺構	土師質土器	小皿	ほぼ完形	良好	口径　7.8 底径　5.8 器高　1.1	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後未調整。板目痕。
49	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/2	良好	口径　8.2 底径　6.3 器高　1.1	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。
50	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/4	良好	口径　(8.5) 底径　(6.0) 器高　1.0	内外面ヨコナデ。底部ヘラ切り後ナデ。赤色顔料。
51	北	池状遺構	土師質土器	小皿	1/6	良好	口径　(8.5) 底径　(6.3) 器高　1.2	内外面ヨコナデ。
52	北	池状遺構	瓦器	椀	3/4	良好	口径　15.6 底径　4.6 器高　5.0	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に平行線状の暗文。
53	北	池状遺構	瓦器	椀	1/2	良好	口径（15.5） 底径　4.6 器高　4.5	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に平行線状の暗文。
54	北	池状遺構	瓦器	椀	2/3	良好	口径　15.4 底径　4.7 器高　4.8	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に斜格子状の暗文。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
55	北	池状遺構	瓦器	椀	体部1/6	良好	口径（15.4）	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に平行線状の暗文。
56	北	池状遺構	瓦器	椀	1/4	良好	口径（15.0） 底径　(4.7) 器高　4.4	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に平行線状の暗文。
57	北	池状遺構	瓦器	椀	体部1/6	良好	－	外面は口縁部ヨコナデ、体部に密な指頭圧痕。内面は丁寧なナデの後上位にヘラミガキ、見込み部分に平行線状の暗文。
58	北	池状遺構	須恵質土器	こね鉢	1/10	良好	口径（29.5）	内外面回転ナデ。口縁部外面に黒変。東播系片口鉢？
59	北	池状遺構	須恵質土器	こね鉢	1/2	良好	底径（10.0）	内外面回転ナデ。底部糸切り。
60	北	池状遺構	備前焼	壺	細片	良好	－	内外面ヨコナデ。
61	北	池状遺構	土師質土器	土鍋	口縁部1/10	良好	口径（33.1）	外面縦位ハケ後指頭圧痕。内面横位ハケ。煤付着。
62	北	池状遺構	土師質土器	土鍋	口縁部1/10	良好	口径（35.9）	外面横位ハケ後指頭圧痕。内面横位ハケ。煤付着。
63	北	池状遺構	白磁	椀	細片	良好	－	口縁端部が外反。内面上位に浅い沈線。
64	北	池状遺構	白磁	皿	2/3	良好	口径（10.2） 底径　4.5 器高　2.6	内面中位に1状の沈線。見込み部分の釉を輪状に削り取る。高台とその内側は露胎。
65	北	池状遺構	褐釉土器	壺	1/6	良好	口径　(9.2)	四耳壺？横耳の貼り付け部分と思われるものが残存。
66	北	土器溜り	弥生土器	壺	口縁部1/10	良好	口径（29.8）	口縁端部にヘラによる細かい刻み目。
67	北	土器溜り	弥生土器	直口壺	口縁部1/4	良好	口径（11.8）	口縁端部に凹線。体部内外面ハケメ。
68	北	土器溜り	弥生土器	壺	口縁部1/2	良好	口径（20.2）	口縁外面にタタキ目。頸部に板状工具による刺突文。
69	北	土器溜り	弥生土器	壺	体部ほぼ完存	やや不良	底径　6.7	内面ヘラケズリ。
70	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（15.2）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
71	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（17.0）	外面ハケメ。
72	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（14.1）	磨滅により調整不明。
73	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/2	良好	口径（19.2）	体部外面上方ハケメ、下半ヘラミガキ。
74	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（16.4）	内外面ヨコナデ。
75	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（15.4）	外面タテ方向のハケメ。
76	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/10	良好	口径（18.0）	磨滅により調整不明。
77	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（18.3）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
78	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（17.7）	外面ヘラミガキ。
79	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（17.6）	外面ハケメ。内面ナデ仕上げ。
80	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（15.8）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
81	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（21.8）	外面ハケメ。
82	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（10.3）	内面ヘラケズリ。
83	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（33.8）	外面上方ハケメ、下方ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
84	北	土器溜り	弥生土器	甕	口縁部1/10	良好	口径（25.0）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
85	北	土器溜り	弥生土器	甕	4/5	良好	口径　12.0 底径　5.1 器高　17.0	外面上半ハケメ、下半ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。口縁端部に2条の凹線。
86	北	土器溜り	弥生土器	甕	4/5	良好	口径　20.8 底径　6.6 器高　22.1	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。胴部に貝殻腹縁による刺突文。
87	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　8.3	外面ヘラミガキ。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
88	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/8	良好	底径　(9.5)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
89	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(6.4)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
90	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.6)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
91	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(6.5)	外面ヘラミガキ。
92	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　7.4	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
93	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　5.8	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。底部穿孔。
94	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(7.1)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。底部穿孔。
95	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　6.1	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。底部穿孔。
96	北	土器溜り	弥生土器	－	底部2/3	良好	底径　5.9	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。底部穿孔。
97	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　5.3	外面ヘラミガキ。
98	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	やや不良	底径　(8.6)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
99	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(5.8)	内面ヘラケズリ。
100	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	やや不良	底径　4.6	内面ヘラケズリ。
101	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(5.2)	磨滅により調整不明。
102	北	土器溜り	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　5.0	内面ヘラケズリ。
103	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(5.8)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
104	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.1)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
105	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(4.6)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
106	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(9.0)	内面ヘラケズリ。
107	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(10.1)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
108	北	土器溜り	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(10.4)	外面ヘラミガキ。
109	北	土器溜り	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径　(27.0)	内外面ともナデ仕上げ。
110	北	土器溜り	弥生土器	鉢	1/3	やや不良	口径　(13.6) 底径　(4.2) 器高　8.9	内外面ともヘラミガキ。
111	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	口縁部1/4	良好	口径　(29.4)	内面ハケメ。
112	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	口縁部1/5	良好	口径　(34.4)	外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。
113	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	ほぼ完存	良好	口径　31.6 脚径　8.1 器高　24.8	外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。円盤充填。
114	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部4/5	良好	脚径　8.2	外面縦方向のヘラケズリ。
115	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部完存	やや不良	脚径　9.4	外面縦方向のヘラケズリ。鉢部内面ヘラミガキ。
116	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　6.2	外面縦方向のヘラケズリ。
117	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(7.2)	外面縦方向のヘラケズリ。
118	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　6.7	外面縦方向のヘラケズリ。鉢部内面ヘラミガキ。
119	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(5.6)	外面縦方向のヘラケズリ。
120	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(6.2)	外面縦方向のヘラケズリ。
121	北	土器溜り	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　3.6	外面指頭圧痕。内面ヘラケズリ。
122	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	やや不良	口径　(13.5)	口縁部に刻み目を有する貼付突帯。
123	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径　(16.6)	口縁部に刻み目を有する貼付突帯。
124	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径　(15.9)	口縁端部に刻み目。
125	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/8	良好	口径　(19.9)	口縁部に刻み目を有する貼付突帯。
126	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/2	良好	口径　13.7	頸部に突帯。
127	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径　(17.5)	頸部に突帯。
128	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/4	やや不良	口径　(12.6)	頸部に突帯。
129	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/8	やや不良	口径　(27.0)	口縁端部に刺突文。
130	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/2	良好	口径　(11.5)	外面ヘラミガキ。
131	北	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径　(11.5)	内面ヘラミガキ。頸部に円孔。
132	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径　(15.6)	口縁下部にヘラ描き沈線。
133	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	やや不良	口径　(18.9)	磨滅により調整不明。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
134	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（17.8）	外面ハケメ。
135	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（16.3）	内外面ハケメ。
136	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	やや不良	口径（16.8）	内面指頭圧痕。
137	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/10	良好	口径（19.2）	磨滅により調整不明。
138	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/3	良好	口径（17.1）	外面ハケメ。
139	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（15.2）	内外面ハケメ。頸部に円孔。
140	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/10	良好	口径（22.3）	ナデ仕上げ。
141	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	やや不良	口径（15.7）	磨滅により調整不明。
142	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（12.9）	ナデ仕上げ。
143	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（18.7）	内外面ともハケメ。
144	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	やや不良	口径（18.5）	外面ハケメ。
145	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	やや不良	口径（23.0）	ナデ仕上げ。
146	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（16.8）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
147	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（15.2）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
148	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	不良	口径（14.9）	内面ヘラケズリ。
149	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（17.2）	内面ヘラケズリ。
150	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（18.1）	磨滅により調整不明。
151	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（21.2）	内外面ハケメ。
152	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（24.5）	磨滅により調整不明。
153	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（28.6）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
154	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（15.7）	外面ヘラミガキ。
155	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（15.6）	内外面ハケメ。
156	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（15.0）	外面ヘラミガキ。
157	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（18.0）	内外面ハケメ。
158	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（13.6）	外面ハケメ、ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
159	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（15.2）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
160	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（14.2）	内面ヘラケズリ。
161	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（17.9）	内外面ハケメ。
162	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/3	良好	口径（18.9）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
163	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（16.9）	外面ヘラミガキ。
164	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（16.4）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
165	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（18.6）	内外面ハケメ。
166	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（14.8）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
167	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（25.3）	端部に凹線文。
168	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（30.1）	端部に凹線文。
169	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（24.2）	端部に凹線文。内面ハケメ。
170	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（23.3）	内外面ハケメ。
171	北	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	やや不良	口径（13.5）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
172	北	包含層	弥生土器	甕	底部完存	やや不良	口径（14.2） 底径　3.4 器高（20.3）	外面タタキ、ハケメ。内面ハケメ。
173	北	包含層	弥生土器	甕	1/4	やや不良	口径（13.9） 底径　（4.3） 器高（20.5）	外面タタキ、ハケメ。内面ハケメ、ヘラケズリ。
174	北	包含層	弥生土器	－	底部4/5	良好	底径　（6.0）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
175	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　（6.2）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
176	北	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　（9.3）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
177	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径（10.3）	外面ヘラミガキ。
178	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　（9.4）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
179	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　（9.0）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
180	北	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　（7.8）	外面ヘラミガキ。
181	北	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径（10.2）	外面ヘラミガキ。
182	北	包含層	弥生土器	－	底部2/3	良好	底径　（6.6）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
183	北	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　6.0	外面ヘラミガキ。内面ハケメ。
184	北	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.7)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
185	北	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　8.3	内面ヘラケズリ。
186	北	包含層	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(7.0)	内面ヘラケズリ。
187	北	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(8.9)	内面ヘラケズリ。
188	北	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.2)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
189	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(7.8)	内外面ヘラミガキ。
190	北	包含層	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(5.0)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
191	北	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(4.8)	内面ヘラケズリ。
192	北	包含層	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(5.9)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
193	北	包含層	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　7.0	磨滅により調整不明。
194	北	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　6.4	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
195	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(5.5)	内面ヘラケズリ。
196	北	包含層	弥生土器	－	底部1/3	やや不良	底径　(6.9)	内面ヘラケズリ。
197	北	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（19.6）	口縁端部に刻み目。穿孔。
198	北	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/5	良好	口径（36.6）	外面ヘラミガキ。内面ハケメ、ヘラミガキ。口縁端部に3条の凹線。
199	北	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/5	良好	口径（19.4）	内外面ヘラミガキ。口縁部に6条の凹線。
200	北	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（19.1）	内外面ヘラミガキ。口縁部に4条の凹線。
201	北	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（12.6）	外面ナデ仕上げ。内面ヘラケズリ。円形透し孔。
202	北	包含層	弥生土器	台付鉢	口縁部1/5	良好	口径（18.4）	内面ヘラケズリ。
203	北	包含層	弥生土器	台付鉢	口縁部1/6	良好	口径（19.4）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
204	北	包含層	弥生土器	台付鉢	口縁部1/4	良好	口径（12.3）	内外面ヘラケズリ。
205	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存 口縁部1/3	良好	口径（17.2） 脚径　7.4 器高　12.4	内外面ヘラミガキ。
206	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　12.5	外面ハケメ。円形透し孔18個。
207	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　12.1	外面ヘラミガキ。円形透し孔11個。
208	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　9.3	外面ヘラミガキ。透し孔なし。
209	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　6.3	ナデ仕上げ。
210	北	包含層	弥生土器	台付鉢	口縁部1/5	良好	口径（25.2）	ナデ仕上げ。
211	北	包含層	弥生土器	台付鉢	口縁部1/8	良好	口径（24.0）	内面ヘラミガキ。
212	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(9.7)	外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。
213	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(7.1)	外面ヘラケズリ。鉢部内面ハケメ。
214	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	やや不良	脚径　8.6	外面ヘラケズリ。鉢部内面ナデ仕上げ。
215	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(7.8)	外面縦方向のヘラケズリ。
216	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(7.2)	外面縦方向のヘラケズリ。
217	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(7.3)	外面縦方向のヘラケズリ。
218	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/5	良好	脚径　(8.0)	外面縦方向のヘラケズリ。鉢部内面ヘラミガキ。
219	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/5	良好	脚径　(9.0)	外面縦方向のヘラケズリ。
220	北	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　6.7	外面縦方向のヘラケズリ。
221	北	包含層	弥生土器	蓋	つまみ部 完存	良好	つまみ部 径 3.2	ナデ仕上げ。
222	北	包含層	弥生土器	壺	底部1/2	良好	底径　(4.0)	手づくね土器。外面ヘラミガキ。
223	北	包含層	弥生土器	把手	－	良好	径　1.6	－
224	南	ピット1	弥生土器	器台	完形	やや不良	口径　2.8 底径　3.0 器高　3.6	ミニチュア土器。
225	南	溝状遺構	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(5.0)	外面ハケののちナデ。内面ナデ。
226	南	ピット9	弥生土器	－	底部2/3	良好	底径　(6.7)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
227	南	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/5	やや不良	口径（12.2）	－
228	南	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/5	良好	口径（12.2）	口唇部に２条の凹線。
229	南	包含層	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径（23.4）	口縁部内面に７条の櫛描き波状文が２列巡る。口縁端部に２条の凹線。頸部内面ハケメ。
230	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/14	良好	口径（23.0）	外面ハケメ？
231	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（13.8）	外面ハケののちナデ。
232	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（12.1）	胴部外面ハケメ。胴部内面ヘラケズリ。
233	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（15.0）	－
234	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（12.4）	－
235	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/12	良好	口径（22.8）	口唇部に４条の凹線。
236	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（18.9）	口唇部に６条の凹線。
237	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（22.1）	－
238	南	包含層	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（22.3）	口唇部に３条の凹線。
239	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　4.4	－
240	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(5.4)	－
241	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　6.4	底部外面に穿孔途中の凹み。
242	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(6.0)	外面ハケメ。
243	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　7.9	外面ヘラミガキ。
244	南	包含層	弥生土器	－	底部1/6	良好	底径　(6.4)	内面ヘラケズリ。
245	南	包含層	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(6.4)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
246	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　4.4	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
247	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(8.3)	外面ヘラミガキ。
248	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(8.0)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
249	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.8)	－
250	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　12.2	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。底部穿孔。
251	南	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.0)	内面ヘラケズリ。底部穿孔。
252	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(5.1)	内面ヘラケズリ。底部穿孔。
253	南	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.7)	内面ヘラケズリ。底部穿孔。
254	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(4.9)	外面ヘラミガキののちナデ。
255	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　5.0	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
256	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(8.1)	外面ヘラミガキ。
257	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(5.2)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
258	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(7.5)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
259	南	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(6.9)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
260	南	包含層	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(6.0)	内面ヘラケズリ。
261	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(4.5)	外面ヘラミガキ？
262	南	包含層	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　10.4	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
263	南	包含層	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(5.3)	内面ヘラケズリ。
264	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(6.2)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
265	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.7)	外面ヘラケズリ。
266	南	包含層	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径（10.9）	外面ヘラミガキ。
267	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(8.7)	－
268	南	包含層	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径（12.0）	外面ヘラミガキ？
269	南	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/12	良好	口径（16.0）	内面ヘラミガキ。口縁部に４条の凹線。
270	南	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/12	良好	口径（24.2）	外面ヘラミガキ。内面ハケメ？
271	南	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/14	やや不良	口径（24.6）	内外面ともヘラミガキ。口縁部に４条の凹線。
272	南	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（30.0）	外面ヘラミガキ。
273	南	包含層	弥生土器	高杯	口縁部1/14	良好	口径（32.7）	外面ヘラミガキ？
274	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/5	良好	脚径　(8.8)	内面ヘラケズリ。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
275	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/5	良好	脚径　(9.5)	内面ヘラケズリ。円形の透し孔。
276	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径　(9.7)	内面ヘラケズリ。
277	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/8	やや不良	脚径（12.3）	円形の透し孔。
278	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/8	良好	脚径　(9.5)	脚柱部に２条一対の沈線。断面三角形の透し孔。内面ヘラケズリ。
279	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/4	良好	脚径　(9.5)	脚裾部外面ハケメ。内面ヘラケズリ。
280	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/4	良好	脚径　(9.8)	内面ヘラケズリ。脚端部に２条の凹線。
281	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/8	良好	脚径（13.4）	内面ヘラケズリ。
282	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/10	良好	脚径（14.4）	外面ハケメ？内面ヘラケズリ。しぼり目。
283	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/8	良好	脚径（16.0）	外面ハケののちナデ。内面ヘラケズリ。脚柱部に４条のヘラ描沈線。三角形？の透し孔（貫通せず）。
284	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（13.9）	壺の口縁部の可能性あり。
285	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/5	良好	口径（19.0）	内外面ともナデ。精良な胎土。壺の口縁部の可能性あり。
286	南	包含層	弥生土器	高杯	脚部1/14	良好	脚径（22.0）	－
287	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(4.8)	内面ハケメ。円盤充填。
288	南	包含層	弥生土器	台付鉢？	脚部2/3	やや不良	脚径（10.9）	内外面ともナデ。
289	南	包含層	弥生土器	台付壺？	脚部1/2	やや不良	脚径（12.2）	内外面ともナデ。
290	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　(8.1)	外面ヘラケズリ？
291	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	不良	脚径　(6.6)	－
292	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(7.7)	外面縦方向のヘラケズリ。
293	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径（10.5）	内面ヘラケズリ。
294	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/6	やや不良	脚径　(6.9)	外面ヘラケズリ。
295	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(7.2)	外面縦方向のヘラケズリ。指頭圧痕。
296	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	不良	脚径　(7.4)	－
297	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径（10.1）	－
298	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　(6.4)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ。
299	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　(9.1)	内外面ヘラケズリ。
300	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(9.4)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ？しぼり目。
301	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	－	－
302	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(6.7)	外面ヘラケズリ。
303	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　(7.5)	内外面に指頭圧痕。
304	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　(7.2)	－
305	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(8.0)	内外面ともヘラケズリ。
306	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　(7.4)	外面縦方向のヘラケズリ。
307	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(6.0)	－
308	南	包含層	弥生土器	台付鉢	脚部3/4	良好	脚径　(8.0)	外面縦方向のヘラケズリ。内面横方向のヘラケズリ。
309	南	包含層	弥生土器	製塩土器	脚部完存	不良	脚径　4.7	外面指頭圧痕。
310	南	包含層	弥生土器	製塩土器	脚部3/4	不良	脚径　(4.3)	－
311	南	包含層	弥生土器	製塩土器	脚部完存	良好	脚径　4.5	外面指頭圧痕。
312	南	包含層	土師器	製塩土器	脚部完存	良好	脚径　2.4	外面指頭圧痕。
313	南	包含層	弥生土器	壺	胴部1/4	良好	－	ミニチュア土器
314	南	包含層	弥生土器	鉢	口縁部1/6	やや不良	口径　(5.4)	ミニチュア土器。内面指頭圧痕。
315	南	包含層	弥生土器	器台	1/2	やや不良	脚径　(3.6)	ミニチュア土器。外面ハケメ？
324	南	自然流路	弥生土器	壺	口縁部1/4	良好	口径　(7.8)	頸部に２条の浅い凹線。
325	南	自然流路	弥生土器	無頸壺	口縁部1/5	良好	口径（13.1）	口縁部に４条の浅い凹線。口縁上端部に１条の凹線。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
326	南	自然流路	弥生土器	壺	口縁部1/6	不良	口径（20.2）	口縁端部に４条の凹線
327	南	自然流路	弥生土器	壺	口縁部1/5	良好	口径（13.6）	口縁部に３条の凹線。口縁上端部に２条の細い凹線。頸部に板状工具による浅い刺突文が巡る。
328	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（17.3）	外面調整不明。内面頸部以下をヘラケズリ。
329	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（14.2）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
330	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（14.0）	外面ヘラミガキ。
331	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（23.8）	肩部内面に指頭圧痕。内面に粘土紐断続積み上げの痕跡。外面ハケメ？
332	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（16.0）	口縁部に３条の浅い凹線。外面ハケメ。内面胴上半部ヘラケズリ。
333	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/5	良好	口径（13.2）	内面頸部以下ヘラケズリ。
334	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/7	良好	口径（15.5）	外面ハケメ？内面頸部以下ハケメ。
335	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/7	やや不良	口径（22.2）	内外面とも調整不明。
336	南	自然流路	弥生土器	甕	口縁部1/9	良好	口径（22.0）	口唇部に３条の凹線。
337	南	自然流路	弥生土器	－	底部完存	良好	底径　7.7	－
338	南	自然流路	弥生土器	－	底部7/8	やや不良	底径　（9.0）	外面縦方向のヘラミガキ。内面縦方向のヘラケズリ。
339	南	自然流路	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（22.0）	杯部内面ヘラミガキ。口縁部に４条の凹線。
340	南	自然流路	弥生土器	高杯	口縁部1/5	良好	口径（24.0）	杯部外面ヘラミガキ。口縁部に４条の凹線。口縁上端部に１条の凹線。
341	南	自然流路	弥生土器	高杯	口縁部1/2	良好	口径（30.4）	杯部外面ヘラミガキ。口唇部に２条の浅い凹線。
342	南	自然流路	弥生土器	高杯？	口縁部1/14	良好	－	－
343	南	自然流路	弥生土器	高杯	脚柱部1/2	良好	－	脚柱部に６条のヘラ描沈線。内面ヘラケズリ。しぼり目。
344	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　（8.2）	脚内面ナデ？
345	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　（7.2）	外面縦方向のヘラケズリ。
346	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（8.6）	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面未調整。
347	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　（8.0）	外面縦方向のヘラケズリ。
348	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.9	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
349	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（9.5）	外面縦方向のヘラケズリ。
350	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　9.5	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
351	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　8.5	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
352	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　（8.5）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
353	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（8.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ。
354	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　（8.8）	外面縦方向のヘラケズリ。
355	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　（8.5）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヨコ方向のヘラケズリ。
356	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　（9.4）	外面縦方向のヘラケズリ。
357	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　（7.6）	外面縦方向のヘラケズリ。
358	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　（8.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ。
359	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.5	外面縦方向のヘラケズリ。
360	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	やや不良	脚径　7.5	円盤充填。
361	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　（9.0）	外面縦方向のヘラケズリ。脚端部近くに指頭圧痕。
362	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（9.8）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ？

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
363	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径（10.0）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
364	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部2/3	良好	脚径　（8.9）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヨコ方向のヘラケズリ。
365	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.8	外面縦方向のヘラケズリ。
366	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（9.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
367	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部2/3	良好	脚径（10.0）	外面縦方向のヘラケズリ。
368	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（9.4）	外面縦方向のヘラケズリ。
369	南	自然流路	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.4	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面ヨコ方向のヘラケズリ。円盤充填。
370	南	自然流路	須恵器	杯身	底部1/6	良好	高台径（10.8）	貼り付け高台。
371	南	自然流路	土師器	杯	底部完存 口縁部1/2	良好	口径（12.8） 底径　7.1	底部外面ヘラ切り未調整。その他は内外面ともナデ。
372	南	自然流路	土師器	羽釜	口縁部1/6	良好	口径（23.5）	頸部外面に指頭圧痕。
378	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/4	良好	口径　（9.7）	頸部外面に板状工具による刺突文。頸部内面板状工具によるナデ。口唇部に3条の凹線。
379	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/4	良好	口径（14.7）	頸部外面ハケののちナデ。内面ナデ。口唇部に3条の凹線。頸部に5条の浅い凹線。
380	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/4	良好	口径（14.0）	頸部外面ハケメ。口唇部に3条の凹線。
381	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/6	良好	口径（16.0）	内外面ともナデ。
382	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/4	良好	口径（12.1）	外面頸部以下ハケののちナデ。肩部内面ヘラケズリ。口縁端部に2条の凹線。
383	南	造成・撹乱土	弥生土器	無頸壺	口縁部1/8	良好	口径（14.0）	口縁部に4条の浅い凹線。
384	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/3	良好	口径（23.0）	口唇部に7状の凹線。内外面ともナデ。
385	南	造成・撹乱土	弥生土器	壺	口縁部1/8	良好	口径（25.6）	頸部外面ハケメ。口唇部に5状の凹線と円形浮文。
386	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（15.1）	口唇部に3条の浅い凹線。
387	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（14.0）	口唇部に2条の凹線。
388	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（14.0）	内面ナデ。口唇部に浅い凹線。
389	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（13.0）	外面ハケメ。内面ハケメののちナデ。口唇部に2条の浅い凹線。
390	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（19.1）	外面ハケメ。口唇部に浅い凹線。
391	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（15.8）	内外面ともナデ。
392	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（16.4）	－
393	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/6	良好	口径（17.0）	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ？
394	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/3	良好	口径（14.5）	外面ハケメ。内面ヘラケズリ。口唇部に浅い凹線。
395	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（15.2）	内外面とも頸部以下ハケメ。
396	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/4	やや不良	口径（19.2）	外面ナデ。内面ヘラケズリののちナデ。口唇部に2状の浅い凹線。
397	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/4	良好	口径（22.5）	外面ヨコ方向のヘラミガキ。内面ハケメ。口唇部に浅い凹線。
398	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（17.4）	口唇部に数条の浅い凹線。
399	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（23.3）	口唇部に4条の浅い凹線。頸部に刻み目をもつ突帯。
400	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/8	良好	口径（26.5）	口唇部に5状の凹線。頸部に刻み目を有する凸帯。
401	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/6	やや不良	口径（31.8）	口唇部に4状の凹線。
402	南	造成・撹乱土	弥生土器	甕	口縁部1/10	やや不良	口径（31.2）	－
403	南	造成・撹乱土	弥生土器	－	底部1/2	やや不良	底径　（6.0）	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ？

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
404	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	不良	底径　(6.8)	－
405	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　6.8	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
406	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(8.8)	外面ヘラミガキ？内面ヘラケズリ。
407	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(9.0)	底部外面に２条の紐状の圧痕。
408	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/2	やや不良	底径　(5.0)	外面ヘラミガキ？内面ヘラケズリ。
409	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　7.8	内面ナデ。
410	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	やや不良	底径　(7.6)	外面縦方向のヘラミガキ。
411	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	不良	底径　(8.4)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
412	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(8.0)	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリ？
413	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	やや不良	底径　(7.6)	－
414	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/6	やや不良	底径（10.5）	外面ヘラミガキ。
415	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部完存	やや不良	底径　10.3	－
416	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径（13.0）	外面縦方向のヘラミガキ。内面タテ方向のヘラケズリ。
417	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.4)	外面縦方向のヘラミガキ。内面タテ方向のヘラケズリ。
418	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径（18.8）	外面ヘラミガキ。内面ヘラケズリの後ナデ。
419	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部完存	不良	底径　4.0	ミニチュア土器？
420	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/2	良好	底径　(7.2)	外面ヘラミガキ？内面ヘラケズリ。
421	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部2/3	やや不良	底径　(6.5)	－
422	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(6.3)	外面ヘラミガキ。
423	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(6.8)	外面ヘラミガキ。内面ハケ？底部穿孔。
424	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.8)	外面縦方向のヘラミガキ。内面ナデ？底部穿孔。
425	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(7.2)	底部穿孔。
426	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/6	やや不良	底径　(7.0)	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ？底部穿孔。
427	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(7.0)	内面ヘラケズリ。底部穿孔。
428	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(6.8)	外面縦方向のヘラミガキ。
429	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径（11.0）	外面縦方向のヘラミガキ。
430	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/5	良好	底径　(7.0)	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
431	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(9.2)	内面ヘラケズリ。
432	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径（10.8）	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
433	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径（11.6）	内面ヘラケズリ。
434	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(9.5)	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
435	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/2	やや不良	底径　(9.2)	外面ヘラミガキ？
436	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径（13.0）	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
437	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	良好	底径　(5.5)	－
438	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	良好	底径　(7.0)	－
439	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部3/4	良好	底径　(8.0)	外面縦方向のヘラミガキ。内面ヘラケズリ。
440	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/8	やや不良	底径　(7.7)	外面ヘラケズリ。
441	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/4	やや不良	底径　(8.0)	外面ナデ？
442	南	造成・攪乱土	弥生土器	－	底部1/3	やや不良	底径（18.0）	－
443	南	造成・攪乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/7	良好	口径（11.7）	口縁部に５条の凹線。
444	南	造成・攪乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/12	やや不良	口径（19.0）	口唇部に２条の浅い凹線。
445	南	造成・攪乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（19.9）	杯部内面ヘラミガキ？
446	南	造成・攪乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/15	良好	口径（40.0）	杯部内面ヘラミガキとハケメ。杯部外面ハケののちヘラミガキ。口縁部に５条の凹線。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
447	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/8	良好	口径（20.8）	－
448	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/10	良好	口径（22.9）	口縁部に4条の凹線。杯部内面ヘラミガキ？
449	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	口縁部1/8	やや不良	口径（23.2）	杯部内外面ヘラミガキ。
450	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（10.6）	内面ヘラケズリ。三角形の透し孔は内側まで貫通しない。
451	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/8	やや不良	脚径（12.2）	内面ヘラケズリ。三角形の透し孔は内側に貫通しない。
452	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（13.6）	内面ヘラケズリ。ヘラ描き沈線。三角形の透し孔。
453	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/4	良好	脚径　（8.2）	内面ヘラケズリ。脚裾部に棒状工具による刺突文。
454	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/5	良好	脚径　（8.5）	外面ナデ。内面ヘラケズリ。
455	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/6	やや不良	脚径（11.3）	内面ヘラケズリ。
456	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/8	良好	脚径（10.5）	脚裾部に長さ7mmの沈線の列が巡る。
457	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/6	良好	脚径（10.5）	外面ハケメ。
458	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/4	良好	脚径（10.8）	－
459	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚部1/8	やや不良	脚径（23.0）	－
460	南	造成・撹乱土	弥生土器	高杯	脚柱部1/3	良好	－	内面ヘラケズリ。外面9条以上の櫛描き沈線。しぼり目。
461	南	造成・撹乱土	弥生土器	鉢	4/5	良好	口径　14.8 高さ　10.4 底径　5.5	内外面とも荒いヘラミガキ。
462	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	口縁部1/4	良好	口径（27.7）	－
463	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　（6.0）	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
464	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　（5.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面下部ヘラケズリ。
465	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（6.0）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
466	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　（6.6）	内面ナデ？
467	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	不良	脚径　5.7	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
468	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（6.7）	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面指頭圧痕。
469	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/6	良好	脚径　（7.0）	－
470	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（5.9）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
471	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　（8.0）	外面縦方向のヘラケズリ。
472	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（8.0）	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面指頭圧痕。
473	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（8.2）	脚内面ナデ？
474	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（9.4）	外面ヘラケズリ？。内面ナデ？
475	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　（7.4）	外面縦方向のヘラケズリ。
476	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　（6.8）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
477	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（7.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ？
478	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（7.1）	外面ヘラケズリ？
479	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/5	良好	脚径（11.4）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ？
480	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　（7.6）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
481	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　（8.6）	外面縦方向のヘラケズリ。内面一部ヘラケズリ。
482	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　（8.3）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ。

（　）内は復元値

番号	区	遺構・土層	種　別	器　種	残存度	焼　成	法量(cm)	調整・特徴・備考
483	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	やや不良	脚径　(9.0)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
484	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　(8.3)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
485	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	やや不良	脚径　8.7	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
486	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.2	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面ヘラケズリ。円盤充填。
487	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	やや不良	脚径　(6.9)	外面縦方向のヘラケズリ。
488	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径（10.0）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
489	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(8.2)	外面縦方向のヘラケズリ。
490	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　8.5	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
491	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	やや不良	脚径　(8.4)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ？指頭圧痕。
492	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径　(8.2)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ヘラケズリ。
493	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/2	良好	脚径　(8.5)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
494	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　9.3	脚内面ナデ？円盤充填。
495	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/3	良好	脚径　(9.8)	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面未調整。
496	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/5	良好	脚径　(7.4)	外面縦方向のヘラケズリ。指頭圧痕。
497	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　7.9	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面ナデ。円盤充填。
498	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部2/3	良好	脚径　(8.0)	外面縦方向のヘラケズリ。
499	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　8.3	外面縦方向のヘラケズリ。脚内面ハケメ。円盤充填。
500	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部完存	良好	脚径　8.9	外面縦方向のヘラケズリ。円盤充填。
501	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	不良	脚径　(9.0)	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ。
502	南	造成・撹乱土	弥生土器	台付鉢	脚部1/4	良好	脚径（11.6）	外面縦方向のヘラケズリ。内面ナデ？
503	南	造成・撹乱土	土師器	製塩土器	脚部完存	良好	脚径　4.4	脚外面に指頭圧痕。
504	南	造成・撹乱土	土師器	製塩土器	脚部1/2	やや不良	脚径　(2.8)	外面タタキ目。
505	南	造成・撹乱土	須恵器	壺	底部1/4	良好	底径　(8.0)	－
506	南	造成・撹乱土	土師器	土鍋	口縁部1/8	良好	口径（19.4）	外面ハケメ。指頭圧痕。内面ナデ。
507	南	造成・撹乱土	土師器	土鍋	－	良好	長さ　13.9	足部。
508	南	造成・撹乱土	土師器	土鍋	－	良好	長さ　6.9	足部。

（　）内は復元値

2．土製品観察表

番号	区	遺構・土層名	種　別	残存度	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	特徴・備考
316	南	包含層	土錘	完形	6.0	2.9	—	0.75	54.5	—
317	南	包含層	土錘	完形	5.3	2.7	—	0.70	50.0	黒斑。
318	南	包含層	土錘	ほぼ完形	5.6	2.7	—	0.70	48.0	黒斑。
319	南	包含層	土錘	ほぼ完形	5.6	2.9	—	0.70	53.5	黒斑。
320	南	包含層	土錘	完形	5.5	2.9	—	0.70	55.7	黒斑。
321	南	包含層	土錘	完形	5.5	3.0	—	0.70	50.8	黒斑。
322	南	包含層	分銅形土製品	—	(3.2)	—	1.0	—	17.1	—
323	南	包含層	分銅形土製品	—	(3.7)	—	1.2	—	23.7	—
373	南	自然流路	土錘	完形	5.2	2.7	—	0.55	41.1	—
374	南	自然流路	土錘	完形	5.5	2.8	—	0.70	51.7	黒斑。
375	南	自然流路	有孔土版	—	(4.3)	—	0.50	0.90	7.0	—
376	南	自然流路	分銅形土製品	半欠	(3.3)	4.4	0.9	—	11.8	—
377	南	自然流路	分銅形土製品	半欠	(3.6)	5.4	1.1	—	13.6	—
509	南	造成・撹乱土	紡錘車	半欠	—	4.1	0.6	0.6	7.5	土器片利用

（　）内は現存値

3．石器組成表

地区	層位	石鏃	石鏃未製品	石槍	石槍？	石包丁	石包丁？	石鎌	石匙	石錐	スクレイパー	加工痕剥片	使用痕剥片	楔形石器	不明石器	石核	剥片	石錘	砥石	計	重量(g)
確認調査		2				1					2						12			17	170.0
北区	溝	1															1			2	3.5
	土壙	2															1			3	6.7
	池状遺構					1						1		1	1		14			18	175.5
	土器溜り											2	1				2			5	36.6
	包含層	6	1			1					5	6	6	2	1		41			69	589.9
南区	遺構	1												1			18			20	44.2
	包含層	33	10	1	1	1	6				13	21	4	18	3	8	805	1	1	926	2442.8
	自然流路	5	5			4	3		1	1	10	7	2	5	10	4	163			220	1538.2
	造成・撹乱土	9	4			5		1			13	10	3	11	11	8	215			290	2351.6
	他																3			3	12.0
	計	59	20	1	1	13	9	1	1	1	43	47	16	38	26	20	1275	1	1	1573	7371.0

重量はサヌカイトのみ（石錘・砥石は含まない）

4．石器一覧表

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
1	-	トレンチ1	石鏃	サヌカイト	3.20	2.13	0.53	2.9	81
2	-	トレンチ1	石鏃	サヌカイト	(1.85)	1.76	0.34	1.6	82
3	-	トレンチ2	石包丁	サヌカイト	4.48	(8.94)	0.92	51.8	83
-	-	トレンチ2	スクレイパー	サヌカイト	4.01	4.25	0.61	11.7	295
-	-	トレンチ4	スクレイパー	サヌカイト	6.48	5.04	0.62	29.5	296
4	北	溝2	石鏃	サヌカイト	(2.26)	1.14	0.32	1.0	3
5	北	土壙1	石鏃	サヌカイト	3.67	(1.98)	0.36	1.6	84
6	北	土壙2	石鏃	サヌカイト	2.59	(1.40)	0.38	1.3	39
7	北	池状遺構	石包丁	サヌカイト	6.18	9.93	1.27	91.5	73
-	北	池状遺構	加工痕剥片	サヌカイト	2.67	4.40	0.98	11.2	88
-	北	池状遺構	楔形石器	サヌカイト	3.35	4.24	1.17	16.6	86
-	北	池状遺構	不明石器	サヌカイト	3.18	2.78	0.98	10.9	87
-	北	土器溜り	加工痕剥片	サヌカイト	2.26	5.02	0.58	6.8	89
-	北	土器溜り	加工痕剥片	サヌカイト	3.47	3.63	0.64	8.9	105
-	北	土器溜り	使用痕剥片	サヌカイト	3.07	3.94	0.52	5.8	85
8	北	包含層	石鏃	サヌカイト	1.46	1.38	0.21	0.4	61
9	北	包含層	石鏃	サヌカイト	1.86	1.12	0.29	0.7	19
10	北	包含層	石鏃	サヌカイト	2.78	1.42	0.32	1.5	28
11	北	包含層	石鏃	サヌカイト	2.56	1.40	0.34	1.1	2
12	北	包含層	石鏃	サヌカイト	2.68	1.92	0.31	1.4	8
13	北	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.55)	1.72	0.34	1.5	30
-	北	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	1.78	1.12	0.28	0.6	111
14	北	包含層	石包丁	サヌカイト	4.56	11.50	1.26	76	63
-	北	包含層	スクレイパー	サヌカイト	2.97	4.87	0.90	14.6	93
-	北	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.36	4.40	0.90	13.8	101
-	北	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.08	3.01	0.59	6.9	104
-	北	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.13	4.20	0.52	5.5	106
-	北	包含層	スクレイパー	サヌカイト	5.42	5.77	0.73	27.1	107
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	4.52	6.89	0.69	20.1	95
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.62	1.92	0.45	2.2	97
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.34	5.42	0.95	20.9	99
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.79	3.26	0.75	10	92
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.98	4.64	0.71	9.3	108
-	北	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.06	6.88	1.04	19.3	109
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	4.46	7.60	0.86	25.6	90
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	4.65	9.23	0.82	34.5	96
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	3.83	3.31	0.79	7.9	98
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	2.56	4.38	0.62	5.5	102
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	2.28	4.95	1.25	11.5	103
-	北	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	3.82	2.53	0.55	4.9	110
-	北	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.88	3.23	0.86	8.4	91
-	北	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.91	2.44	0.60	5.6	100
-	北	包含層	不明石器	サヌカイト	3.05	3.18	1.28	15.4	94
15	南	ピット7	石鏃	サヌカイト	(1.94)	1.80	0.42	1.2	22
-	南	ピット5	楔形石器	サヌカイト	3.31	3.34	1.47	15.3	246
16	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.19	1.14	0.30	0.9	18
17	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.62)	(2.01)	0.37	2.1	24
18	南	包含層	石鏃	サヌカイト	3.29	(2.10)	0.40	2.1	17
19	南	包含層	石鏃	サヌカイト	3.74	2.01	0.47	2.9	13
20	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(4.39)	(1.60)	0.36	2.1	23

（　）内は現存値

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
21	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.31	1.86	0.48	1.4	21
22	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.50	(2.00)	0.50	1.8	16
23	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.16	1.47	0.30	0.9	14
24	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(1.98)	1.42	0.35	0.9	7
25	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.47)	(1.72)	0.40	1.4	12
26	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.83	1.88	0.46	1.6	10
27	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.89	1.58	0.43	1.7	4
28	南	包含層	石鏃	サヌカイト	1.70	1.33	0.28	0.5	33
29	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(1.60)	1.40	0.42	0.9	34
30	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.32	1.59	0.32	1.2	36
31	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.39	1.84	0.48	1.4	37
32	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(1.76)	1.84	0.42	1.1	49
33	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.40	(1.67)	0.32	1.4	44
34	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.38	1.52	0.23	0.9	41
35	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(1.90)	1.49	0.32	0.8	42
36	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.80	1.88	0.40	1.6	45
37	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.86	1.80	0.44	1.9	46
38	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.84	1.52	0.48	2.1	5
39	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.43)	1.31	0.42	1.4	29
40	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.80	1.86	0.59	2.9	38
41	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.90	1.82	0.48	2.1	50
42	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.53)	2.58	0.56	3.9	25
43	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.52	1.29	0.46	1.4	51
44	南	包含層	石鏃	サヌカイト	2.60	1.16	0.39	1.0	52
45	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(3.00)	1.22	0.30	1.0	53
46	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.43)	(1.67)	0.39	1.4	58
47	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(2.04)	(1.40)	0.28	0.7	56
48	南	包含層	石鏃	サヌカイト	(1.58)	(1.16)	0.34	0.6	57
49	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	3.00	2.35	0.51	2.8	31
50	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	3.18	1.30	0.40	1.6	32
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	(3.53)	3.50	0.42	6.0	176
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	(1.12)	1.72	0.23	0.6	177
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	1.73	2.01	0.29	1.2	182
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	1.56	1.96	0.33	1.3	203
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	(2.41)	(2.18)	0.42	2.3	229
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	2.28	2.97	0.45	3.1	233
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	2.75	1.74	0.36	1.4	293
-	南	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	1.30	1.24	0.33	0.6	294
51	南	包含層	石槍	サヌカイト	8.42	2.26	1.04	18.2	1
-	南	包含層	石槍?	サヌカイト	(5.54)	2.95	0.90	19.4	217
52	南	包含層	石包丁	サヌカイト	5.21	7.50	0.64	30.3	68
53	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	(4.86)	(7.71)	0.86	37.2	74
-	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	3.67	(5.13)	0.98	22.8	181
-	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	(3.95)	(3.83)	0.85	14.3	206
-	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	4.20	(3.73)	0.86	15.4	219
-	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	4.16	(6.85)	1.29	40.4	224
-	南	包含層	石包丁?	サヌカイト	3.73	(4.78)	0.79	17.3	234
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.56	5.34	0.80	14.6	186
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.67	4.94	0.79	16.1	187
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	2.64	2.85	0.60	5.2	188
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	1.84	2.59	0.68	3.5	202
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	2.57	4.17	0.43	4.0	207

（　）内は現存値

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	(3.28)	(3.81)	0.75	8.9	208
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	(2.86)	(4.39)	0.97	12.6	212
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	(3.35)	(2.56)	0.59	5.1	213
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.46	4.97	1.13	25.3	214
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	2.11	1.78	0.31	1.2	216
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	4.03	7.05	1.59	36.8	225
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.19	(2.50)	0.56	3.7	235
-	南	包含層	スクレイパー	サヌカイト	3.20	3.27	0.81	7.3	236
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.96	5.07	0.90	15.8	172
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.66	3.85	0.74	7.0	173
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.51	3.70	1.29	14.6	174
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.85	3.30	0.87	8.6	175
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.06	3.40	0.85	6.4	193
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.47	3.48	0.49	4.8	199
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	1.87	2.84	0.44	1.9	200
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	1.39	2.63	0.43	2.1	201
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.74	4.98	1.09	22.2	210
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	5.85	6.03	1.36	53.2	211
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	1.69	2.27	0.40	1.6	218
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.29	2.74	0.36	2.3	222
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.17	2.94	7.00	8.2	226
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	4.70	4.99	0.67	15.5	228
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.84	1.24	2.22	7.9	231
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	2.67	3.67	0.70	8.1	237
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	1.82	(1.80)	2.40	0.9	238
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.85	3.91	0.83	14.3	240
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	4.08	4.46	1.04	22.1	241
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	3.73	7.15	0.67	17.4	242
-	南	包含層	加工痕剥片	サヌカイト	1.96	3.03	0.48	2.3	292
-	南	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	3.66	4.10	0.53	7.9	185
-	南	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	2.71	4.59	0.54	7.1	192
-	南	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	3.54	3.62	0.80	9.3	220
-	南	包含層	使用痕剥片	サヌカイト	4.13	(5.47)	0.74	11.6	244
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.53	1.43	1.09	4.4	170
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.66	3.40	0.59	6.8	171
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.24	2.78	0.62	4.8	183
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	1.68	2.32	0.34	1.5	184
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.63	2.04	0.65	4.5	191
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	1.50	1.88	0.56	1.6	197
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.60	2.80	0.58	4.5	198
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.12	1.54	0.51	2.2	204
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	1.93	1.56	0.60	2.0	205
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.58	2.54	6.80	6.8	209
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.59	2.23	0.60	4.1	221
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	3.40	1.85	0.76	5.1	223
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	1.85	1.91	0.85	2.6	232
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	3.39	2.85	0.91	8.5	239
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.34	2.17	0.66	4.5	243
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	3.32	3.97	0.89	17.1	245
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	2.59	2.62	0.90	7.6	290
-	南	包含層	楔形石器	サヌカイト	1.81	1.27	0.58	1.4	291
-	南	包含層	不明石器	サヌカイト	(3.10)	(3.89)	0.90	8.7	180

（　）内は現存値

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
-	南	包含層	不明石器	サヌカイト	(1.37)	(3.17)	0.42	2.0	194
-	南	包含層	不明石器	サヌカイト	2.24	3.46	0.79	5.8	195
-	南	包含層	石核	サヌカイト	3.26	4.38	1.00	15.0	178
-	南	包含層	石核	サヌカイト	3.51	4.55	3.32	60.0	179
-	南	包含層	石核	サヌカイト	3.04	7.79	3.66	62.9	189
-	南	包含層	石核	サヌカイト	5.44	3.84	2.32	53.2	190
-	南	包含層	石核	サヌカイト	4.42	4.43	1.12	38.8	196
-	南	包含層	石核	サヌカイト	2.45	4.27	0.64	6.6	215
-	南	包含層	石核	サヌカイト	4.58	7.48	1.24	41.1	227
-	南	包含層	石核	サヌカイト	4.15	4.27	1.29	21.3	230
-	南	包含層	石錘	粘板岩	(6.93)	6.80	1.73	102.8	297
-	南	包含層	砥石	砂石	(9.70)	(6.00)	(6.60)	597.4	298
54	南	自然流路	石鏃	サヌカイト	2.26	(1.74)	0.34	1.3	15
55	南	自然流路	石鏃	サヌカイト	(2.00)	2.06	0.46	1.6	48
56	南	自然流路	石鏃	サヌカイト	2.35	1.56	0.35	1.2	43
57	南	自然流路	石鏃	サヌカイト	2.50	1.70	0.47	1.7	47
58	南	自然流路	石鏃	サヌカイト	4.35	1.42	0.44	2.7	54
-	南	自然流路	石鏃未製品	サヌカイト	2.43	4.13	0.68	7.1	262
-	南	自然流路	石鏃未製品	サヌカイト	3.24	2.21	0.51	4.4	263
-	南	自然流路	石鏃未製品	サヌカイト	2.86	2.05	0.49	3.5	264
-	南	自然流路	石鏃未製品	サヌカイト	2.76	2.08	0.43	2.6	265
-	南	自然流路	石鏃未製品	サヌカイト	3.44	(1.71)	0.37	1.9	266
60	南	自然流路	石包丁	サヌカイト	5.06	(11.11)	1.22	73.0	67
61	南	自然流路	石包丁	サヌカイト	4.05	9.48	0.98	42.3	65
62	南	自然流路	石包丁	サヌカイト	3.22	(4.86)	0.56	10.9	71
63	南	自然流路	石包丁	サヌカイト	4.80	11.46	0.72	61.7	72
64	南	自然流路	石包丁?	サヌカイト	5.00	7.40	1.06	33.4	69
65	南	自然流路	石包丁?	サヌカイト	3.99	8.99	0.83	42.9	75
-	南	自然流路	石包丁?	サヌカイト	(4.12)	(3.67)	1.21	32.6	261
66	南	自然流路	石匙	サヌカイト	4.51	8.36	0.97	39.6	77
59	南	自然流路	石錐	サヌカイト	4.05	1.90	0.47	3.2	78
67	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	5.82	9.26	1.42	72.3	80
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	4.23	7.64	1.28	38.0	249
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	3.64	3.91	0.77	11.9	250
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	3.15	3.93	0.59	9.2	251
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	4.58	2.23	0.47	7.4	252
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	3.49	3.21	0.71	9.4	253
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	4.57	3.78	1.06	18.2	254
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	3.71	3.63	0.49	7.1	255
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	4.30	3.85	1.28	22.7	267
-	南	自然流路	スクレイパー	サヌカイト	5.77	3.58	0.76	13.5	270
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	6.94	11.60	1.04	71.1	247
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	1.27	3.04	0.60	2.0	248
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	5.41	3.71	0.86	15.5	256
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	4.22	3.34	0.63	9.5	257
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	3.18	4.62	0.71	11.7	258
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	2.63	3.64	0.57	5.1	259
-	南	自然流路	加工痕剥片	サヌカイト	4.72	5.42	1.43	45.3	260
-	南	自然流路	使用痕剥片	サヌカイト	3.81	4.95	0.89	10.3	268
-	南	自然流路	使用痕剥片	サヌカイト	3.27	2.49	0.49	4.3	269
-	南	自然流路	楔形石器	サヌカイト	3.52	3.50	0.90	13.6	272
-	南	自然流路	楔形石器	サヌカイト	2.29	2.22	0.59	3.7	273

（　）内は現存値

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
-	南	自然流路	楔形石器	サヌカイト	2.75	2.10	0.91	5.3	274
-	南	自然流路	楔形石器	サヌカイト	2.37	2.81	0.61	5.1	275
-	南	自然流路	楔形石器	サヌカイト	2.94	2.08	0.71	6.2	276
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	3.93	4.97	0.90	16.4	271
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	(3.67)	(2.74)	0.76	5.8	277
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	2.99	3.83	0.92	11.8	278
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	3.31	3.11	0.66	5.7	279
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	1.61	1.59	0.59	1.3	280
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	6.54	2.70	1.26	24.6	281
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	5.57	3.37	1.10	18.8	282
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	1.96	1.64	0.58	1.9	283
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	1.89	(1.42)	0.39	1.0	284
-	南	自然流路	不明石器	サヌカイト	1.30	(1.56)	0.37	0.8	285
-	南	自然流路	石核	サヌカイト	6.72	5.39	1.58	73.0	286
-	南	自然流路	石核	サヌカイト	3.49	3.65	0.85	11.3	287
-	南	自然流路	石核	サヌカイト	4.65	3.60	0.77	18.8	288
-	南	自然流路	石核	サヌカイト	(4.85)	7.27	1.15	46.0	289
68	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	(1.40)	1.50	0.30	0.7	6
69	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	3.14	2.00	0.32	1.9	9
70	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	3.21	(1.80)	0.46	2.3	11
71	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	(3.10)	2.79	0.60	6.0	26
72	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	2.05	(1.63)	0.42	1.1	35
73	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	2.28	1.40	0.30	0.9	40
74	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	(1.88)	1.36	0.22	0.7	20
75	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	(1.60)	(1.94)	0.29	0.9	59
76	南	造成・撹乱土	石鏃	サヌカイト	(3.00)	2.30	0.60	4.3	27
77	南	造成・撹乱土	石鏃未製品	サヌカイト	4.66	1.56	0.44	3.7	55
-	南	造成・撹乱土	石鏃未製品	サヌカイト	4.19	2.16	0.63	5.2	118
-	南	造成・撹乱土	石鏃未製品	サヌカイト	2.27	3.73	0.69	5.2	135
-	南	造成・撹乱土	石鏃未製品	サヌカイト	1.84	1.91	0.49	1.8	136
78	南	造成・撹乱土	石包丁	サヌカイト	5.90	13.56	1.10	109.9	62
79	南	造成・撹乱土	石包丁	サヌカイト	4.22	11.34	0.83	58.7	64
80	南	造成・撹乱土	石包丁	サヌカイト	(4.22)	7.84	1.16	47.4	66
81	南	造成・撹乱土	石包丁	サヌカイト	(3.71)	(6.50)	0.70	26.0	70
-	南	造成・撹乱土	石包丁	サヌカイト	(5.01)	(9.22)	(1.41)	58.3	115
82	南	造成・撹乱土	石鎌	サヌカイト	2.74	8.33	0.86	24.4	76
83	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	3.84	8.98	0.83	40.9	79
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	4.94	(2.50)	1.18	12.7	116
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	5.05	5.56	0.83	19.7	122
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	6.65	7.99	1.67	84.1	130
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	4.87	6.95	1.15	39.8	131
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	(4.16)	(3.73)	0.87	7.3	133
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	4.40	6.63	1.06	30.3	140
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	(1.38)	(2.82)	(0.49)	1.3	143
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	(3.70)	(2.94)	(0.46)	3.4	150
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	2.83	4.07	0.88	9.9	154
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	4.20	5.42	1.45	28.7	158
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	3.25	(3.38)	0.61	6.8	159
-	南	造成・撹乱土	スクレイパー	サヌカイト	2.89	2.21	0.55	5.0	165
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	2.57	3.40	0.65	5.3	117
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	5.46	8.15	1.43	41.3	127
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	3.52	3.05	0.95	8.5	128

（　）内は現存値

番号	区	遺構・土層名	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	整理番号
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	2.53	2.34	0.66	3.2	142
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	3.91	(3.01)	1.02	12.2	147
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	2.61	2.44	0.84	5.3	155
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	1.97	3.12	0.48	3.2	156
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	2.70	1.76	0.55	3.0	157
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	4.96	4.43	0.99	23.7	162
-	南	造成・撹乱土	加工痕剥片	サヌカイト	1.67	2.83	0.54	2.3	163
-	南	造成・撹乱土	使用痕剥片	サヌカイト	5.86	7.48	0.97	47.1	124
-	南	造成・撹乱土	使用痕剥片	サヌカイト	3.31	4.10	0.40	4.9	141
-	南	造成・撹乱土	使用痕剥片	サヌカイト	3.01	5.02	0.76	10.2	153
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	4.37	3.65	0.93	19.2	119
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	1.86	2.08	0.50	2.3	120
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	2.77	2.77	0.74	6.0	125
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	3.09	3.15	0.80	11.1	129
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	3.38	5.20	0.86	15.7	134
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	2.40	2.79	0.72	4.4	137
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	3.40	3.99	1.36	13.7	138
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	3.56	3.52	1.20	13.7	160
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	3.22	2.56	0.52	4.8	164
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	2.81	2.21	0.65	5.0	166
-	南	造成・撹乱土	楔形石器	サヌカイト	4.26	4.04	1.16	28.2	167
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	1.67	2.15	0.44	1.5	60
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	1.90	2.75	0.62	3.5	112
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	6.14	4.66	1.42	44.7	121
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	2.73	1.70	1.15	6.2	126
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	1.97	2.34	0.86	3.8	139
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	1.77	2.84	0.52	2.0	144
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	(1.85)	(2.29)	(5.58)	2.1	145
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	2.05	2.30	0.85	3.8	146
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	2.03	3.97	0.55	3.9	148
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	1.86	3.79	0.60	4.3	149
-	南	造成・撹乱土	不明石器	サヌカイト	2.25	3.17	0.63	6.1	152
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	3.67	3.05	1.32	18.9	113
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	3.63	5.43	0.95	21.9	114
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	3.71	5.54	11.00	25.3	123
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	4.68	11.79	1.87	140.0	132
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	3.20	(2.44)	1.23	9.7	151
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	9.37	7.13	2.02	169.1	161
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	5.81	8.65	1.05	63.0	168
-	南	造成・撹乱土	石核	サヌカイト	2.87	3.44	0.75	7.6	169

(　) 内は現存値

図　　版

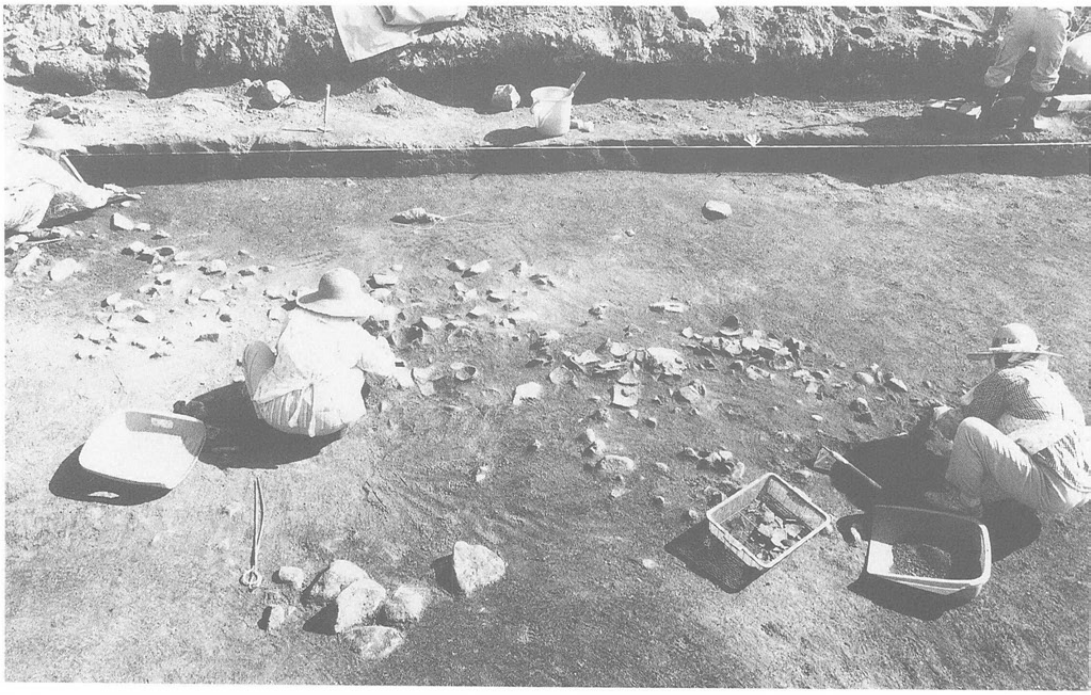
図版1　北　区

1. 溝2検出状況
（西から）

2. 溝2須恵器出土
状況（北から）

3. 調査区東端土壙・
溝群（北から）

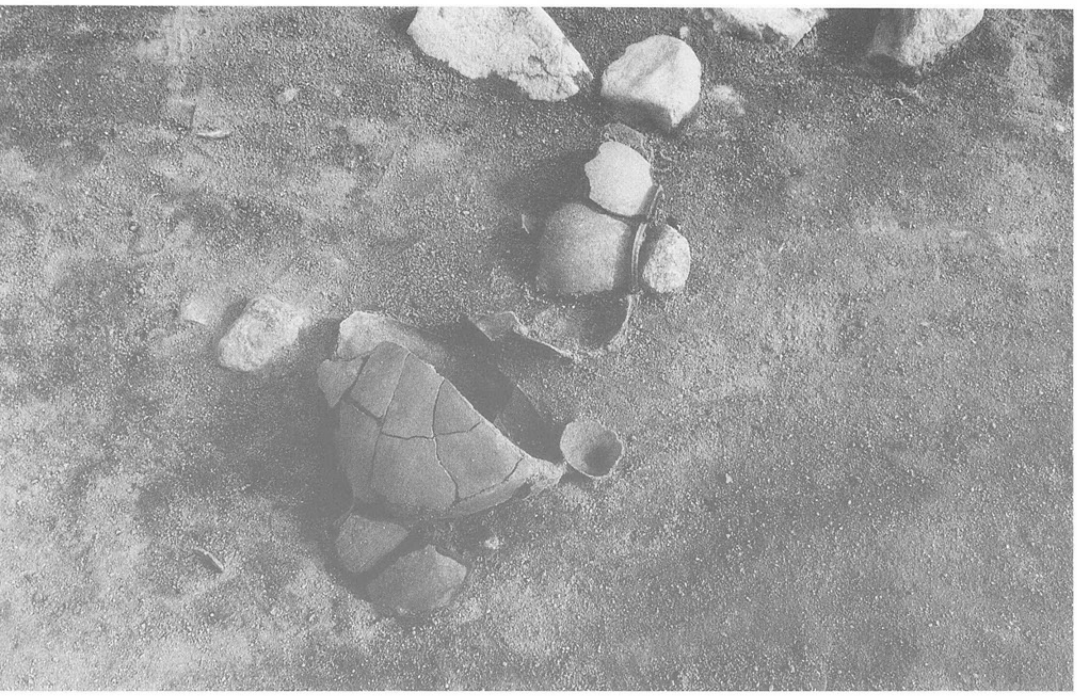
1. 土壙1検出状況
（北から）



2. 土器溜り検出作業
（北から）

3. 池状遺構検出
状況（西から）

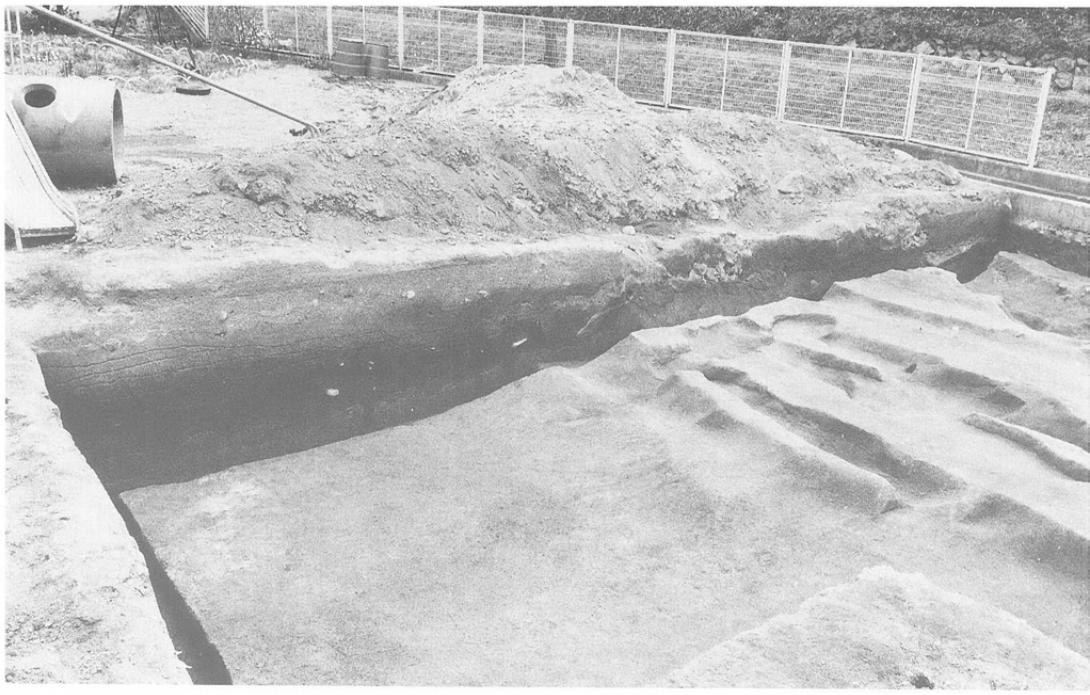
図版3　北　区



1. 土器溜り土器出土
状況（北から）

2. 礫層検出状況
（東から）

3. 中央トレンチ西壁
断面（東から）

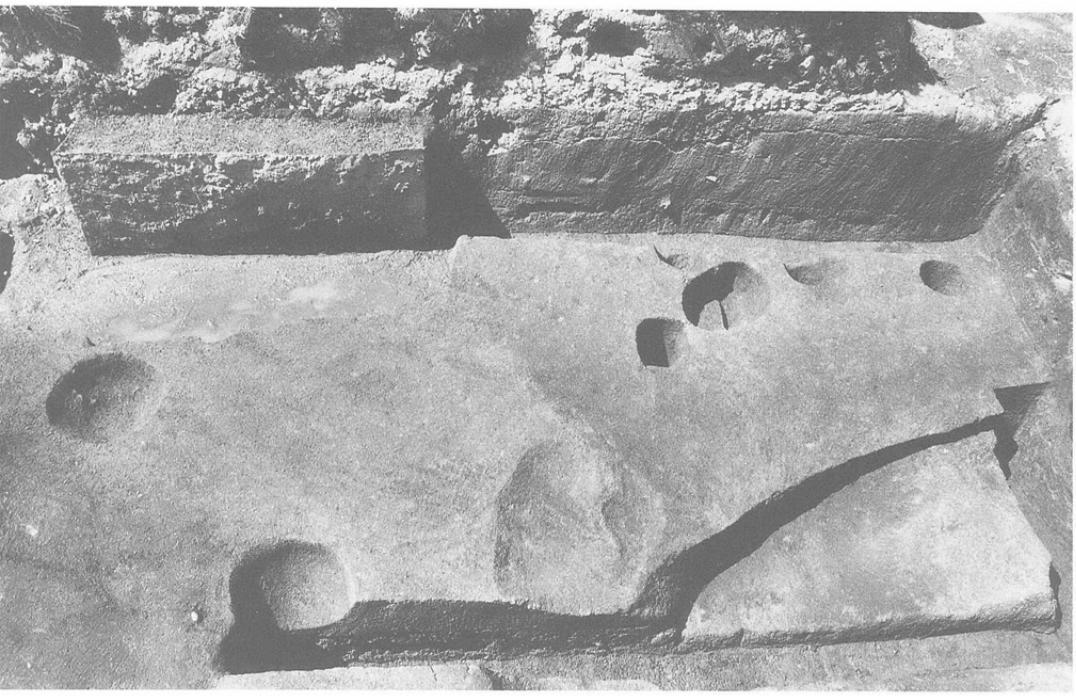


1. 調査区東壁断面
（西から）

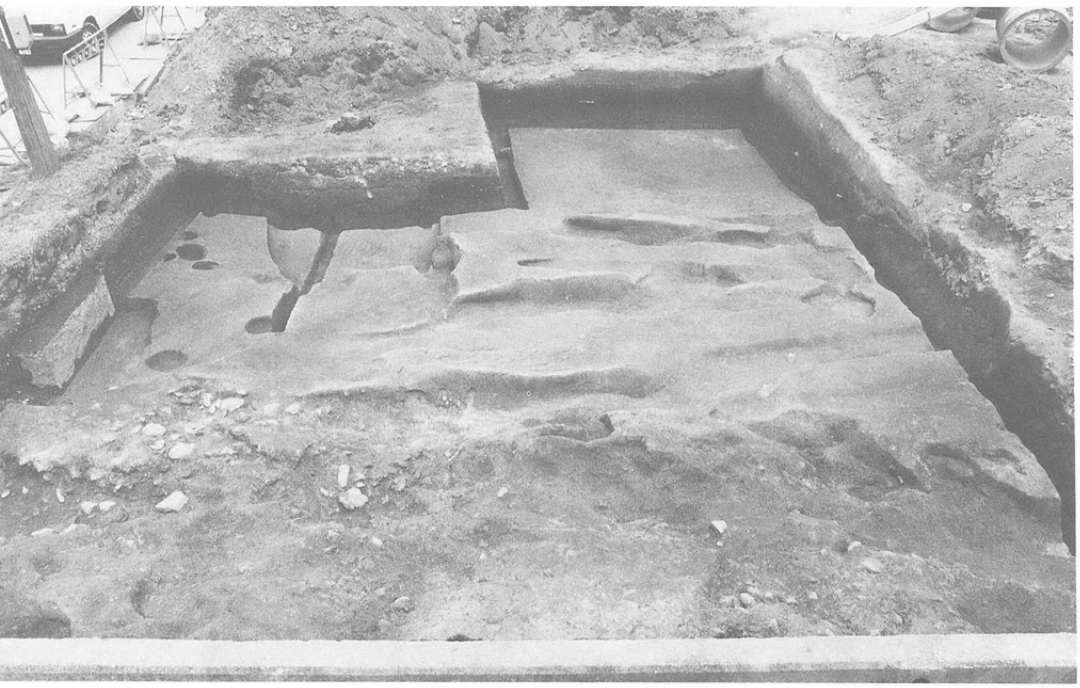
2. 調査区北壁東半
断面（南から）

3. 調査区北壁西半
断面（南から）

図版5　南　区



1. 西半ピット群検出
状況（東から）

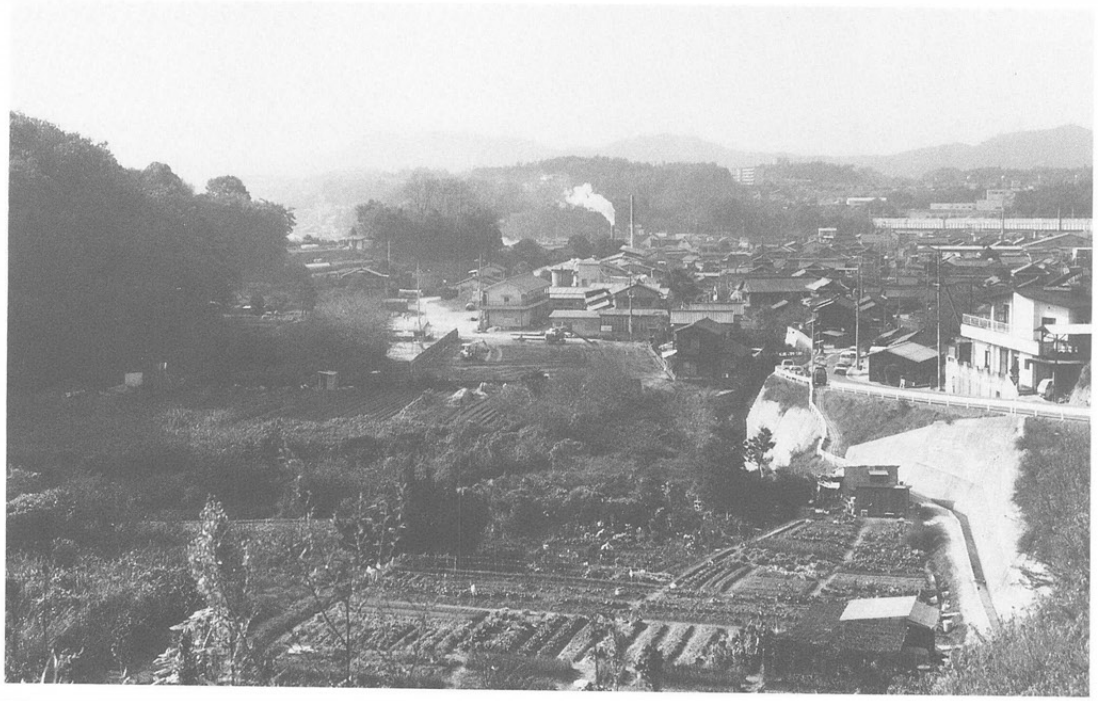


2. 調査終了後
（南から）

3. 調査終了後
（北から）

1. 調査区全景
（北から）

2. 作業風景



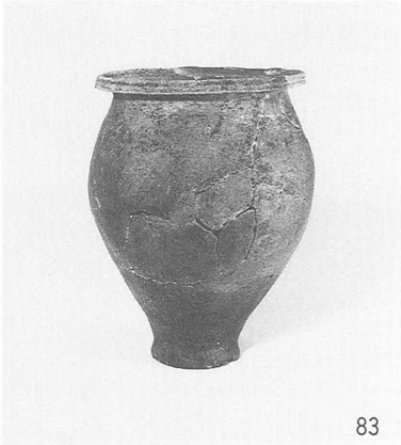
3. 遺跡遠景
（写真中央）

図版 7　出土土器(1)

68

126

84


83

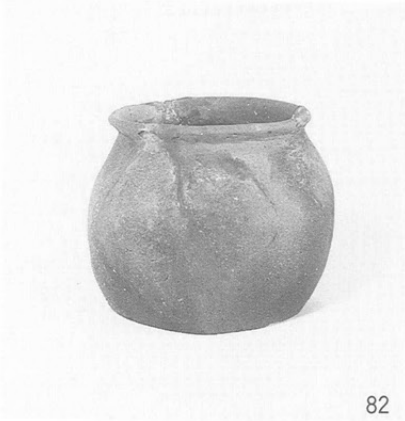
172

173

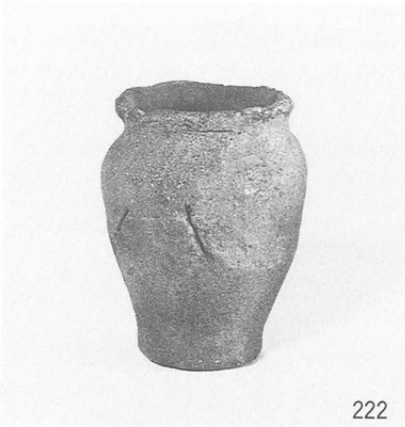
69

110

461


82

113

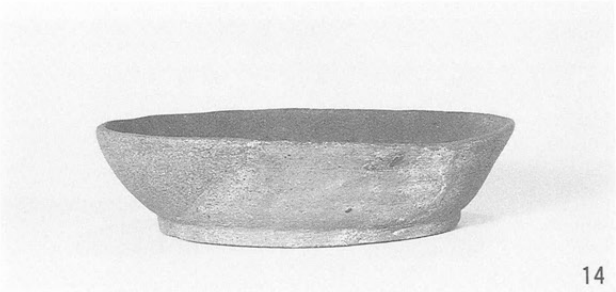

222

224

205

図版 9　出土土器(3)

15

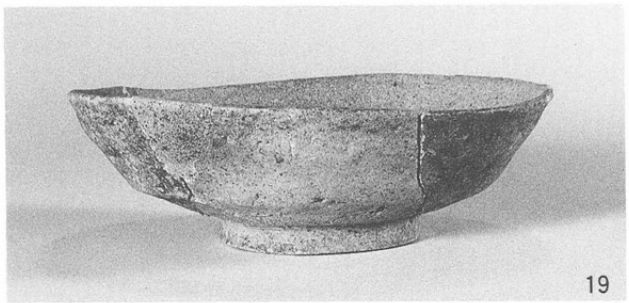

14

371

16

17

18


19

20

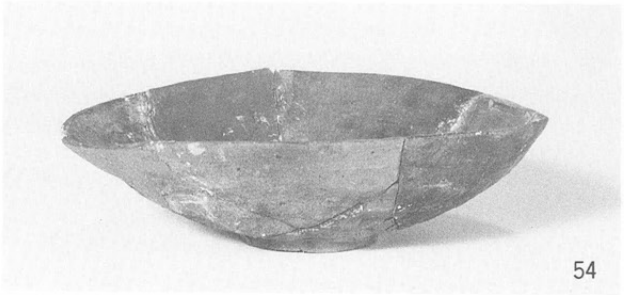
22

23

24

52

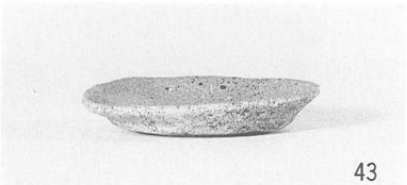
53


54

64

40

42


43

44

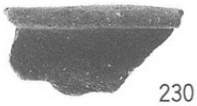
45

46

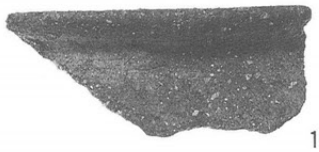
48

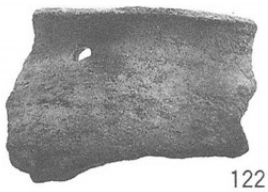
49

図版11　出土土器(5)


230

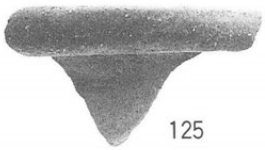
132


133

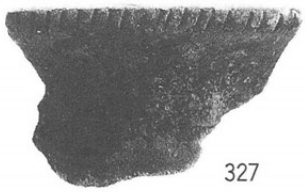

122

124

123


125

131


327

387

381

336

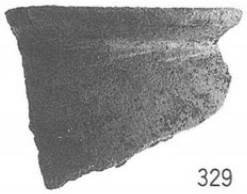
397

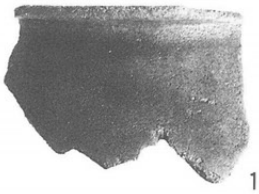
397

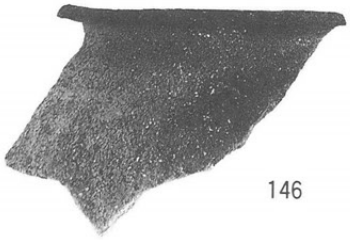
399

400

142


329


135

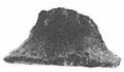

146

71

309

311

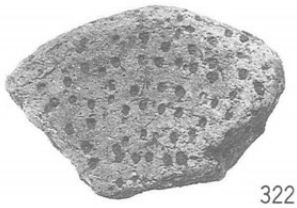
310

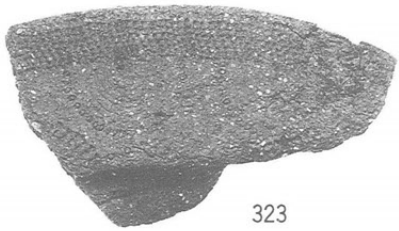

503

504

312

図版13　出土土製品


322


323

376

377

375

509

373

316

317

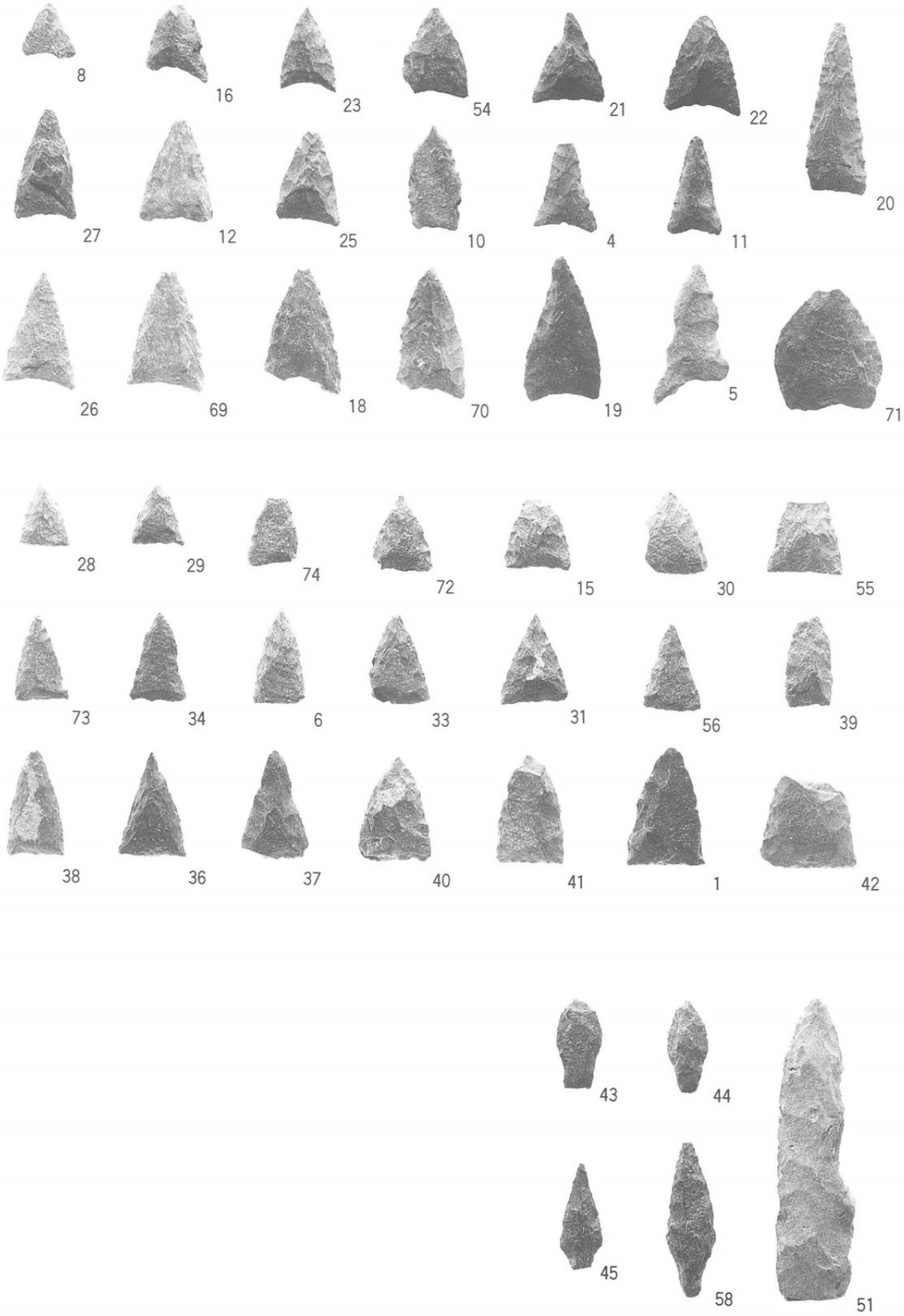
318

374

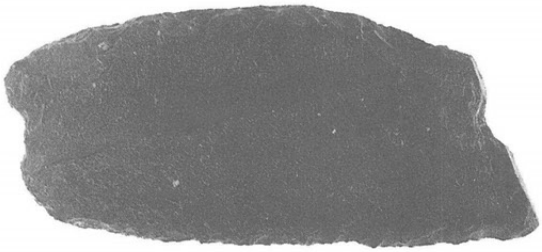
319

320

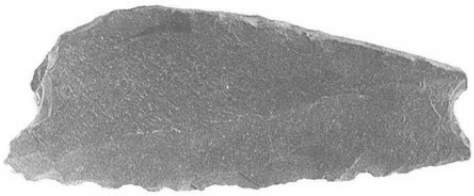
321

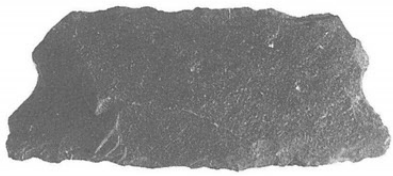

8
16
23
54
21
22
20
27
12
25
10
4
11
26
69
18
70
19
5
71
28
29
74
72
15
30
55
73
34
6
33
31
56
39
38
36
37
40
41
1
42
43
44
45
58
51

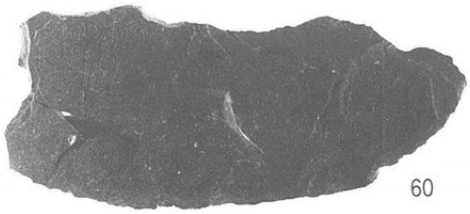
図版15　出土石器（2）


78

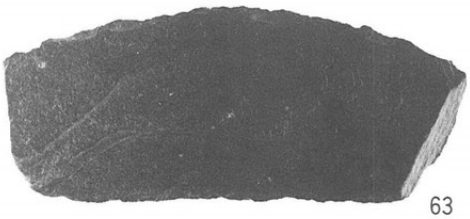
79


14

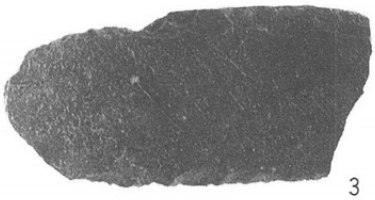

61

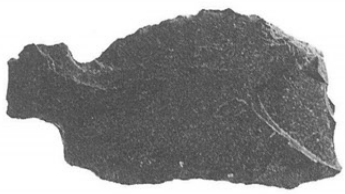

60

80


63

52


3


66

報告書妙録

ふりがな	いけじりいせき
書名	池尻遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第6集
編著者名	福本　明・鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二
編集機関	倉敷埋蔵文化財センター
所在地	〒712　岡山県倉敷市福田町古新田940番地　TEL　086-454-0600
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
池尻遺跡（いけじりいせき）	岡山県倉敷市（おかやまけんくらしきし） 児島上の町字（こじまかみのちょうあざ） 積泉（しゃくぜん）	33202	6−130	34° 29′ 08″	133° 49′ 29″	19940611～19941125 19950308～19950405	375m²	市立上の町保育園改築工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池尻遺跡	集落 生産遺跡？	弥生時代中期	溝　2条 ピット　10基	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、土製品（分銅形土製品・紡錘車・土錘・有孔土版）、石器（石鏃・石包丁・スクレイパー・石鎌・石槍）	弥生時代製塩土器の最古型式が出土
		奈良時代	溝　1条		
		中世	池状遺構　1基		

池尻遺跡
倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告　第6集

平成9年3月31日　印刷発行

編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
〒712　岡山県倉敷市福田町古新田940番地
TEL 086-454-0600

印　刷
クニフク（株）

The Excavation Report
Of
Ikejiri Site In Kojima

Volume 6

Kurashiki
Archaeological Center

March 1997